特1
434

NEW TESTAMENT.

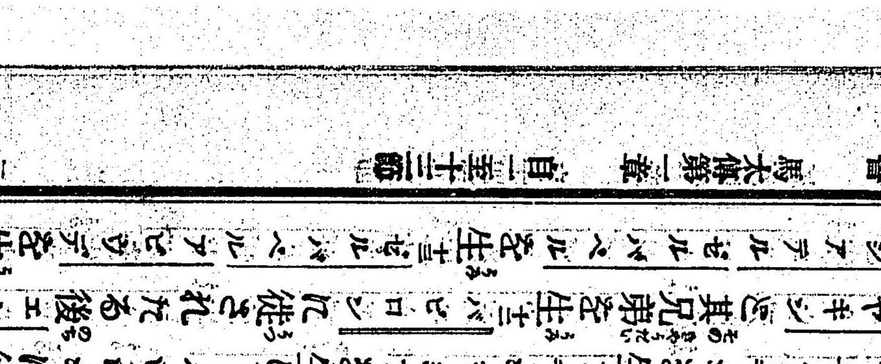
新約全書

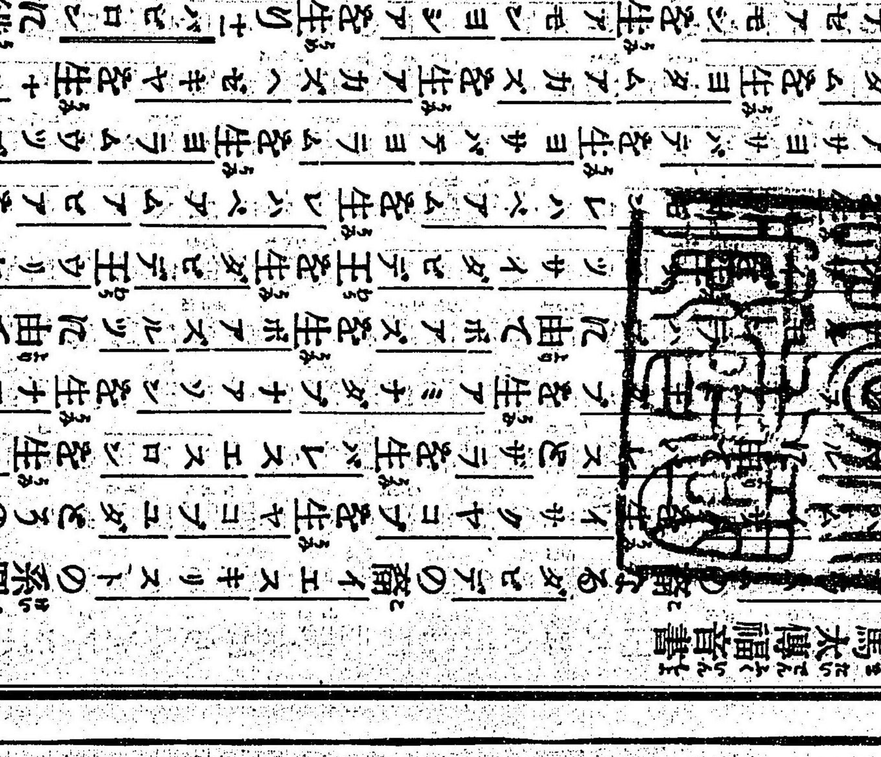
大日本聖書館發行

橫濱山下町六十番

PUBLISHED
BY THE
BIBLE SOCIETIES' COMMITTEE
FOR
JAPAN.

新約全書馬太傳福音書





十四 リアキンを生エリアキンアゾルを生アゾルザドクを生ザドクアキムを
十五 生アキムエリウデを生エリウデエリアザルを生エリアザルマツタンを
十六 生マツタンヤコブを生ヤコブマリアの夫ヨセフを生り此マリアよりキ
十七 リストと稱るイエス生れ給ひき○其世系を數れバアブラハムよりダビデ
に至るまで十四代ダビデよりバビロンに徙さるゝ時まで十四代バビロン
十八 に徙されしよりキリストまで十四代なり○扨イエスキリストの生れ
給るてと左の如し其母マリアハヨセフと聘定を爲るのみにて未だ偕にな
十九 らさりしとき聖靈に感じて孕しが其孕たること顯れけれバ丈夫ヨセフ義
人なる故に之を辱しむることを願ず密に離縁せんと思へり二十斯て此事を思
念せる時に主の使者かれが夢に現れて曰けるハダビデの裔ヨセフよ爾妻
二十一 マリアを娶てことを懼るゝ勿うの孕る所の者ハ聖靈に由なり二十一かれ子を生
ん其名をイエスと名くべし蓋うの民を罪より救ハんとすれば也二十二凡て此
事ハ預言者に託て主の曰たまひし言に二十三處女はらみて子を生ん其名をイ

二十四 シマヌエルと稱べしと有に應せん爲なり二十四其名を譯バ神われらと偕に在と
二十五 の義あり二十五ヨセフ寢より起て主の使者の命せし言に遵ひ其妻を娶れど
二章 家子の生るゝまで牀を同にせざりき其生れし子をイエスと名けたり
第二章 一 夫イエスハヘロデ王の時ユダヤのベテレヘムに生れ給しが其とき
二 博士たち東の方よりエルサレムに來りニ曰けるハユダヤ人の王とて生れ
給る者ハ何處に在す乎われら東の方にて其星を見たれバ彼を拜せん爲に
三 來れり三ヘロデ王これを聞て痛む又エルサレムの民もみな然り四凡の祭
司の長と民の學者とを集てヘロデ問けるハキリストの生るべき處ハ何所
四 五 なる乎五答けるハユダヤのベテレヘムなり蓋預言者の錄されたる言に六
ユダヤの地ベテレヘムよ爾ハユダヤの郡中にて至小きものに非ず我イス
六 七 ラエルの民を牧ふべき君うの中より出んと云バなり七是に於てヘロデ密
に博士等を召星の現れし時を詳に問てハ彼等をベテレヘムに遣さんとし
八 て曰けるハ往て嬰兒の事を細に尋これに遇バ我に告よ我も亦ゆきて拜す

九 べしゝかれら王の命を聞て往り前に東の方にて見たりし星かれらに先ち
十 て嬰兒の居所にいたり其上に止りぬ十彼等この星を見て甚く喜び十既に
十一 室に入けれバ嬰兒の其母マリアと偕に居を見ひれふして嬰兒を拜し寶の
十二 盒を開て黄金乳香沒藥など禮物を献たり十三博士夢にヘロデへ返る勿との
十三 默示を蒙りて他の途より其國に歸れり○十三彼等が去るのち主の使者ヨセ
フの夢に現れて曰けるハヘロデ嬰兒を索て殺んとする故に起て嬰兒と其
十四 母とを挈へエジプトに逃て復わが爾に示さん時まで彼處に止れ十四ヨセフ
十五 起て夜嬰兒と其母とを挈へエジプトに往十五ヘロデの死るまで其所に止れ
り是主預言者に託て我わが子をエジプトより召出せりと云給ひしに應せ
十六 ん爲也十六是に於てヘロデ博士に欺かれたるを忤り大にいかり人を遣して
十七 博士に詳く問たる時を度りベテレヘムと其境の内なる二歳以下の嬰兒を
十八 盡く殺せり十七即ち預言者エレミヤの言に十八歎き悲み甚く憂る聲ラマに聞
十九 ゆラケル其兒子を歎き其兒子の無によりて慰を得ずと云しに應へり十九斯

二十 てヘロデ死しかバ主の使者ヨセフの夢にエジプトにて現れ曰けるハ二十起
て嬰兒とゝの母とを挈へイスラエルの地にゆけ嬰兒の生命を索る者ハ已
二十一 に死り二十一彼おきて嬰兒と其母とを挈へてイスラエルの地に至しが三アケ
ラヲ父ヘロデに代てユダヤの王たりと聞けれバ彼處に往ことを懼る又夢
二十二 に告を蒙りてガリラヤの内に避二十二ナザレと云る邑に至りて居り彼ハナザ
二十三 レ人と稱れんと預言者に託て云れたる言に應せん爲なり

第三章 二 三 四 五 六 七

二 當時バプテスマのヨハ子來りてユダヤの野に宣傳へて二曰けるハ
三 天國ハ近けり悔改めよ三是ハ主の道を備ゝの路線を直せよと野に呼る人
四 の聲ありと預言者イザヤが言し人なり四此ヨハ子ハ身に駱駝の毛衣をき
腰に皮の帶をつかね蝗蟲と野蜜を食物とせり五斯時エルサレム及びユダ
五 ヤを擧またヨルダンの四方より人々出てヨハ子に就六己が罪を悔あらハ
六 しヨルダンにて彼よりバプテスマを授られたりセパプテスマを受んとて
七 パリサイ及サドカイの人々の多く來れるを見て彼等に曰けるハ蝮の裔よ

八 誰なんぢらに來んとする怒を避べきことを告しや 八然ハ悔改に符ふ果を
九 結べよ 九爾曹われらが先祖にアブラハム有と云ことを意ふ勿れ我爾曹に
十 告ん神ハ能この石をもアブラハムの子と爲しめ給ふなり 十今や斧を樹の
十一 根に置る故に凡て善果を結ざる樹は斫れて火に投入らるべし 十一我ハ爾曹
を悔改させんとて水を以て爾曹にバプテスマを授く我より後に來者ハ
我に勝て能力あり我ハ其履を提にも足ず彼ハ聖靈と火をもて爾曹にバプ
十二 テスマを授ん 十二手にハ箕を持て其禾場を淨め麥ハ斂て其倉にいれ糠ハ熄
十三 ざる火にて燬べし〇 十三斯時イエスヨルダンに來り給ふ 十四ヨハ子辭て曰けるハ我ハ爾より
十四 ヤよりバプテスマを受べき者なるに爾反て我に來る乎 十五イエス答けるハ暫く許せ如此凡て
十五 の義き事ハ我儕盡す可なり是に於てヨハ子彼に許せり 十六イエスバプテス
十六 マを受て水より上れるとき天忽ち之が爲にひらけ神の靈の鴿の如く降て
十七 其上に來るを見る 十七又天より聲ありて此ハ我心ヨ適わが愛子なりと云り

二 第四章 偖イエス聖靈に導かれ惡魔に試られん爲に野に往り 二四十日四十
三 夜食ふ事をせず後うゑたり 三試むる者かれに來りて曰けるハ爾もし神の
四 子おらバ命じて此石をパンと爲よ 四イエス答けるハ人ハパンのみにて生
五 るものに非ず唯神の口より出る凡の言に因と錄されたり 五是に於て惡魔
六 かれを聖京に携へゆき殿の頂上に立せて曰けるハ 六爾もし神の子なら
七 バ己が身を下へ投よ蓋おんぢが爲に神その使等に命せん彼等手にて支へ
八 爾が足の石に觸さるやうすべしと錄されたり 七イエス彼に曰けるハ主た
九 る爾の神を試むべからずと亦錄せり 八惡魔また彼を最高き山に携へゆき
十 世界の諸國とその榮華とを見せて 九爾もし俯伏て我を拜せバ此等を悉な
十一 んぢに與ふべしと曰ける 十イエス彼に曰けるハサタンよ退け主たる爾の神を
十二 拜し惟之にのみ事ふべしと錄されたり 十一終に惡魔かれを離れ天使たち
十三 來り事ふ〇 十二イエスヨハ子の囚れし事を聞てガリラヤに往 十三ナザレを去
十四 ゼブルンとナフタリとの界なる海邊のカペナウンに至て此に居り 十四これ

預言者イザヤの言に十五ゼブルンの地ナフタリの地海に沿たる地ヨルダンの外の地異邦人のガリラヤ十六此等の幽暗よをる民ハ大なる光をみ死地と死蔭に坐する者の上に光いでたりと云しよ應せん爲なり○十七此時よりイエス始て道を宣傳へ天國ハ近けり悔改めよと曰たまへり十八イエスガリラヤの海邊を歩てペテロと云シモンその兄弟アンデレと二人にて海に網うてるを見たり彼等ハ漁者なり十九之に曰けるハ我に從へ我爾曹を人を漁る者と爲ん二十彼等やがて網を棄てイエスに從ふ二十一此より進けるよ又他の兄弟二人即ちゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子父ゼベダイと偕に舟にて網を補へるを見て之を召しに二十二彼等も頓て舟と父とを置てイエスに從へり○二十三イエスガリラヤを徧く巡り其會堂にて教をなし天國の福音を宣傳かつ民の中なる諸の病もろ〳〵の疾を醫しぬ二十四其聲名あまねくスリヤに播りしかバ人々すべての患へる者萬殊の病また痛惱る者あるひハ鬼に憑たるもの癲癇癱瘋の病に罹れる者を彼に携來けれバ之を醫せり二十五ガリラヤとデカポリスエルサレムユダヤヨルダンの外より多の人々きたり從ふ

第五章

イエス許多の人を見て山に登り坐し給けれバ弟子等も其下に來れり二イエス口を啓て彼等に教へ曰けるハ三心の貧き者ハ福なり天國ハ即ち其人の有なればなり四哀む者ハ福なり其人ハ慰を得べければなり五柔和なる者ハ福なり其人ハ地を嗣ことを得べければなり六饑渴てとく義を慕者ハ福なり其人ハ飽ことを得べければなり七矜恤ある者ハ福なり其人ハ矜恤を得べければなり八心の清き者ハ福なり其人ハ神を見ことを得べければなり九和平を求る者ハ福なり其人ハ神の子と稱らる可ればなり十義ことの爲に責らるゝ者ハ福なり天國ハ即ち其人の有なれば也十一我ために人なんぢらを詬辱また迫害いつはりて各樣の惡言をいはん其時ハ爾曹福なり十二喜び樂め天に於て爾曹の報賞おほければ也そハ爾曹より前の預言者をも如此せめたりき○十三爾曹ハ地の鹽なり。鹽もし其味を失ハゞ何を以か故の味に復さん後ハ用なし外よ棄られて人よ踐るゝ而已十四爾曹ハ世の光なり

十五 山の上に建られたる城ハ隱るゝことを得ず　十五燈を燃して斗の下におく者
十六 なし燭臺に置て家に在すべての物を照さん　十六此の如く人々の前に爾曹の
光を耀かせ然れバ人々なんぢらの善行を見て天に在す爾曹の父を榮む
十七 べし○十七われ律法と預言者を廢る爲に來れりと意ふ勿れ來て之を廢る
十八 に非ず成就せん爲なり　十八われ誠に爾曹に告ん天地の盡ざる中に律法の一
十九 點一畫も遂つくさずして廢ることなし　十九是故に人もし誠の至微き一を壞
り又その如く人に教なば天國に於て至微き者と謂れん凡そ之を行ひ且人
二十 に教る者ハ天國に於て大なる者と謂るべし　二十我なんぢらに告ん學者とパ
二一 リサイの人の義よりも爾曹の義こと勝ずバ必ず天國に入こと能じ○二一古
の人ニ告て殺こと勿れ殺す者ハ審判ニ干らんと言ることあるハ爾曹が聞し
二二 所なり二二然ど我なんぢらに告ん凡て故なくして其兄弟を怒る者ハ審判に
干らん又その兄弟を愚者よといふ者ハ集議に干らん又狂妄よといふ者ハ
二三 地獄の火に干るべし　二三是の故に爾もし禮物を携へて壇に往たる時かしこ

二四 にて兄弟に恨るゝことあるを憶起さバ　二四うの禮物を壇の前に留まづ往て
二五 爾の兄弟と和ぎ後きたりて爾の禮物を獻よ　二五爾を訟ふる者と偕に途間に
ある時はやく和げよ恐くハ訟ふる者なんぢを審官に付し審官また爾を下
二六 吏に付し遂に爾ハ獄に入られん　二六我まことに爾に告ん分釐までも償ハざ
二七 れバ必ず其所を出ることを能ざる也○二七古の人に告て姦淫することなかれ
二八 言ることあるハ爾曹が聞し所なり　二八然ど我なんぢらに告ん凡う婦を見て
色情を起す者ハ中心すでに姦淫したる也　二九もし右の眼なんぢを罪に陷
二九 さバ抉出して之を棄よ蓋五體の一を失ふハ全身を地獄に投入らるゝよりも
三十 勝れり　三十もし右の手なんぢを罪に陷さバ之を斷て棄よ蓋五體の一を失
ふハ全身を地獄に投入らるゝよりハ勝れり○三一また曰ることあり凡う人
三一 うの妻を出さんとせバ之に離緣狀を與ふべしと　三二然ど我爾曹に告ん姦淫
の故ならで其妻を出す者ハ之に姦淫なさしむる也又出されたる婦を娶る
三二 者も姦淫を行ふなり○三三また古の人に告て僞の誓を立ることなかれ

三四 ち誓ふ所ハ必ず主に遂べしと言ること有ハ爾曹が聞し所なり三五然ど我な
三五 んぢらに告ん更に誓こと勿れ天を指て誓ふ勿れ是神の座位なれバ也三五地
を指て誓ふこと勿これ神の足凳なれ
三六 れ大王の京城なれバ也三六爾の首を指て誓ふこと勿こ
三七 すること能ざれバ也三七爾曹たゞ是々否々といへ此より過るハ惡より出る
三八 なり○三八目にて目を償ひ齒にて齒を償へと言ること有ハ爾曹が聞し所な
三九 り三九然ど我なんぢらに告ん惡に敵すること勿れ人なんぢの右の頰を批バ
四十 亦ほかの頰をも轉して之に向よ四十爾を訟へて裏衣を取んとする者にハ外服
四一四二 をも亦とらせよ四一人なんぢに一里の公役を强なバ之と偕に二里ゆけ四二爾
四三 に求る者にハ予へ借んとする者を卻くる勿れ○四三爾の隣を愛みて其敵
四四 を憾べしと言ること有ハ爾曹が聞し所なり四四然も我なんぢらに告ん爾曹
四五 の敵を愛み爾曹を詛ふ者を祝し爾曹を憎む者を善視し虐遇迫害ものゝ爲
に祈禱せよ四五如此するハ天に在す爾曹の父の子とならん爲なり夫天の父

四六 ハ其日を善者にも惡者にも照し雨を義き者にも義からざる者にも降せ給
四七 へり四六爾曹をのれを愛する者を愛すらん乎何の報賞かあらん稅吏も然せざ
四八 らん乎四七安否を兄弟にのみ問ハ人より何の過たる事かあらん稅吏も然せ
ざらん乎四八是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし

第六章

一 なんぢら人に見せん爲に其義を人の前に行ことを愼もし然ずバ天
に在す爾曹の父より報賞を得じ二是故ㇾ施濟を行とき人の榮を得ん爲に
二 會堂や街衢にて僞善者の如く孤を己が前に吹しむる勿れ我まことに爾曹
に告ん彼等は既にその報賞を得たり三なんぢ施濟をするとき右の手の爲
三 ことを左の手に知する勿れ四如此するハ其施濟の隱れんが爲ぁり然バ隱
四 たるに鑒たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし○五なんぢ祈る時に僞善者
五 の如する勿れ彼等は人に見られんが爲ㇾ會堂や街衢の隅に立て祈ことを
好われ誠に爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり六なんぢ祈る時ハ嚴
六 密なる室にいり戸を閉て隱微たるに在す爾の父に祈れ然バ隱微たるに鑒

七 たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし七爾曹祈る時ハ異邦人の如く重複語
八 を言なかれ彼等ハ言おほきを以て聽れんと意へり八是故に彼等に效こと
九 勿れ爾曹の父ハ求ざる先に其需用物を知たまへば也九然ば爾曹かく祈る
十 べし天ヽ在ます我儕の父よ願くハ爾名を尊崇させ給へ十爾國を臨らせ給
十一 へ爾旨の天に成でとく地にも成せ給へ十一我儕の日用の糧を今日も與たま
十二 へ十二我儕に負債ある者を我儕がゆるす如く我儕の負債をも免し給へ十三我
十三 儕を試探に遇せず惡より拯出し給へ國と權と榮ハ窮りなく爾の有なれバ
十四 なりアメン十四爾曹もし人の罪を免さバ天に在ます爾曹の父も亦なんぢら
十五 を免し給ハん十五然どもし人の罪を免さずバ爾曹の父も爾曹の罪を免し給
十六 ハざるべし○十六なんぢら斷食するとき僞善者の如き憂容をする勿れ彼等
十七 ハ斷食を人に見ん爲に顏色を損ふ我まことヽ爾曹に告ん彼等ハ既に其報
十八 賞を得たり十七なんぢ斷食する時ハ首ヽ膏をぬり面を洗へ十八如此するハ爾
の斷食人に見ずして隱微たるに在す爾の父に現れんが爲なり然バ隱微た

十九 るに鑒たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし○十九蠹くひ銹くさり盜うがち
二十 て竊む所の地に財を蓄ふること勿れ二十蠹くひ銹くさり盜穿て竊さる所
二一 の天に財を畜ふべし二一蓋なんぢらの財の在ところに心も亦ある可れバ也
二二 ○二二身の光ハ目ヽり若なんぢの目瞭かならバ全身も亦明かるべし二三若あ
二三 んぢの目眵らバ全身暗かるべし是故に爾の中の光もし暗からバ其暗こと
二四 如何に大ならず乎二四人ハ二人の主に事ること能ず蓋これを惡かれを愛み
二五 此を親み彼を踈べければ也かんぢら神と財に兼事ること能はず二五是故に
我かんぢらに告ん生命の爲に何を食ひ何を飮また身體の爲に何を衣んと
二六 憂慮こと勿れ生命は糧より優り身體ハ衣よりも優れる者からず乎二六か
んぢら天空の鳥を見よ稼ことをなさず倉に蓄ふることをし然るに爾曹の天の父ハ之を養ひ給へり爾曹之よりも大に勝るゝ者からず乎二七
二七 爾曹のうち誰か能おもひ煩ひて其生命を寸陰も延得んや二八また何故に衣
二八 のことを思わづらふや野の百合花ハ如何して長かを思へ勞ず紡がざる也

二九 われ爾曹に告んソロモンの榮華の極の時だにも其裝この花の一ツ及さ
三〇 りき〓神は今日野ニ在て明日爐ニ投入らるゝ草をも如此よそへ給へバ
三一 況て爾曹をや嗚呼信仰うすき者よ〓然バ何を食ひ何を飲あゝを衣んとて
三二 思わづらふ勿れ〓此みな異邦人の求る者なり爾曹の天の父ハ凡て此等の
三三 ものゝ必需ことを知たまへり〓爾曹まづ神の國と其義とを求よ然バ此等
三四 のものハ皆なんぢらに加らるべし〓此故に明日の事を憂慮なかれ明日
ハ明日の事を思わづらへ一日の苦勞ハ一日にて足り

第七章

一 人を議することなかれ恐くは爾曹もまた議せられん
二 爾曹が人を議する如く己も議せらるべし爾曹が人を量るでとく己も量らるべし〓なん
三 ぢ兄弟の目にある物屑を視て己が目にある梁木を知らざるハ何ぞや
四 の目に梁木のあるに如何で兄弟にむかひて爾が目にある物屑を我に取せ
五 よと曰ことを得んや〓僞善者よ先おのれの目より梁木をとれ然バ兄弟の
六 目より物屑を取得るやう明かに見べし〓犬に聖物を與ふる勿また豕の前

七 に爾曹の眞珠を投與る勿れ恐くハ足ゐて之を踐ふりかへりて爾曹を噬や
八 ぶらん〓求よ然バ與られ尋よ然バあひ門を叩よ然バ開かるゝことを得ん
九 蓋すべて求る者ハえ尋る者ハあひ門を叩く者ハ開かる可れバなり〓爾
一〇 曹のうち誰か其子パンを求んゝ石を予んや〓また魚を求んゝ蛇を予んや
一一 〓然バ爾曹惡き者ゐから善賜を其子ゝ與ふるを知ましして天ゝ在す爾曹の
一二 父ハ求る者ゝ善物を予ざらん乎〓是故ゝ凡て人ゝ爲られんと欲ことハ爾
一三 曹また人にも其おとく爲よ是律法と預言者なる也〓窄き門より入よ沈
一四 淪ゝ至る路ハ濶その門ハ大なり此より入もの多し〓命ゝ至る路ハ窄その
一五 門ハ小し其路を得をの少なり〓僞の預言者を謹めよ彼等ハ綿羊の姿に
一六 て爾曹に來れども內ハ殘狼なり〓是その果ゝ由て知べし誰か荊棘より
一七 葡萄をとり蒺藜より無花果を採ことをせん〓凡て善樹ハ善果を結び惡樹
一八 ハ惡果を結べり〓善樹ハ惡果を結ぶこと能ざる也〓又
一九 凡そ善果を結ざる樹ハ斫れて火ゝ投入らる〓是故ゝ其果ゝ由て之を知べ
二〇

二 し○三我を召て主よ主よと曰もの盡く天國に入に非ず唯これよ入者ハ我
三 天よ在す父の旨よ遵ふ者のみあり三其日われよ語て主よ主よ主の名よ託
四 てをしへ主の名よ託て鬼をおひ主の名よ託て多く異能を行しよ非ずや
五 と云もの多からん三其時かれらよ告われ嘗て爾曹を知ず惡をおす者よ我
六 を離去と曰ん三是故よ凡て我この言を聽て行ふ者を磐の上よ家を建たる
七 智人よ譬ん三雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ども倒ることなし是磐
八 を基礎と爲たればなり四凡て我この言を聽て行ハさる者を沙の上よ家を建
九 たる愚なる人よ譬ん五雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ハ終よ倒てう
十 の傾覆おほいなり六イエス此等の言を語竟たまへるとき集りたる人々其
十一 教を駭きあへり七そハ學者の如ならず權威を有る者の如く教たまへば也

第八章 二イエス山を下しとき多の人々これよ從へり三癩病の者きたり拜し
三 て曰けるハ主もし旨よ適ときハ我を潔なし得べし三イエス手を伸かれよ
四 按て我旨よ適へり潔かれと曰ければ癩病たよちよ潔れり四イエス彼よ曰

五 ける八愼て人に告る勿れ唯ゆきて己を祭司に見せ且モーセが命せし禮物
六 を献て彼等に證據をせよ○五イエスカペナウンに入しとき百夫の長きた
七 り願て曰けるハ六主よ我僕癱瘋をやみ家に臥るて甚だ惱めりセイエス曰
八 けるハ我ゆきて之を醫すべしハ百夫の長こたへけるハ主よ我なんぢを我
九 が屋下に入奉るハ恐れ多し唯一言を出し給へよ我僕ハ愈んと蓋われ人の
十 權威の下にある者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と曰をゆき彼に來れ
と曰バ來る我僕に此を行と曰を則ち行が故なり十イエスこれを聞て奇み
從へる人々に曰けるハ我まことに爾曹に告ん以スラエルの中にだに未た
十一 斯る篤信に遇ざる也十一われ爾曹に告ん多の人々東より西より來てアブラ
十二 ハム、イサク、ヤコブと偕に天國に坐し十二國の諸子ハ外の幽暗に逐出され其
十三 處にて哀哭切齒することあらん十三イエス百夫の長に往なんぢが信仰の如く
十四 爾よ成べしと曰たまへる其時よ僕ハ愈たり○十四イエスペテロの家よ入ろ
十五 の岳母の熱を煩ひ臥るたるを見て十五その手よ捫けれバ即ち熱されり婦お

十六 きて彼等に事ふ日暮たるとき人々鬼に憑れたる者を多く携來けれたイ
十七 エス言て鬼を逐出し病ある者を悉く醫せり古預言者イザヤに托て自ら
十八 我儕の恙を受われらの病を負と曰たまひしに應せんが爲なり○大偖イエ
十九 ス多の人々の己を環るを見て弟子に命じ向の岸に往んとし給しに丈ある
二十 學者きたりて曰けるハ師よ何處へ往給ふとも我從ハん古イエス之に曰け
二一 るハ狐ハ穴あり天空の鳥ハ巢あり然ど人の子ハ枕する所なし三また弟子
二二 の一人いひけるハ主よ先ゆきて父を葬ることを我に容せ三イエス曰ける
二三 ハ我に從へ死たる者に其死し者を葬らせよ○三イエス舟に登けれバ弟子
二四 等も之に從ふ三此とき大なる颶風おこりて舟を蔽ばかりなる浪たちしに
二五 イエスハ寢たり三弟子等これに近きて醒し曰けるハ主よ救たまへ我儕亡
二六 んとす三イエス彼等に曰けるハ信仰うすき者よ何ぞ懼るや遂に起て風と
二七 海とを斥ければ大に平息になりぬ三人々奇みて曰けるハ此ハ如何なる人
二八 ぞ風も海も之に從ひたり○三イエス向の岸なるガダラ人の地に至れると

二九 き鬼に憑れたる二人のもの墓より出て彼を迎ふ猛こと甚しくして其途を
三〇 人の過ること能はざりしほど也三かれら呼叫て曰けるハ神の子イエスよ
三一 我儕なんぢと何の與あらん乎いまだ時いたらざるに我儕を責んとて此處
三二 に來るか三遙はなれて豕の多のむれ食し居けれバ三鬼イエスに求て曰け
三三 るハ若われらを逐出さんとならば豕の群に入ことを容せ三彼等に往と曰
三四 けれは鬼いで〻豕の群に入しに惣の群山坡より逸て海にいり水に死た
　 り三牧者ども邑に逃走て此事と鬼に憑れたりし者の事を告けれバ三四イエ
　 スに逢んとて邑の者擧て出きたり彼を見て此境を出んことを願へり

第九章

一 イエス舟に登わたりて故邑に至けれバ二癱瘋にて床に臥たる者を
二 人々舁來れりイエス彼等が信ずるを見て癱瘋の者に曰けるハ子よ心安か
　 れ爾の罪赦れたり三ある學者たち心の中に謂けるハ此人は瀆濱を言り四
三 イエスその意を知て曰けるハ爾曹いかなれや心に惡を懷ふや五爾の罪赦
四 されたりと言と起て歩めと言と孰か易き六ろう人の子地よて罪を赦すの
五
六

七 權あることを爾曹ら知せんとて遂ら癱瘋の者ら起て床をとり家ら歸れと
八 曰ければ七起て其家に歸りぬ八人々これを見て奇み此の如き權を人ら賜
九 し神を崇たり○九イエス此より進往マタイと名くる人の稅關ら坐し居け
十 るを見て我ら從へと曰ければ起て從へり十イエス彼が家ら食するとき稅
十一 吏罪ある人おほく來りてイエス及その弟子と偕ら坐しければ十一パリサイ
の人これを見て其弟子ら曰けるは爾曹の師は何故稅吏や罪ある人と偕み
十二 食する乎十二イエス聞て彼等ら曰けるは康強なる者は醫者の助を需ず唯病
十三 ある者これを需十三われ矜恤を欲て祭祀を欲ずといふ此は如何なる意か往
て學ぶべし夫わが來るは義人を招ため非ず罪ある人を招きて悔改さ
十四 せんが爲なり○十四其時ヨハ子の弟子イエスら來て曰けるは我儕とパリサ
十五 イの人はしば〳〵斷食するら師の弟子の斷食せざるは何故ぞ十五イエス彼
等ら曰けるは新郎の友うの新郎と偕ら居うちは哀むことを得んや將來新
十六 郎をひきとらるゝ日きたらん其時らは斷食すべき也十六新き布を以て舊

き衣を補ふ者はあらじ蓋つくろふ所のもの反て之を壞うの綻び尤も甚た
十七 しからん七また新き酒を舊き革囊に盛る者はあらじ若然かせば囊はりさ
け酒もれいでゝ其囊も亦壞らん新囊に新酒を盛おば兩ながら存べ
十八 し○十八イエス彼等に此事を言る時ある宰きたり拜して曰けるは我女いま
十九 既に死り來て彼に手を按たまもと生べし十九イエス起て彼に從ひ其弟子と
二十 偕に往二十二年血漏を患へる婦うしろに來て其衣の裾に捫れり二十一蓋もし
二十一 衣にだにも捫らば愈んと意へばなり二十二イエスふりかへり婦を見て曰ける
は女よ心安かれ爾の信仰なんぢを愈せり即ち婦この時より愈二十三イエス宰
二十三 の家に入しに笛ふく者および多の人の泣咷を見て二十四之に曰けるは退け女
二十四 は死るに非ずたゞ寢たるのみ人々イエスを哂笑ふ二十五彼等を出しゝ後いり
二十五 て其手を執しに女起たり二十六此聲名あまねく其地に播りぬ二十七イエス此を去
二十六 とき二人の瞽者ありてダビデの裔よ我儕を憐み給へといひつゝイ
二十七 エス家に入しに瞽者きたりければ彼等に曰たまひけるは我此事を行得る
二十八

と信ずるや答けるハ主よ然り二九イエス彼等の目ヲ手の按て爾曹の信ずる
三十如く爾曹ヲ成べしと曰けれバ三十其目ひらけたりイエス嚴く戒て之ヲ曰け
三一るハ愼て人ヲ知する勿れ三一然ども彼等いでゝ遍く其地にイエスの名を播
三二めたり○三二瞽者の出るとき人々鬼ヲ憑れたる喑唖をイエスヲ携來りしヲ
三三鬼おひ出されて喑唖ものいへり衆人あやしみ曰けるハイスラエルの中
三四ヲも未た斯る事ハ見ざりき三四パリサイの人曰けるハ彼鬼の王ヲ藉て鬼を
三五逐出せる也○三五イエス遍く鄉邑を廻其會堂にて教をおし天國の福音を宣
三六傳へ民の中なる諸の病すべての疾を愈せり三六牧者なき羊の如く衆人なや
三七み又流離になりし故に之を見て憫みたまふ三七其ときに弟子等に曰給けるハ
三八收穫ハ多く工人ハ少し三八故に其稼主ヲ工人を收穫場に送んとを願ふべし

第十一章

一偖イエスろの十二弟子をよび彼等に汚たる鬼を逐いだし又すべて
の病すべての疾ひを醫す權を賜へり二ろの十二使徒の名ハ左の如とし首
二ハペテロと名け給ひしシモンろの兄弟アンデレゼベダイの子ヤコブろ
三の兄弟ヨハ子ピリポバルトロマイ三トマス稅吏マタイアルパイの子な
四るヤコブタッダイ四カナンのシモンイスカリオテのユ
五ダ是すなはちイエスを賣しゝ者なり○五イエスこの十二を遣さんとして
六命じ曰けるハ異邦の途ヲ往なかれ又サマリア人の邑ヲも入なかれ六惟イ
七スラエルの家の迷へる羊ヲ往七往て天國近ヲ在と宣傳よ八病の者を醫し
八癩病を潔し死たる者を甦らせ鬼を逐出すことをせよ爾曹價なしヲ受たれ
九バ亦價なしヲ施すべし九爾曹金またハ銀またハ錢を貯へ帶る勿れ十行囊
十一二の裏衣履杖も亦然ろハ工人の其食物を得は宜なり十一凡ろ鄉邑ヲ至ら
十二バ其中の好人を訪て出るまでハ此處ヲ留れ十二人の家ヲいらバ其平安を問
十三ろの家もし平安を得べき者あらバ爾曹の願ふ平安ハ其家ヲ至らん若し
十四平安を受べらかざる者あらバ爾曹の願ふ平安ハ爾曹ヲ歸るべし十四もし爾
十五曹を接ず爾曹の言を聽ざる者あらバ其家またハ其邑を去とき足の塵を拂
へ十五われ誠ヲ爾曹ヲ告ん審判の日到バソドムとゴモラの地ハ此邑よりも

十六 却て易からん○十六われ爾曹を遣すハ羊を狼の中ニ入るが如し故ニ蛇の如
十七 く智く鴿の如く馴良かれ十七愼て人ニ戒心せよ蓋人おんぢらを集議所ニ解
十八 し又その會堂ニて鞭つべければ也十八又わが緣故ニ因て侯伯および王の前
十九 ニ曳るべし是かれらと異邦人ニ證をおさんが爲なり十九人おんぢらを解さ
二十 ば如何おゐを言んと思ひ煩らふ勿れ其とき言べき事を爾曹ニ賜るべし二十
二一 是おんぢら自ら言ニ非ず爾曹の父の靈うの衷ニ在て言あり二一兄弟ハ兄弟
二二 を死ニ付し父ハ子を付し子ハ兩親を訴へ且これを殺さしむべし二二又なん
二三 ぢら我名の爲ニ凡の人ニ憾れん然ど終まで忍ぶ者ハ救をるべし二三この邑
ニて人おんぢらを責おば他の邑ニ逃れよ我まことニ爾曹ニ告ん爾曹イス
二四 ラエルの諸邑を廻盡さゞる間ニ人の子ハ來るべし二四弟子ハ師より優らず
二五 僕ハ主より優らざる也二五弟子ハ其師の如く僕ハ其主の如ならば足ぬべし
二六 若し人主を呼てベルゼブルと云ば況て其家の者をや二六是故ニ彼等を懼る
二七 ること勿うハ掩れて露れざる者なく隱て知れざる者あければ也二七われ幽

二八 暗に於て爾曹に告しことを光明に述よ耳をつけて聽しことを屋上に宣播
二九 めよ二八身を殺して魂を殺すこと能ハざる者を懼るゝ勿れ唯おんぢら魂と
身とを地獄に滅し得る者を懼をよ二九二羽の雀ハ一錢にて售に非ずや然る
三十 に爾曹の父の許おくは其一羽も地に隕ること有じ三十爾曹の頭の髮また皆
三一 かぞへらる三一故に懼るゝ勿れ爾曹ハ多の雀よりも優れり三一然ば凡そ人の
三二 前に我を識と言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を識と言ん三二人の前
三三 に我を識ぜと言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を識ぜと言べし○三三
三四 地に泰平を出ん爲に我來れりと意おかれ泰平を出さんとに非ず刃を出さ
三五 ん爲に來れり三五夫わが來るハ人を其父に背かせ女を其母に背かせ嫁を其
三六 姑に背かせんが爲なり三六人の敵ハ其家の者あるべし三七我よりも父母を
三七 愛む者ハ我に協ざる者あり我よりも子女を愛む者ハ我に協ざる者あ
三八 り三八その十字架を任て我に從ハざる者も我に協ざる者あり三九その生命を
三九 得る者ハ之を失ひ我ために生命を失ふ者ハ之を得べし四十爾曹を接る者ハ
四十

四一 我を接る也また我を接る者ハ我を遣しゝ者を接るなり四一預言者なるを以
その預言者を接る者ハ預言者の報賞をうけ義人なるを以その義人を
四二 接る者ハ義人の報賞を受四二わが弟子なるをもて小き一人の者に冷なる
水一杯ゟても飲する者ハ誠に爾曹ゟ告ん必ぜ其報賞を失ハじ

第十一章　イエスろの十二弟子に示畢しとき此處をさり道を教へ廣んが
二 爲に彼等の諸邑に往り○二偖ヨハ子獄にてキリストの行し業を聞うの弟
三 子二人を彼に遣して三曰せけるハ來べき者ハ爾なるか又われら他に待べ
四 き乎四イエス彼等に答て曰けるハ爾曹が聞ところ見ところの事をヨハ子
五 に往て告よ五瞽者ハみ跛者ハあゆみ癩病人ハ潔まり聾者ハきゝ死たる者
六 ハ復活され貧者ハ福音を聞せらる六凡う我ために躓かざる者ハ福なり
七 ○七彼等の歸れる後イエスヨハ子の事を人々ゟ曰けるハ爾曹何を見んと
八 て野に出しや風ゟ動さるゝ葦なる乎八然ば爾曹何を見んとて出しや美
九 服を着たる人なるか美服を着たる者ハ王宮ゟ在九然ば何を見んとて

十 出しや預言者なるか然われ爾曹ゟ告ん彼ハ預言者よりも卓越たる者なり
十 十夫なんぢに先ちて道を備る我が使者を我なんぢの前に遣んと錄されたる
十一 ハ即ち是なり十一誠に爾曹に告ん婦の生たる者の中いまだバプテスマのヨハ子より大なる者ハ起らざりき然ど天國の最小き者も彼よりハ大なる
十二 也十二バプテスマのヨハ子の時より今に至るまで人々勵て天國を取んとす
十三 勵たる者ハ之を取り十三それ凡の預言者と律法の預言したるハヨハ子の時
十四 までなれバ也十四若なんぢら我言を承ることを好まバ來べきエリヤハ是なり
十五 十五耳ありて聽ゆる者ハ聽べし○十六我この世を何に譬んや童子街に坐し
十六 十七 其侶を呼て十七われら笛ふけどもなんぢら爾曹をどらず哀をすれども爾曹胸うたずと云に似たり十八蓋ヨハ子來て食ふことも飲ことを爲されバ鬼に憑れたる者
十八 十九 ありと人々言り十九人の子きたりて食ふことをし飲ことを爲れバ又食を嗜み酒を好む人稅吏罪ある者の友也といふ然ども智慧ハ智慧の子に義と爲らるゝ也○二十厥時イエス多の異能を行たまひたる諸邑の悔改めざるに

二一 由て責いひけるハ三あゝ禍なる哉コラジンよ噫禍なる哉ベテサイダよ爾
曹の中に行し異能を若ツロとシドンに行しおらバ彼等ハ早く麻をき灰を
二二 蒙りて悔改しおるべし三われ爾曹に告ん審判の日にハツロとシドンの刑
二三 罰ハ爾曹よりも却て易からん三既に天にまで擧られしカペナウンよ又陰
府に落さるべし蓋おんぢに行し異能を若ソドムに行しおらバ今日までも
二四 尚保存しおらん三我なんぢらに告ん審判の日にソドムの地ハ爾よりも却
二五 て易かるべし◎三五其ときイエス答て曰けるハ天地の主ある父よ此事を智
二六 者達者に隱して赤子に顯したまふを謝す三六父よ然それ此の如ハ聖旨に
二七 適るおり三七父ハ我に萬物を予たまへり父の外に子を識もの無また子およ
二八 び子の顯す所の者の外に父を識者おし◎三八凡て勞たる者また重を負る者
二九 ハ我に來れ我爾曹を息ません三九我ハ心柔和にして謙遜者おれバ我軛を負
三十 て我に學おんぢら心に平安を獲べし三十蓋わが軛ハ易わが荷ハ輕けれバ也

第十二章

一 當時イエス安息日に麥の畑を過しが其弟子たち飢て穗を摘食は

二 じめたりニパリサイの人これを見てイエスに曰けるハ爾の弟子ハ安息日
三 に爲まじき事を行り三之に答けるハダビデおよび從に在し者の饑しとき
四 行し事を未た讀ざる乎四即ち神の殿に入て祭司の他ハ己および從にをる
五 者も食ふまじき供のパンを食へり五また安息日に祭司ハ殿の内にて安息
六 日を犯せども罪なき事を律法に於て讀ざる乎六われ爾曹に告ん殿より大
七 なるもの茲に在七われ矜恤を欲て祭祀を欲ずとハ如何なることか之を知
八 バ罪おき者を罪せざるべしハそれ人の子ハ安息日の主たるおり◎九此を
九 去て彼等の會堂に入しに十一手おへたる人ありけれバ彼等イエスを訴へ
十 んとて之に問けるハ安息日にも醫すことを行べき乎十彼等に曰けるハ爾
十一 曹の中に一の羊を有る者あらんに若その羊安息日に坑に陷らバ之を擧上
十二 ざる乎十一人ハ羊より優ること幾何ぞや然バ安息日に善を行ハ宜十二遂にそ
十三 の人に爾が手を伸よと曰けれバ伸せり即ち他の手の如く愈十三パリサイの
十四 人いでゝイエスを殺さんと謀れり十四イエス之を知て此を去しに多の人々
十五

これに從ふ凡て疾病ある者をみな愈し十我を人に露すこと勿れと戒たり
十七 十八 これ預言者イザヤの云し言に十八視よ我が選し我僕すなはち我心に適たる我が愛む者われ之に我靈を賦ん彼異邦人に審判を示すべし十九彼ハ競こ
十九 二十 とおく喧ことおし人街に於て其聲を聞ことおし二十審判をして勝とげしむるまでハ傷る葦を折ことなく煙れる麻を熄ことなし二一異邦人も亦ろの名
二一 に賴べしと有に應せん爲ぬり〇二二爰に鬼に憑たる瞽の瘖ある者をイエス
二二 の所に携來りければ此瞽の瘖を醫して言ひ見るやうに爲り二三衆人みな奇
二三 みて曰けるハ此ハダビデの裔にハ非ざる乎二四パリサイの人きゝて曰ける
二四 ハ此人ハ鬼の王ベルゼブルを役ふに非されバ鬼を逐出ことおし二五イエス
二五 ろの意を知て彼等に曰けるハ凡て相爭ふ國ハ亡び凡て相爭ふ邑や家ハ立
二六 べからず二六サタン若サタンを逐出さバ自ら相爭ふぬり然バ其國いかで立
二七 んや二七若われベルゼブルに由て惡鬼を逐出さバ爾曹の子弟ハ誰に由て之
二八 を逐出すや夫かれらハ爾曹の裁判人とあるべし二八若われ神の靈に由て鬼

二九 を逐出しゝぬらバ神の國ハもはや爾曹に至れり二九また勇士をまづ縛らさ
三〇 れバ如何で其家に入ろの家具を奪ふことを得んや縛て後に其家を奪ふべ
三一 し三〇我と偕ぬらざる者ハ我に背き我と偕に斂ざる者ハ散すぬり三一是故に
三二 爾曹に告ん人々の凡て犯す所の罪と神を瀆ことハ赦れん然ど人々の聖靈
三三 を瀆ことハ赦るべからず三三言を以て人の子に背く者ハ赦るべし然ど言を
三四 もて聖靈に背く者ハ今世に於ても亦來世に於ても赦るべからず三四或ハ樹
三五 をも善とし其果をも善とせよ或ハ樹をも惡とし其果をも惡とせよ夫樹ハ
三六 其果に由て知るゝなり三五あゝ蝮の裔よ爾曹惡にして何で善を言ことを得
三七 んや夫心に充るより口に言るゝ者あれバ也三六善人ハ心の善庫より善もの
三八 を出し惡人ハろの惡庫より惡ものを出せり三七われ爾曹に告ん凡て人のい
ふ所の虛言ハ審判の日に之を訴へざるを得じ三八それ爾その日ところの
言に由て義とせられ又其いふ言に由て罪ありとせらるゝ也〇三九此時ある
學者とパリサイの人答て曰けるハ師よ休徵をなして我儕に見せんことを

三九 爾に請ふ三九答て彼等に曰けるハ奸惡なる世ハ休徵を求されど預言者ヨナ
四十 の休徵の外ハ之に休徵を與られじ四十夫ヨナが三日三夜魚の腹の中に在し
四一 如く人の子も三日三夜地の中に在べし四一ニネベの人審判の日に共に起て
今の世の罪を定めん彼等ハヨナの誨に由て悔改たり夫ヨナより大ある
四二 者こゝに在四二南の女王さバきの日に共に起て今の世の罪を定めん彼ハ地
の極よりソロモンの智慧を聽んとて來れり夫ソロモンより大ある者此
四三 にあり四三惡鬼人より出て旱たる地を巡り安息を求れども得ずして曰ける
四四四五 ハ四四我が出し家に歸らん既に來しに空虛にして掃淨り飾れるを見四五遂に
往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ偕に入て此に居バその人の後の患狀ハ
四六 前よりも更に惡かるべし此あしき世もまた此の如からん四六イエス人々に
四七 語をる時その母と兄弟かれに言ハんとて外に立けれバ四七或人イエスに曰
四八 けるハ爾の母と兄弟おんぢに言はんとして外に立り四八イエス告し者に答
四九 て曰けるハ我母ハ誰ぞ我兄弟ハ誰ぞや四九手を仲その弟子を指て曰けるハ

五十 是わが母わが兄弟なり五十蓋すべて我が天に在す父の旨を行ふ者ハ是わが
兄弟わが姉妹わが母なれバ也

第十三章 當日イエス家を出て海邊に坐せしに二多の人々彼に集來けれバ
一 イエスハ舟に登て坐し凡の人々ハ岸に立り三イエス譬を以て多端の言を
二 人々に語ぬ種まく者播に出しが四播るとき路の旁に遺し種あり空中の鳥
三 きたりて啄み盡せり五また土うすき磽地に遺し種あり直に萌出たれど六
四 日の出しとき灼れしかバ根なきが故に槁たり七また棘の中に遺し種あり
五 棘うたちて之を蔽ふりハまた沃壤に遺し種あり實を結べること或ハ百倍
六 あるひハ六十倍あるひハ三十倍せり九耳ありて聽ゆる者ハ聽べし十弟子
七 等きたりて彼に曰けるハ何故に譬をもて彼等に語り給ふや十一答て曰ける
八 ハ爾曹にハ天國の奧義を知ことを予たまへど彼等にハ予へ給されバ也十二
九 うれ有る者ハ予られてゆほ餘あり無有者ハうの有る物をも奪るゝ也十三彼
十 等ハ視ても見ず聽ても聽ず悟ざるが故に我譬を以て彼等に語れり十四イザ

十五 ヤの預言に爾曹ハ聽ども悟らず視ども見ぎ 十五蓋この民目にて見耳にて聽
心にて悟り改めて我に醫されんことを恐ろの心を頑し耳を蔽ひ目を閉た
十六 十七 りと云しに應へり 十六然ど爾曹の目ハ見爾曹の耳ハ聞が故に福あり 十七われ
誠に爾曹に告ん多の預言者と義人ハ爾曹が見ところを見んとしたりしが
十八 見ことを得ず爾曹が聞ところを聞んとしたりしが聞ことを得ざりき 十八故
に爾曹播種の譬を聽 十九天國の教を聞て悟らざれバ惡鬼きたりて其心に播
十九 れたる種を奪ふ是路の旁に播たる種なり 二十僥地に播れたる種ハ是教を聽
二十 て速かに喜び受れども 二一己に根あけれバ暫時のみ教の爲に患難あるひハ
二一 迫らるゝ事の起る時ハ忽ち道に礙く者あり 二二また棘の中に播れたる種ハ
二二 是教を聽ども此世の思慮と貨財の惑に教を蔽れて實らざる者あり 二三沃壤
に播れたる種ハ是教を聽て悟り實を結こと或ハ百倍あるひハ六十倍ある
二三 ひハ三十倍する者なり〇 二四また譬を彼等に示して曰けるハ天國ハ人畑に
二四 美種を播に似たり 二五人々の寢たる間に其敵きたり麥の中に稗子を播て去
二五

二六 二七 り 二六苗はえ出て實たるとき稗子も現れたり 二七主人の僕きたりて曰けるハ
二七 主よ畑にハ美種を播ざりしか如何して稗子ある乎 二八僕に曰けるハ敵人こ
二八 れを行り 二九僕主人に曰けるハ然らバ我儕ゆきて之を拔あつむるハ宜か 三〇否
二九 おそらくハ爾曹稗子を拔あつめんとて麥をも共に拔べし 三〇收穫まで二ら
三〇 がら長おけ我かりいれの時まづ稗子を拔集て焚ん爲に之を束ね麥をバ我
倉に收よと刈者に言ん〇 三一また譬を彼等に示し曰けるハ天國ハ芥種の如
三一 し人これを取て畑に播バ 三二萬の種よりハ小けれども長てハ他の草より大
三二 にして天空の鳥きたり其枝に宿ほどの樹となる也〇 三三また譬を彼等に語
三三 けるハ天國ハ麪種の如し婦これをとり三斗の粉の中に藏せバ悉く脹發す
三四 なり 三四イエス譬をもて凡て此等の事を衆人に語たまへり譬にあらされバ
三五 語り給ハず 三五これ預言者に託て我譬を設て口を啓き世の始より隱たる事
三六 を言出さんと云れたるに應せん爲なり〇 三六遂にイエス衆人を歸して宅に
三七 入り其弟子きたりて曰けるハ畑の稗子の譬を我儕に解たまへ 三七之に答て

三八 曰けるハ美種を播者ハ人の子ありニ九畑ハこの世界ありニ美種ハ是天國の諸
三九 子ありニ稗子ハ惡魔の子類ありニ九之をまく敵ハ惡魔ありニ收穫ハ世の末ありニ
四〇 刈者ハ天の使等ありニ稗子の斂て火に焚る如く此世の末に於ても此の如
四一 くなるべしニ人の子ろの使者たちを遣して其國の中より凡て躓礙とある
四二 者また惡をおす人を斂て三之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒する
四三 こと有んニ此とき義人ハ其父の國に於て日の如く輝かん耳ありて聽ゆる
四四 者ハ聽べし〇四四また天國ハ畑に藏たる寶の如し人みいださバ之を秘し喜
四五 び歸り其所有を盡く賣てその畑を買ありニ〇四五また天國ハ好眞珠を求んと
四六 する商人の如しニ六一の値たかき眞珠を見出さばろの所有を盡く賣て之を
四七四八 買ありニ〇四七また天國ハ海に投て各樣の魚をとる網の如しニ八既に盈れバ岸
四九 に曳あげ坐てろの嘉ものを器にいれ惡ものを棄るありニ九世の末に於ても
五〇 此の如おらん天の使等いでゝ義者の中より惡者を取わけ三之を爐の火に
五一 投入べし其處にて哀哭切齒するとろん〇五一イエス彼等に曰けるハ此事を

五二 皆悟しや彼に曰けるハ主よ然バ天國につい
五三 教られたる學者ハ新き物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し〇五三イ
五四 エス此譬を言畢て此を去ぬ五四其故土にいたり會堂にて教しに人々奇み曰
五五 けるハ此人の智慧と異ある能ハ何處より來るや五五これ木匠の子に非ずや
五六 其母ハマリア其兄弟ハヤコブヨセシモンユダに非ぎや五六其妹等ハ皆我儕
五七 と偕に在に非ぎや然るに此人の凡て此等の事ハ何處より來しや五七遂に厭
 て之を棄イエス彼等に曰けるハ預言者ハ其故土其家の外に於て尊まれざ
五八 ることなし五八彼等が信ぜるとおきに由て多の異ある能を此に行給ハざりき

第十四章

其ころ分封の君ヘロデイエスの聲名を聞てニうの僕に曰けるハ
是バプテスマのヨハ子ありニ彼死より甦りたり故に異ある能を行ふありニ三
前にヘロデその兄弟ピリポの妻ヘロデヤの事に由てヨハ子を捕へ縛て獄
に入たり四此ハヨハ子ヘロデに此女を娶るハ宜しからぎと云しに因五彼
ヨハ子を殺さんと欲ぞ民これを預言者とするにより彼等を懼たりしが六

ヘロデ誕生の日を祝へる時ヘロデヤの女うの座上にて舞をおしヘロデを
七 悦はせければ 何ある物にても求に任て予んとヘロデ之に誓たりハ女う
八 の母の勸ありしに因バプテスマのヨハ子の首を盆に載て此に賜れと曰 九
王憂けれども既に誓たると席に列れる者の爲に予ることを命じ 十 即ち人
を遣し獄に於てヨハ子の首を斬せ 十一 その首を盆に載て女に予けれバ女ハ
之を其母に捧たり 十二 ヨハ子の弟子等來りて屍を取これを葬り往てイエス
に告 十三 イエスこれを聞て人をさけ舟に登て其處を去さびしき處に往給ひ
しが衆人きゝて歩行にて彼に從へり○ 十四 イエス出て多の人を見て之を憫
み其病る者を醫せり 十五 日くるゝ時其弟子きたりて曰けるハ此ハ寂寞とこ
ろにして時もも や遲し諸邑に往て自ら食を求させん爲に人々を去しめよ
十六 十七 イエス彼等に曰けるハ人々往ずとも可爾曾之に食を予よ 十八 答けるハ我
儕此にたゞ五のパンと二の魚あるのみ 十九 イエス曰けるハ其を此に携來れ
遂に衆人に命じて草の上に坐しめ五のパンと二の魚をとり天を仰て謝

二十 しパンを擘て弟子にあたふ弟子之を衆人に予ぬ 二一 みな食て飽其餘たる屑
二二 を拾しに十二の筐に盈たり 二三 食し者ハ婦と幼童の外凡ろ五千人ありき○
二三 頓てイエス衆人を歸さんとして
二四 渡しむ 二五 斯て衆人を歸しけれバ祈禱
二五 に在せり 二四 舟ハ海中に在て逆風の爲に浪に漂ハさる 二五 夜の四時ごろイエ
二六 ス海の上を歩て之に至しに 二六 弟子其海の上を歩るを見て驚き此ハ變化の
二七 物ならんと曰て懼れ叫たり 二七 イエス頓て彼等に曰けるハ心安かれ我あり
二八 懼るゝ勿れ 二八 ペテロ答て曰けるハ
二九 の所に至しめよ 二九 來と曰給ひければ
三十 とて浪の上を歩れども 三十 風の烈きを見て懼れ沈かゝりけれバ主よ我を救
三一 たまへと曰 三一 イエス頓て手を仲之を執て曰けるハ信仰うすき者よ何ぞ疑
三二 ふや 三三 偕に舟に登けれバ風ふづまりぬ 三三 舟に居し者ちかよりて彼を拜し
三四 曰けるハ誠に爾ハ神の子なり○ 三四 遂に渡てゲ子サレの地に到しかバ 三五 其
三五

處の人々イエスを識て遍く四方に人を遣し凡て病の者を携へ來らしむ 三六
只其衣の裾に捫らんことをイエスに願へり捫し者ハ卽ちみな愈されたり

第十五章 時にエルサレムの學者とパリサイの人イエスに來て曰けるハ 二
爾の弟子古の人の遺傳を犯ハ何故ぞ盖食する時にその手を洗されバ也 三
答て彼等に曰けるハ爾曹ハ亦おんぢらの遺傳によりて神の誡を犯ハ何故
ぞ 四それ神いましめて爾の父母を敬へまた父母を詈る者ハ殺さるべしと
宣給へり 五然るに爾曹ハ曰て凡て人父母に對おんぢを養ふ可ものハ禮物
ありと云バ 六その父母を敬ハざとも可とす斯て爾曹遺傳により神の誡を
廢くせり 七僞善者よイザヤハ能おんぢらに就て預言しハ此民ハ口にて我
に近き脣にて我を敬へども其心ハ我に遠かり 九人の誡を教とおして徒
らに我を拜すと云りと 十イエス人々を召てかれらに曰けるハ聽て悟れ 十一口
より入ものハ人を汚さず口より出るものハ是人を汚すなり 十二弟子きたりて
イエスに曰けるハパリサイの人この言を聞て厭棄るを爾知か 十三答て曰け

るハ我が天の父の植ざる者ハみな拔るべし 十四彼等を棄おけ瞽者の相する
瞽者なり若めしひのもの瞽者の相せバ二人とも溝に落べし 十五ペテロイエ
スに答て曰けるハ此譬を我儕に解たまへ 十六イエス曰けるハ爾曹も未た悟
ざる乎 十七凡て口に入ものハ腹を運て厠に落るを未た知ざるか 十八口より出
るものハ心より出これ人を汚すもの也 十九盖心より出る所の惡念、凶殺、姦
婬、苟合、盜竊、妄證、謗讀 二十此等ハ人を汚すものなり然ども手を洗ずして食
ふハ人を汚さず 二一イエス此を去てツロとシドンの地に往けるに 二二其地よ
り住るカナンの婦いでゝ呼ハり曰けるハ主よダビデの裔よ我を憫み給へ我
むすめ鬼に憑れて甚く苦めり 二三イエス一言も彼に答ざりしかバ其弟子き
たり請て曰けるハ我儕の後より呼ハるが故に彼を去せ給へ 二四答て曰ける
ハイスラエルの家の迷へる羊の外に我ハ遣されず 二五婦きたり拜して曰け
るハ主よ我を助たまへ 二六答けるハ兒女のパンを取て犬に投與ふるハ宜か
らず 二七婦いひけるハ主よ然され共犬もその主人の膳より落る屑を食なり

二八 遂にイエス答て曰けるハ婦よ爾の信仰ハ大なり願の如く爾に成べし此
二九 時より其女いえたり○二九イエス此を去ガリラヤの海邊にゆき山に登りて
三十 坐せり三十多の人々跛者聾者瘠者殘缺者および各樣の疾病ある者を伴ひき
三一 たりイエスの足下に置けれバ即ち之を醫しぬ三一是に於て瘠者ハものいひ
殘疾ハいえ跛者ハあゆみ聾者ハ見たるを人々見て奇みイスラエルの神を
三二 榮たり○三二イエスその弟子を呼て曰けるハ我この衆人を憫む彼等われと
偕に居ること三日にして食ふものなし飢させて去しむることを欲ず恐くハ
三三 途間にて惱ん三三其弟子かれに曰けるハ野にて此多くの人に飽るほどの
三四 パンを何處より得んや三四イエス彼等に曰けるハパン幾何あるや答けるハ
三五三六 七と些少の魚あり三五イエス人々に命じて地に坐しめ三六七のパンと魚を取
三七 て謝し之を擘て其弟子に予しかバ弟子これを人々に予ふ三七食てみな飽たり
三八 り餘の屑を拾しに七の籃に盈り三八之を食るもの婦と孩子の外に四千人あ
三九 りき三九イエス人々を去しめ舟に登てマグダラの境に至れり

第十六章

一 パイサイとサドカイの人きたりてイエスを試んとて天の休徵
二 を我儕に見せよと曰けれバ二彼等に答けるハ爾曹暮にハタ紅に由て晴お
三 らんと言三晨にも朝紅また曇ぬ由て今日ハ雨おらんといふ僞善者よ空の
四 景色を別ことを知て時の休徵を別ち能ハざる乎四姦惡ある世ハ休徵を求
るとも預言者ヨナの休徵のほか休徵を予られじ遂に彼等を離れて去ぬ○
五 五うの弟子むかふの岸に到しにパンを携ふることを忘たり六イエス彼等
六 に曰けるハ戒心してパリサイとサドカイの人の麪酵を愼めよ七弟子たが
七 ひに論じて曰けるハ是パンを携へざりし故おらん八イエスこれを知て曰
八 けるハ信仰うすき者よ何ぞ互にパンを携へざりしことを論ずる乎九未た
九 悟らざるか五千人に五のパンを予しとき幾筐ひろひし乎十また四千人に
十 七のパンを予しとき幾籃ひろひし乎十一ドカイの人の麪酵につきて言るに非るを何ぞ悟らざる十二
十一 是に於て弟子その麪酵にハあらでパリサイとサドカイの人の教を謹めと
十二

十三 言るおるを悟れり○十三イエスカイザリヤピリピの方に到しとき其弟子に
十四 問て曰けるハ人々ハ人の子を誰と言や十四彼等いひけるハ或人ハバプテス
十五 マのヨハ子或人ハエリヤ或人ハエレミヤまた預言者の一人おりと言り十五
十六 彼等に曰けるハ爾曹ハ我を言て誰とする乎十六シモンペテロ答けるハ爾ハ
十七 キリスト活神の子おり十七イエス答て彼に曰けるハヨナの子シモン爾ハ福
十八 おり蓋血肉おんぢに示せるにあらず天に在す吾父おり十八我また爾に告
ん爾ハペテロおり我が教會をこの磐の上に建べし陰府の門ハ之に勝べか
十九 らず十九又われ天國の鑰を爾ゐ予ん爾が地に於て繫ことハ天に於ても繫ゐ
二十 んぢが地に於て釋とハ天に於ても釋べし二十遂に其弟子を戒めけるハ我を
二一 キリストと人に告ること勿れ○二一此時よりイエス其弟子に己のエルサレム
に往て長老祭司の長學者等より多の苦みを受かつ殺され第三日に甦る等
二二 おすべき事を示し始む二二ペテロイエスを援とめて主よ宜らず此事爾ゐ來
二三 るまじと曰けれバ二三イエス反顧てペテロゐ曰たまひけるハサタンよ我後

二四 に退け爾ハ我に礙く者おり夫爾ハ神の事を思ハず人の事を思へり二四此時
イエス其弟子に曰けるハ若我に從ハんと欲ふ者ハ己を棄ろの十字架を負
二五 て我に從へ二五蓋生命を保全せんとする者ハ之を失ひ我ために其生命を失
二六 ふ者ハ之を得べけれバ也二六もし人全世界を得とも其生命を失ハゞ何の益
あらん乎また人おにを以て其生命に易んや二七ゐれ人の子ハ父の榮光を以
二七 て其使等と偕に來らん其時おの〳〵の行に由て報ゆべし二八誠に爾曹に告
二八 ん人の子其國を以て來るを見まで ハ此に立ものゝ中に死ざる者あるべし

第十七章 六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハ子を伴ひ人を避て高
山に登り給しが二彼等の前にて其容貌かハり其面日の如く輝き其衣ハ白
二 く光れり三モーセとエリヤ現れてイエスと偕に語ぬ四ペテロ答てイエス
三 に曰けるハ主よ我儕ここに居ハ善もし尊旨に適ハゞ我儕に三の廬を建せ
四 たまへ一ハ主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん五如此いへ
五 る時かゞやける雲かれらを蔽ふ聲雲より出て言けるハ此ハ我旨に適ふわ

六 が愛子あり爾曹これに聽べし弟子これを聞て大におそれ倒れ伏たり七
八 イエス來りて彼等に手を按おきよ懼るゝ勿れと曰ければ八其目を擧しに
九 惟イエスのほか一人をも見ざりき○九山を下る時にイエス彼等に命じて
十 人の子の死より甦るまでハ爾曹の見し事を人に告べからずと言り十其弟
十一 子とふて曰けるハ然ベエリヤハ先に來るべしと學者の云るハ何ぞや十一イ
十二 エス答て曰けるハ實にエリヤハ來て萬事を改むべし十二然ど我おんぢらに
十三 告んエリヤハ既に來しに人これを知ずたゞ意の任に彼を待へり此の如く
十四 人の子もまた彼等より苦難を受べし十三是に於て弟子バプテスマのヨハ子
十五 を指て曰たまへるを悟れり○十四彼等おほくの人の居ところに來しに或人
十六 イエスの所にきたり跪き十五曰けるハ主よ我子を憫みたまへ癲癇にて屢
十七 々火に倒れ水に倒れ甚た苦めり十六之を爾の弟子に携往たれど醫すことを
十八 得ざりき十七イエス答て曰けるハ噫信おき曲れる世おる哉われ何時まで爾
曹と偕に居んや我いつまで爾曹を忍んや彼を我もとに携來れ十八遂にイエ

十九 ス鬼を斥め給へバ鬼いでゝ其子この時より愈たり十九其とき弟子ひそかに
二十 イエスに來り曰けるハ我儕これを逐出すこと能ハざりしハ何故ぞ二十イエ
二十一 ス彼等に曰けるハ爾曹信おきが故なり我まことに爾曹に告んもし芥種の
如き信あらバ此山に此處より彼處に移れと命とも必ず移らん又おんぢら
二十二 に能ざることと無るべし二十一然ど此類ハ祈禱と斷食に非されバ出ることおし
二十三 ○二十二ガリラヤを周流ときイエス彼等に曰けるハ人の子人の手に解され三
二十四 かつ殺されて第三日に甦るべし弟子これを聞て甚だ哀めり○二十四彼等カペ
ナウシに來れるとき納金を集る者どもペテロに來て曰けるハ爾曹の師ハ
二十五 納金を出さゞる乎二十五然ずと曰てペテロ家に入しときイエスまづ彼に曰け
二十六 るハシモン爾ハ如何おもふや世界の王たちハ稅および貢を誰より徵か己
二十七 の子よりか他の者よりか二十六ペテロ彼に曰けるハ他の人より徵なりイエス
彼に曰けるハ然バ子ハ與ることなし二十七然ど彼等を礙かせざる爲に爾海に
往て釣を垂よ初につる魚を取てその口を啓かバ金一を得べし其を取て我

と爾の爲に彼等に納よ

第十八章

其とき弟子イエスに來て曰けるハ天國に於て大なる者ハ誰ぞや

二 イエス嬰兒を召かれらの中に立て 三 曰けるハ我まことに爾曹に告んも
し改まりて嬰兒の若くおらずバ天國に入ことを得じ 四 然バ凡うての嬰兒
の若く自ら謙る者ハこれ天國に於て大なる者あり 五 またわが名の爲に此
の如き一人の嬰兒を接る者ハ我を接るあり 六 然ど我を信ずる此小子の一
人を礙かする者ハ磨石をうの頸に懸られて海の深に沈られん方おほ益お
るべし 七 此世ハ禍ある哉うハ礙かする事をすれバあり礙く事ハ必ず來ら
ん然ど礙を來らす者ハ禍ある哉ハ若しおんぢの手なんぢの足おのれを礙
かさバ斷て之を棄よ兩手兩足ありて盡ざる火に投入られんよりハ跛また
ハ殘缺にて生に入ハ善あり 九 もしなんぢの眼おのれを礙かさバ拔出して
之を棄よ兩眼ありて地獄の火に投入られんよりハ一眼にて生に入ハ善あ
り ○ 十 爾曹この小子の一人をも愼みて輕視おかれ我おんぢらに告ん彼等

が天の使者ハ天にありて天に在す吾父の面を常に覩バなり 十一 これ人の子
ハ亡たる者を救ハん爲よ來れり 十二 爾曹いかに意ふや人もし百匹の羊あら
んに其一匹まよハゞ九十九を山に置ゆきて迷し一を尋ざる乎 十三 若たづね
て之よ遇バ我まことに爾曹に告ん迷ざる九十九の者よりも尚その一を喜
ん 十四 是のごとくこの小子の一人の亡るハ天に在す爾曹が父の尊旨に非ず
十五 もし兄弟なんぢに罪を犯バうの獨ある時に往て諫よもし爾の言を聽バ
うの兄弟を獲べし 十六 もし聽ずハ兩三人の口に由て證をなし凡の言を定ん
が爲に一人二人を伴ひ往 十七 もし彼等にも聽ずバ教會に告よもし教會に聽
ずバ之を異邦人かつ稅吏のごとき者とすべし 十八 我まことに爾曹に告ん凡
うの爾曹が地に於て繫ことハ天に於ても繹べし 十九 我また爾曹に告んもし爾曹のうち二人のもの地に於て繹ことハ天に
合せ何事にても求バ天に在す吾父ハ彼等の爲よ之を成たまふべし 二十 我
が名の爲に二三人の集れる處にハ我も其中に在バなり ○ 二十一 時ペテロイ

エスに來りて曰けるハ主よ幾次まで我兄弟の我に罪を犯すを赦べきか七次
まで乎 三イエス彼に曰けるハ爾に七次と言ず七次を七十倍せよ 三是故
に天國ハ王その臣と會計を調んとするが如し 三調べ始しとき千萬金の負
債したる者を王に曳來りしに 三償ひ方なかりけれバ之に命じて其身ろの
妻孥とあらゆる所有をみな鬻て償へと曰り 三六うの臣ひれふして拜し曰け
るハ請われを寬し給ハゞ皆償ふべし 三七是に於てその臣の主憐みて之を釋
その負債を免したり 三八其臣いでゝ己より銀一百の負債したる友に遇けれ
バ之を執へ喉をとり負債を返せと曰 三九その友足下に俯伏て求いひけるハ
我を寬し給ハゞ皆償ふべし 三十然るに之を肯ハずして往ろの負債を償ふま
で彼を獄に入ぬ 三一外の友ろの爲る事を見て甚だ哀み往て此事を皆その主
に告しかバ 三二主かれを召て曰けるハ惡き臣よ爾われに求しに因て我その
負債を悉く免したり 三三我なんぢを憐みし如く爾も亦友を憐むべかりに非
ずや 三四その主いかりて負債をみな償ふまで彼を獄吏に付せり 三五若おのお

の其心より兄弟を赦ずバ我が天の父も亦おんぢらに此の如く行給ふべし

第十九章 イエス此等の事を言畢りしときガリラヤを去てヨルダンの外ユ
ダヤの境に至りけるに 二多の人々從ひしかバ此處にて彼等を醫し給へり
三パリサイの人きたりてイエスを試み曰けるハ人おのの故に係らず其妻
を出すハ宜か 四答て彼等に曰けるハ元始に人を造り給ひし者ハ之を男女
に造れり 五是故に人父母を離れて其妻に合二人のもの一體と爲なりと云
るを未だ讀ざるか 六然バはや二にハ非ず一體なり神の合せ給へる者ハ人
これを離すべからず 七イエスに曰けるハ何ぞやモーセハ爾曹の心の不情に因て
トーガが命せしハ何ぞや 八彼等に曰けるハモーセハ元始ハ如此あらざりき 九我なんぢらに
妻を出すことを容したる也されど其妻を出し他の婦を娶る者ハ姦淫を行ふなり 十弟子等イエスに曰けるハ若
告んもし姦淫の故ならで其妻を出したれバ人妻に於て此の如くバ娶ざるに若ず 十一彼等に曰けるハ此言ハ人みな受
いたされたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり 十二又

十二 納ること能ハず唯賦られたる者のみ之を爲うべし十三 是れ母の腹より生來
たる寺人あり又人にせられたる寺人あり又天國の爲に自らなれる寺人あ
り之を受納ることを得ものハ受納べし○十三 其とき人々イエスの手を按て
祈らんことを求ひ嬰兒を彼に携來りけれバ弟子是を阻たり十四 イエス曰け
るハ嬰兒を容せ我に來ることを禁しむる勿れ天國にをる者ハ此の如き者
なり十五 即ち彼等に手を按て此を去ぬ○十六 或人きたりて彼に曰けるハ善師
よ我かぎりなき生を得んが爲にハ何の善事を行べきか十七 彼に曰けるハ何
故われを善と稱や一人の外に善者ハおし即ち神あり若し生命に入んと欲
ハゞ誡を守るべし十八 彼こたへけるハ何かイエス曰けるハ殺す勿れ姦淫す
る勿れ盜む勿れ妄りの證を立る勿れ十九 爾の父と母を敬へ又己の如く爾の
隣を愛すべし二十 少者かれに曰けるハ是みな我いとけなきより守れるもの
なり何の虧たるところ我にある乎二一 イエス彼に曰けるハ全からん事を欲
ハゞ往て爾が所有を售て貧者に施せ然れバ天に於て財あらん而して來り

二二 我に從へ 二三 少者この言を聞て憂へ去ぬ彼の產業おほいなりけれバ也○二三
イエスうの弟子に曰けるハ誠に爾曹に告ん富者ハ天國に入こと難し二四 ま
た爾曹に告ん富者の神の國に入よりハ駱駝の針の孔を穿るハ却て易し二五
弟子之を聞て甚く驚き曰けるハ然バ誰か救を受べき乎二六 イエス彼等を見
て曰けるハ是人にハ能ハざる所あり然ど神にハ能ハざる所おし○二七 此と
きペテロ答てイエスに曰けるハ我儕一切を棄て爾に從へり然バ何を得べ
き乎二八 イエス彼等に曰けるハ我まことに爾曹に告ん我に從へる爾曹ハ世
あらたまり人の子榮光の位に坐する時おんぢらも十二の位に坐してイス
ラエルの十二の支派を鞫べし二九 凡て我名の爲に家宅あるひハ兄弟あるひ
ハ姉妹あるひハ父あるひハ母あるひハ妻あるひハ子あるひハ田疇を棄る
者ハ百倍を受かつ窮なき生を嗣ん三十 多の先おる者ハ後になり後なる者ハ
先におるべし

第二十章 三 うれ天國ハ朝はやく出て葡萄園に工人を雇ふ主人の如し二 工人

三 に一日に銀一枚を予んと約束をなし彼等を葡萄園に遣せり　三 また九時
四 ごろ出て街に徒く立る者を見て　四 爾曹も葡萄園にゆけ相當の價を予んと
五 彼等に曰けれバ則ち往り　五 また十二時と三時ごろ出て前の如く行り　六 五
六 時ごろ出て又ほかの立る者に遇て曰けるハ何ゆゑ終日こゝに徒く立や　七
七 之に答て曰けるハ我儕を雇ふ物なきに因てなり彼等に曰けるハ爾曹も葡
八 萄園にゆけ相當の價を得べし　八 日暮るとき葡萄園の主人その家宰に曰け
九 るハ勞力たる者等を呼て後に雇へる者を始とし先の者にまで價を給へよ
九 五時ごろに雇ハれし者ども來りて銀一枚づゝを受たり　十 先の者ども來
十一 りて我儕ハ多く受るならんと意ひしに亦銀一枚づゝを受　十一 これを受て主
十二 人を怨つぶやきけるハ　十二 この後至者の勞力たるハ一時はかりなるに終日
十三 くるしみを任あつさに當る我儕と均しく之をなせり　十三 主人その一人に答
て曰けるハ友よ我なんぢに不義をせず爾と銀一枚の約束をなしたるに非
十四 十五 ずや　十四 爾のものを取て往われ亦この後至者にも爾の如く予ふべし　十五 我物

十六 を以て我おもふ如く行ハ宜らず乎わが善に因て爾の目あしき乎　此の如
く後の者ハ先に先の者ハ後におるべし夫よバるゝ者ハ多しと雖も選るゝ
十七 者ハ少なし○　十七 イエスエルサレムに上るとき途間にて人を離れ十二弟子
十八 を伴ひて彼等に曰けるハ　十八 我儕エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と學
十九 者等に賣されん彼等これを死罪に定め　十九 また凌辱鞭ち十字架に釘んが爲に
二十 異邦人に解すべし又第三日に甦へるべし○　二十 其時ゼベダイの子等の母ろ
二一 の子と偕にイエスに來り拜して彼に求ること有けれバ　二一 之に曰けるハ何
を欲ふかイエスに曰けるハ此二人の我子を爾の國に於て一人ハ爾の右一
二二 人ハ爾の左に坐ることを命せよ　二二 イエス答て曰けるハ爾曹ハ求ところを
二三 知ず爾曹ハ我が飲んとする杯をのみ又わが受んとするバプテスマを受得
るや彼等いひけるハ能すべし　二三 イエス彼等に曰けるハ誠に爾曹ハ我が杯
を飲また我うくるバプテスマを受べし然ど我が右左に坐ることハ我が賜
二四 べきに非ず只わが父に備られたる者ハ賜らるべし　二四 十人の弟子これを聞

二五 て二人の兄弟を憤れり 二五イエス彼等を召て曰けるハ異邦の領主ハうの民
二六 を主どり大人どもハ彼等の上に權を操てれ爾曹が知ところ也 二六然ど爾曹
の中にてハ然すべからず爾曹のうち大ならんと欲ふ者ハ爾曹に役るゝ者
二七 となるべし 二七また爾曹のうち首たらんと欲ふものハ爾曹の僕となるべし
二八 二八此の如く人の子の來るも人を役ふ爲にハ非ず反て人に役ハれ又おほく
二九 の人に代て生命を予うの贖とならん爲なり ○ 二九彼等エリコを出し時おほ
三十 くの人々イエスに從へり 三十二人の瞽者路の旁に坐をりしがイエスの過る
三一 と聞て呼叫いひけるハダビデの裔主よ我儕を憫み給へ 三一衆人これに默れ
三二 と戒むれども愈さけび曰けるハダビデの裔主よ我儕を憫みたまへ 三二イエ
三三 ス立止て之を呼いひけるハ爾曹われに何を爲られんと願ふや 三三イエスに
三四 曰けるハ主よ我儕目の啓んことを願ふ 三四イエス憫みて其目に手を按けれ
ば直に見ることを得イエスに從へり

第二十章 かれら橄欖山のベテパゲに至りエルサレムに近ける時イエス

二 二人の弟子を遣さんとして二彼等に曰けるハ爾曹むかふの村に往やがて
三 繫たる驢馬の其子と偕にあるに遇ん夫を解て我に牽きたれ 三若なんぢら
四 に何とか言ものあらバ主の用なりと曰さらバ直に之を遣すべし 四預言者
五六 の言に視よ爾の王ハ柔和にして驢馬すなハち驢馬の子に乘なんぢに來る
七 とシヨンの女に告よと 五云るに應せん爲に如此なせる也 六弟子ゆきてイ
八 エスの命せし如くなし 七驢馬と其子を牽きたり己の衣をうの上に置けれ
九 バイエス これに乘り 八衆人おほくハ其衣を途に布ぬ 九かつ前にゆき後に從ふ人々呼いひけるハダビデの裔ホザナよ主
十 の名に託て來る者ハ福なり至上處にホザナよ ○ 十イエス エルサレムに至
十一 れるとき都城こぞりて竦動いひけるハ是誰ぞや 十一衆人いひけるハ此ハガ
リラヤのナザレより出たる預言者イエスなり ○ 十二イエス神の殿に入て其
十二 中なる凡の賣買する者を逐出し兌銀者の案牘をうる者の椅子を倒し 十三彼
十三 等に曰けるハわが家ハ祈禱の家と稱らるべしと錄さる然るに爾曹これを

十四 盜賊の巢となせり 十四瞽者跛者の人々殿に入てイエスに來りければ之を醫
十五 しぬ 十五祭司の長と學者たち其行たまへる奇事を見また兒童輩の殿にて呼
十六 ハりダビデの裔ホザナよと云を聞て怒を含ㇾイエスに曰けるハ彼等が言
　 ことを聞やイエス答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者の口に讃美を備たりと錄
十七 されしを未た讀ざる乎 十七遂に彼等を離れ都城を出てベタニヤに往そこに
十八 宿れり 十八翌あさ都城へ返るとき飢けれバ
十九 樹を見て其處に來りしに葉の他に何も見ざりしかバ今よりのち永久も果
二十 を結ぶことを得ざれと之に曰たまひければ無花果立刻に枯ぬ 二十弟子これを
二一 見て奇み曰けるハ無花果の枯ること何に速や 二一イエス答て彼等に云ける
　 ハ我まことに爾曹に告んもし信仰ありて疑ハずバ此無花果に於るが如耳
二二 ならず此山に命じ此より移されて海に入よと云とも亦成ん 二二且なんぢら
　 信じて祈らバ求ふ所ことごとく得べし 二三イエス殿に入て教たるとき祭司
二三 の長および民の長老たち來り曰けるハ何の權威を以て此事をなすや誰て

二四 の權威を爾に予しや 二四イエス答て彼等に曰けるハ我も一言なんぢらに問
　 ん我にうの事を告なは我も何の權威をもて之を行といふことを爾曹に曰
二五 べし 二五ヨハ子のバプテスマハ何處よりぞ天よりか人よりか彼等たがひに
二六 論じ曰けるハ若し天よりと云バ然は何ゆゑ信せざるかと云ん 二六もし人よ
二七 りと云べ我儕民を畏る蓋みなヨハ子を預言者と爲バなり 二七遂に答て知ず
　 と曰イエス彼等に曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語らじ 二八
二八 爾曹いかに意ふや或人二人の子ありしが長子に來りて曰けるハ子よ今日
二九 わが葡萄園に往て働け 二九答て否と曰しがのち悔て往たり 三〇また次子にも
三〇 前の如く曰けるに答て君よ我往べしと曰しが遂に往ざりき 三一此二人のも
三一 の孰か父の旨に遵ひし彼等いひけるハ長子なりイエス彼等に曰けるハ誠
　 に爾曹に告ん稅吏および娼妓ハ爾曹より先に神の國に入べし 三二夫ヨハ子
三二 義道をもて來りしに爾曹これを信せず稅吏娼妓ハ之を信じたり爾曹これ
三三 を見てなほ悔改めず彼を信せざりき 三三また一の譬を聞ある家の主人葡

葡萄園を樹り籬を環らし其中に酒榨をほり塔をたて農夫に貸て他の國へ往
しが三五果期ちかづきければ其果を收ん爲に僕を農夫のもとに遣せり三六農
夫ども其僕等を執へ一人を鞭ち一人を殺し一人を石にて擊り三七また他の
僕を前よりも多く遣しけるに之にも前の如くなせり三八我子は敬ふならん
と謂て終に其子を遣しつゝに三九農夫等ろの子を見て互に曰けるは此は嗣子
なり率これを殺して其産業をも奪べしと四〇即ち之を執へ葡萄園より逐出
して殺せり四一然ば葡萄園の主人きたらん時にこの農夫に何を爲べき乎四二
彼等イエスに曰けるは此等の惡人を甚く討滅し期に及てその果を納る他
の農夫に葡萄園を貸予ふべし四三イエス彼等に曰けるは聖書に工匠の棄た
る石は家の隅の首石となれり是主の行給ることにして我儕の目に奇とす
る所なりと錄されしを未だ讀ざる乎四四是故に我なんぢらに告ん神の國を
爾曹より奪うの果を結ぶ民に予らるべし四五この石の上に墜るものは壞こ
の石上に墜れば其ものの碎かるべし四六祭司の長等およびパリサイの人かれ

の譬を聞おのれらを指て言るを識四六イエスヲ執へんと欲ひ謀しかど唯民
を畏たり蓋人々かれを預言者とすれば也

第廿二章　イエス彼等に答てまた譬を語りけるは二天國は或王ろの子の
爲に婚筵を設るが如し三婚筵に請おける者を迎ん爲に僕たちを遣しつか
ど彼等きたることを好まず四又ほかの僕を遣さんとして曰けるは我が筵
すでに備れり我が牛また肥畜をも宰りて盡く備りたれば婚筵に來れと請
たる者に言五然ども彼等かへりみづして去ぬ其一人は己の田にゆき一人
は己の貿易に往り六他の者等はその僕を執へ辱しめて殺せり七王これを
聞て怒り軍勢を遣して其殺せる者を亡し又その邑を燒たり八是に於てそ
の僕等に曰けるは婚筵すでに備れども請たる者は客となるに堪ざる者な
れば九衢に往て遇ほどの者を婚筵に請け十その僕途に出て善者をも惡者
をも遇ほどの者を悉く集れば婚筵の客充滿す十一王客を見んとて來りけ
るに玆に一人の禮服を着ざる者あるを見て十二之に曰けるは友よ如何なれ

十三 ハ禮服を着ずして此處に來る乎かれ默然たり 十三 遂に王僕に曰けるハ彼の
十四 手足を縛りて外の幽暗に投いたせ其處にて哀哭また切齒すること有ん 十四
十五 うれ召る〻者ハ多しと雖も選る〻者ハ少なし○ 十五 此時パリサイの人いで
十六 ゆ如何してか彼を言誤らせんと相謀り 十六 其弟子とヘロデの黨を遣して
十七 云せけるハ師よ爾ハ眞なる者なり眞をもて神の道を教また誰にも偏らざ
十八 ることを我儕ハ知うハ貌に由て人を取されバ也 十七 然ベ貢をカイザルに納
十九 るハ善や惡や爾いかに意ふか我儕に告よ 十八 イエスその惡を知て曰けるハ
二十 僞善者よ何ぞ我を試むるや 十九 貢の銀錢を我に見せよ彼等デナリ一をイエ
二一 スに携來りしに 二十 之に曰けるハ此像と號ハ誰か 二一 答てカイザル也といふ
二二 是に於てイエス彼等に曰けるハ然ベカイザルの物ハカイザルに歸しまた
二三 神の物ハ神に歸すべし 二二 彼等之をきゝ奇としてイエスを去ゆけり○ 二三 復
二四 生なしと言なせるサドカイの人この日イエスにきたり問て 二四 曰けるハ師
よモーセの云るに人もし子なくして死ベ兄弟その妻を娶りて子をうみ兄

二五 弟の後を嗣すべしと 二五 玆に我儕の中に兄弟七人ありしが兄めとりて死子
二六 なきが故に其妻を次子に遺れり 二六 ゆの二ゝの三ゝの七まで皆然す 二七 後つ
二八 ひに婦もまた死たり 二八 甦るとき ハ此婦七人のうち誰の妻と爲べきか是み
二九 な彼を娶し者なれバ也 二九 イエス答て彼等に曰けるハ爾曹聖書をも神の能
三十 力をも知ざるに由て謬れり 三十 甦るときハ娶らず嫁ず天にある神の使
三一 等の如し 三一 死し者の甦ることに就てハ爾曹に神の告たまひし言に 三二 我ハア
ブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるを未だ讀ざる乎ゆも〳〵
三二 神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり 三三 人々これを聞て其訓を驚けり○
三三 イエスサドカイの人をして口を塞がしめたりと聞てパリサイの人一處
三四 に集りけるが 三五 其中なる一人の教法師イエスを試みん爲に問て曰けるハ
三五 師よ律法のうち何の誡か大なる 三七 イエス答けるハ爾心を盡し精神を盡
三六 し意を盡し主なる爾の神を愛すべし 三八 これ第一にして大なる誡なり 三九
三七 第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし 四十 凡の律法と預言者ハ此

四一 二の誡に因り○四二パリサイの人の集れる時イエス彼等に問て曰けるハ四三
　 爾曹キリストについて如何おもふ乎これ誰の子おるか彼等イエスに曰け
四三 るハダビデの裔なり四三彼等に曰けるハ然バダビデ靈に感じて何故これを
四四 主と稱へし乎ダビデ言四四主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足發と
四五 なすまで我みぎに坐すべしと四五然バダビデ既に之を主と稱たれバ如何ろ
四六 の子ならん乎四六誰一言これに答ること能ハず此日より敢て又とふ者なか
　 りき

第廿三章

二 厥時イエス人々と弟子とに告て曰けるハ二學者とパリサイの
三 人ハモーセの位に坐す三故に凡て彼等が爾曹に言ところを守て行ふべし
四 然ど彼等が行ふ所を爲こと勿れ蓋かれらハ言のみにして行ハざれバ也四
五 また彼等ハ重かつ負がたき荷を括て人の肩に負せ己ハ一の指をもて之を
六 動すことすら好ず五彼等の行ハ凡て人に見れんが爲にする也ろの佩經を
　 幅闊し其衣の裾を大にし六また筵席の上座會堂の高座七市上の問安人々
七 より ラビ ラビと稱られんことを好むハ爾曹ハラビの稱を受ること勿れ蓋
八 なんぢらの師ハ一人すなハちキリストなり爾曹ハみな兄弟なり八また地
九 にある者を父と稱ること勿れ爾曹の父ハ一人すなハち天に在す者なり九
十 また導師の稱を受ること勿れ蓋なんぢらの導師ハ一人すなハちキリスト
十一 なり十爾曹のうち大なる者ハ爾曹の僕と爲べし十一凡ろ自己を高する者ハ
十二 卑せられ自己を卑する者ハ高せられん○十二噫なんぢら禍なるかな僞善な
十三 る學者とパリサイの人よ蓋なんぢら天國を人の前に閉て自ら入ず且いら
十四 んとする者の入をも許されバ也十四噫なんぢら禍なるかな僞善なる學者
十五 とパリサイの人よ蓋なんぢら寡婦の家を呑いつハりて長き祈をなす之に
十六 由て爾曹最も重き審判を受べければ也十五あゝ禍なるかな僞善なる學者と
　 パリサイの人よ蓋なんぢら徧く水陸を歷巡り一人をも己が宗旨に引入ん
　 とす既に引入れバ之を爾曹よりも倍したる地獄の子と爲り十六噫なんぢら
　 禍なるかな瞽者なる相よ爾曹ハいふ人もし殿を指て誓ハゞ事なし殿の金

十七 を指て誓ハざ背べからずと 十七愚にして瞽なる者よ金と金を聖からしむる
十八 殿とハ孰か尊き 十八又いふ人もし祭の壇を指て誓ハざ事なし其上の禮物を
十九 指て誓ハざ背べからずと 十九愚にして瞽なる者よ禮物と禮物を聖からしむ
二十 る祭の壇とハ孰か尊き 二十それ祭の壇を指て誓ふ者ハ祭の壇および其上の
二一 凡の物を指て誓ふなり 二一また殿を指て誓ふ者ハ殿および其中に在す者を
二二 指て誓ふなり 二二また天を指て誓ふ者ハ神の寶座および其上に坐する者を
二三 指て誓ふなり○ 二三噫なんぢら禍なるかな偽善なる學者とパリサイの人よ
二四 蓋なんぢら薄荷、茴香、馬芹の十分の一を取納て律法の最も重き義と仁と
二五 信とを爾曹ハ廢これ行ふ可もの也かれも亦廢べからざる者なり 二四瞽者な
二六 る相者よ爾曹ハ蠓を漉出して駱駝を呑ものなり 二五あゝ禍なる哉偽善なる
二七 學者とパリサイの人よ爾曹杯と盤の外を潔して內にハ貪欲と淫欲とを充
二八 せり 二六瞽者なるパリサイの人よ爾曹まづ杯と盤の內を潔せよ然ばうの外
二九 も亦きよまるべし○ 二七噫なんぢら禍なる哉偽善なる學者とパリサイの人

二八 よ爾曹ハ白く塗たる墓に似たり外ハ美しく見れども內ハ骸骨と諸の汚穢
二九 にて充 二八此の如く爾曹もまた外ハ義く人に見れども內ハ偽善と不法にて
三十 充 二九噫なんぢら禍あるかな偽善ある學者とパリサイの人よ爾曹預言者の
三一 墓をたて義人の碑を飾れり 三十又いふ我儕もし先祖の時にあらば預言者の
三二 血を流すに與せざりしをと 三一然ば爾曹ハ預言者を殺し者の裔なるとを
三三 自ら證す 三二なんぢら先祖の量を充せ 三三蛇蝮の類よ爾曹いかで地獄の刑罰
三四 を免れんや 三四是故に我爾曹に預言者と智者と學者を遣さんに或ハ之を殺
三五 し又十字架に釘或ハ其會堂にて之を鞭ち或ハ邑より邑へ逐苦めん 三五うハ
義あるアベルの血より殿と祭の壇の間にて爾曹が殺しバラキヤの子ザカ
リアの血に至るまで地に流したる義人の血ハ凡て爾曹に報來らんが爲ぬ
三六 り 三六われ誠に爾曹に告ん此事みな此代に報來るべし 三七噫エルサレムよエ
ルサレムよ預言者を殺し爾に遣さるゝ者を石にて擊ものよ母雞の雛を翼
の下に集る如く我なんぢの赤子を集んとせしと幾次ぞや然ど爾曹ハ好ざ

三八 三九 りき 三九 視よ爾曹の家ハ荒地となりて遺れん 三九 われ爾曹に告ん主の名に託
て來る者ハ福なりと爾曹の云んとき至るまでハ今より我を見ざるべし

第二十四章

一 イエス殿より出けれバ其弟子すゝみて殿の搆造を彼に觀せん
二 としたりしに 二 イエス彼等に曰けるハ爾曹すべて此等を見ざるか我まこ
三 とに爾曹に告ん此處に一の石も石の上に圮れずしてハ遺らじ 三 イエス橄
欖山に坐し給へるとき弟子ひそかに來りて曰けるハ何の時このこと有や
四 又爾の來る兆と世の末の兆ハ如何あるぞや我儕に告たまへ 四 イエス答て
五 曰けるハ人の汝等を欺くやう愼よ 五 蓋おほくの人わが名を冒
六 彼等に曰けるハ爾曹人に欺かれざるやう愼よ 六 蓋おほくの人わが名を冒
きたり我ハキリストなりと云て多の人を欺くべし 六 又なんぢら戰と戰の
七 風聲をきかん然ど愼て懼るゝ勿れ此等の事ハ皆ある可なり然ども末期ハ
八 未だ至らず 七 民おこりて民を攻め國ハ國をせめ饑饉、疫病、地震ところど
九 ころに有ならん 八 是みな禍の始なり 九 其とき人おんぢらを患難に付し爾
十 曹を殺すべし又なんぢら我名の爲に萬民に憎れん 十 此とき許多のもの躓

十一 かつ互に付し互に憾むべし 十一 また僞預言者おほく起て多の人を欺かん 十二
十二 また不法みつるに因て多の人の愛情ひやゝかに爲べし 十三 然ど終まで忍ぶ
十三 者ハ救るゝことを得ん 十四 又天國の此福音を萬民に證せん爲に普く天下に宣
十四 傳られん然るのち末期いたるべし 十五 是故に預言者ダニエルに託て言れた
十五 る所の殘暴にくむべきもの聖處に立を見バ（讀者よく思ふべし）十六 厥時ユ
十六 ダヤにをる者ハ山に遁れよ 十七 屋上に在ものハ其家の物を取んとて下る勿
十七 れ 十八 田にをる者ハ其衣を取んとて歸る勿れ 十九 其日にハ孕める者と乳を飲
十八 十九 する婦ハ禍なる哉 二十 爾曹冬またハ
二十 とき大なる患難あり此の如き患難ハ世の始より今に至るまで有ざりき又
二一 後にも有じ 二一 若その日を少くせられずバ一人たに救るゝ者なからん然ど
二二 選れし者の爲に其日ハ少くせらるべし 二二 其時もしキリスト此處にあり彼
二三 處にありと爾曹にいふ者あるとも信ずる勿れ 二三 うハ僞キリスト僞預言者
二四 たち起て大ある休徵と異能を行ひ選れたる者をも欺くことを得バ之を欺

く可れバ也三五われ預じめ爾曹に之を告 三六若キリスト野に在といふ者ある
とも出る勿れ室に在と云もの有とも信ずる勿れ 三七うハ電の東より出て西
にまで閃くが如く人の子も來るべけれバ也 三八うれ屍のある處にハ鷲あつ
まらん 三九此等の日の患難の後たゞちに日ハ晦く月ハ光を失ひ星ハ空より
おち天の勢ひ震ふべし 四〇其とき人の子の兆天に現るまた地上にある諸族
ハ哭哀み且人の子の權威と大かなる榮光をもて天の雲に乘來るを見ん 四一又
その使等を遣し笏の大なる聲を出しめて天の此極より彼極まで四方より
其選れし者を集むべし○四二夫ゐんちら無花果樹に由て譬を學べ其枝すで
に柔かにして葉萌めバ夏の近きを知 四三此の如く爾曹も凡て此等の事を見
バ時ちかく門口に至ると知 四四われ誠に爾曹に告ん此等の事こと〴〵く成
まで此民ハ廢さるべし 四五天地ハ廢ん然ど我言ハ廢じ 四六その日うの時を知
ものハ唯わが父のみ天の使者も誰もしる者なし 四七ノアの時の如く人の子
の來るも亦然らん 四八うれ洪水の前ノアの方舟にいる日までハ人々飲食嫁娶

なゞして 三九洪水の來り悉く之を滅すまで知ざりき此の如く人の子も亦き
たらん 四〇其とき二人田に在んに一人ハ取れ一人ハ遺さるべし 四一二人の婦
磨ひき居んに一人ハ遺さるべし 四二是故に爾曹の主いづれの
時きたるかを知ざれバ怠らずして守れ 四三爾曹これを知もし家の主人ぬす
びと何の時きたるかを知バ其家を守て破らすまじ 四四然バ爾曹もまた預備
せよ意ざる時に人の子きたらんと爲バなり 四五時に及て糧を彼等に予さす
る爲に主人がうの僕等の上に立たる忠義にして智僕ハ誰なる乎 四六その主
人の來らん時かくの如く勤るを見るゝ僕ハ福なり 四七我まことに爾曹に告
ん其所有をみな彼に督らすべし 四八若その惡僕おのが心に我が主人の來る
ハ遲らんと意ひ 四九その朋輩を打撻きて酒に醉たる者ぐもと共に飲食し始
なバ 五〇うの僕の主人おもハざるの日しらざるの時に來りて 五一之を斬殺し
其報を僞善者と同うすべし其處にて哀哭切齒すること有ん

第二十五章

其とき天國ハ燈を執て新郎を迎に出る十人の童女に比ふべし

二 その中の五人ハ智く五人ハ愚なり 三 愚なる者ハ其燈をとるに油を携へ
さりしが 四 智き者ハ其燈と兼に油を器に携へたり 五 新郎おそかりければ
皆假寐して眠れり 六 夜半ばに叫びて新郎きたりぬ出て迎よと呼聲ありけ
れば 七 この童女ども皆おきて其燈を整へたるに 八 愚なるもの智き者に曰
ける ハ 我儕の燈熄んとす願くハ爾曹の油を我儕に分予へよ 九 智きもの答
て曰けるハ我儕と爾曹とに恐くハ足まじ爾曹賣者に往て己が爲に買へ
れら買んとて往しとき新郎きたりければ既に備たる者ハ之と偕に婚筵に
入しかば門ハ閉られたり 十一 斯て後ろの餘の童女きたりて曰けるハ主よ主
よ我儕の爲に開たまへ 十二 答て我まことに爾曹に告ん我ハ爾曹を知ずと曰
り 十三 然ば怠らずして守れ爾曹その日その時を知ざれば也 〇 十四 また天國ハ
或人の旅行せんとして其僕をよび所有を彼等に預るが如し 十五 各人の智慧
に從ひて或者にハ銀五千或者にハ二千或者にハ一千を予へをき直に旅行
せり 十六 五千の銀を受し者ハ往て之を貿易し他に五千を得たり 十七 二千を受

十八 し者もまた他に二千を得たり 十九 然るに一千を受し者ハ往て地を堀ろの主
の金を藏せり 二十 歷久て後ろの僕等の主かへりて彼等と會計せしに 二十一 五千
の銀を受し者その他に五千の銀を携來りて主よ我に五千の銀を預しが他
に五千の銀を儲たりと曰ければ 二十二 主かれに曰けるハあゝ善かつ忠なる僕
ぞ爾寡なる事に忠なり我なんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入
よ 二十三 二千の銀を受し者きたりて主よわれに二千の銀を預しが他に二千の
銀を儲たりと曰ければ 二十四 主かれに曰けるハあゝ善且忠なる僕ぞおんぢ寡
なる事に忠なり我おんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ 二十五 ま
た一千の銀を受し者きたりて曰けるハ主よ爾ハ嚴人にて播ざる處より穫
ちらさゞる處より斂ることを我ハ知 二十六 故に我懼てゆき主の一千の銀を地
に藏し置り今なんぢ爾の物を得たり 二十七 ろの主たへて曰けるハ惡かつ惰
れる僕ぞ爾わが播ざる處より散さゞる處より斂ることを知か 二十八 しからば我が金を兌換舖に預置べきなり然ば我が歸たるとき本と利とを受べ

二八 二九 三十 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四十

し二八是故に彼の一千の銀ある者に予よ二九うれ有る者ハ予
られて尚あまりあり無有者ハうの有る物をも奪るゝ也三十無益なる僕を外
の幽暗に逐やれ其處にて哀哭切齒することと有ん○三一人の子おのれの榮光
をもて諸〳〵の聖使を率來るときハうの榮光の位に坐し三二萬國の民をうの前
に集め羊を牧者の綿羊と山羊とを別が如く彼等を別ち三三綿羊をうの右に
山羊をうの左に置べし三四斯て王うの右にをる者に云ん吾父に惠るゝ者よ
來りて創世より以來なんぢらの爲に備られたる國を嗣三五蓋なんぢら我が
飢し時われに食せ渴しとき我に飲せ旅せし時われに衣せ病しとき我をみまひ獄に
われに衣せ病しとき我をみまひ獄に在しとき我に就れバなり三七是に於て
義者かれに答て云ん主よ何時なんぢの飢たるを見て食せまた渴たるに飲
しゝ乎三八何時主の旅したるを見て宿らせまた裸なるに衣しや三九何時主の
病また獄に在を見て爾に至りし乎四十王てたゝへて彼等に曰ん我まことに爾
曹に告ん既に爾曹わが此兄弟の最微者の一人に行へるハ即ち我に行しな

四一 四二 四三 四四 四五 四六

り四一遂にまた左にをる者に曰ん詛せらるべき者よ我を離れて惡魔と其使
者の爲に備たる熄ざる火に入よ四二蓋なんぢら我が飢し時われに食せず渴
しとき我に飲せず四三旅せし時われを宿らせず裸なりし時われに衣ず病ま
た獄に在し時われを顧ざれバ也四四是に於て彼等また答て曰ん主よ何時な
んぢの飢また渴また旅し又裸また病また獄に在を見て主に事ざりし乎四五
其とき王てたゝへて彼等にいハん我まことに爾曹に告ん此最微者の一人に
行ハざるハ即ち我に行ハざりし也四六此等の者ハ窮なき刑罰にいり義者ハ
窮なき生命に入るべし

第二十六章

二 三 四 五 六

二偖イエスこの諸〳〵の言を言竟りて其弟子に曰けるハ二日れの
ち逾越節なるハ爾曹が知ところ也それ人の子ハ十字架に釘られん爲に付
さるべし三此とき祭司の長おょび民の長老等カヤバと云る祭司の長の邸
の庭に集り四詭計をもてイエスを執へ殺さんと共々に謀いひけるハ五祭
の日にハ行べからず恐くハ民の中に亂おこらん○六イエスベタニヤの癩

七 病人シモンの家に居たまへる時 七ある婦蠟石の器物に價たかき香膏を盛
八 てイエスの食する所に携來り其首に斟しかゝれば弟子等これを見て怒を含
九 いひけるは此糜費のことを爲は何故ぞや 九若これを賣ば多の金を得て貧者
十 に施すことを得んとイエス知て彼等に曰けるは何ぞ此婦を惱すや彼は我
十一 に善事を行なへる也 十一貧者は常に爾曹と偕にあれど我は常に爾曹と偕に
十二 在ず 十二彼がこの香膏を我體に斟しは我の葬の爲に行る也 十三まこと
十三 に告ん天の下いづくにても此福音の宣傳らるゝ處には此婦の行し事もう
十四 の紀念の爲に言傳らるべし〇 十四其とき十二弟子の一人なるイスカリオテ
十五 のユダと云るもの祭司の長等の所に往て曰けるは 十五我なんぢらに彼を賣
十六 さば幾何を予るか遂に銀三十にて約したり 十六此時よりイエスを賣さんと
十七 機を窺ひぬ〇 十七除酵節の首の日弟子イエスに來り曰ひけるは我儕すぎ
十八 こしの食を爾の爲に何處に備ふべき乎 十八イエス曰けるは京城にいり某に
至ていへ師いふ我が時近きければ我弟子と偕に逾越の節筵を爾が家に行

十九 べしと 十九弟子イエスに命せられし如して逾越の食を備ふ 二十日くるとき時イ
二十 エス十二弟子と偕に席に就 二一食する時いひけるは我まことに爾曹に告ん
二一 爾曹のうち一人われを賣なり 二二彼等いたく憂て 各イエスに曰出けるは
二二 主よ我なる乎 二三答て曰けるは我と偕に手を盂に着る者は即ち我を賣す者
二三 なり 二四人の子は已について錄されたる如く逝ん然ど人の子を賣す者は禍
二四 なる哉その人生れざりしならん反て幸なりしならん 二五彼を賣すユダ答て
二五 曰けるはラビ我なるや之に曰けるは爾の言る如し 二六かれら食する時イエ
二六 スパンを取て祝し之をさき弟子に予て曰けるは取て食これは我身なり 二七
二七 また杯を取て謝し彼等に予て曰けるは爾曹みな此杯より飲 二八これ新約の
二八 我血にして罪を赦さんとて衆の人の爲に流所のもの也 二九われ爾曹に告ん
二九 今より後なんぢらと偕に新しき物を吾父の國に飲ん日までは再びこの葡
三十 萄にて造れる物を飲じ〇 三十かれら歌を謳てのち橄欖山に往り 三一其時イエ
三一 スに彼等に曰けるは今夜なんぢら皆われに就て礙かん蓋われ牧者を擊ば群

三二 の綿羊ちらんと錄されたれバ也三然ど我甦りて後爾曹に先ちガリラヤに
三三 往べし三ペテロ答てイエスに曰けるハ皆なんぢに就て礙くとも我ハ終に
三四 礙かじ三イエス彼に曰けるハ我まことに爾に告ん今夜鷄なかざる前に爾
三五 三次われを知ずと言ん三五ペテロ彼に曰けるハ我ハ主と偕に死るとも爾を
三六 知ずと言じ弟子みな如此いへり○三六厥時イエス彼等と偕にゲッセマ子と
三七 いふ處に至て弟子等に曰けるハ爾曹こゝに坐われ彼處に往て祈らん三七ペ
三八 テロ及ゼベダイの二人の子を携へ憂へ哀みを催し三八彼等に曰けるハ我心
三九 いたく憂て死るばかり也こゝに待てわれと偕に目を醒しをれ三九少し進往
四十 てひれふし祈いひけるハ吾父よ若かなハゞ此杯を我より離ち給へ然ど我
心の從を成んとするに非ず聖旨に任せ給へ四而て弟子に來り其寢たるを
四一 見てペテロに曰けるハ如此一時も我と偕に目を醒をること能ハざる乎四一惑
に入ぬやう目を醒かつ祈ろの靈にハ願ふなれど肉體よわきなり四二次ゆ
四二 きて復いのり曰けるハ吾父よ若われに此杯を飲さで離つこと能ずバ聖旨

四三 に任せ給へ四三來りて又かれらの寢たるを見これ彼等の目疲たる也四四彼等
四四 を離れて又ゆき第三次も同言をもて祈れり四五遂に其弟子に來りて曰ける
四五 ハ今ハ寢て休め時ハ近し人の子罪人の手に付されん四六起よ我儕往べし我
四六 を賣す者近きたり○四七如此いへるとき十二の一人なるユダ劍と棒とを持
四七 たる多の人々と偕に祭司の長老の所より來る四八イエスを賣す者
四八 かれらに號をなして曰けるハ我が接吻する者ぞ夫なり之を執へよ四九直に
四九 イエスに來りヲビ安かと曰て彼に接吻す五十イエス彼に曰けるハ友よ何の
五十 爲に來るや遂に彼等すゝみ來り手をイエスに措て執へぬ五一イエスと偕に
五一 在し者の一人手をのべ劍を拔て祭司の長の僕を擊その耳を削おとせり五二
五二 イエス彼に曰けるハ爾の劍を故處に收よ凡て劍をとる者ハ劍にて亡ぶべ
五三 し五三我いま十二軍餘の天使を我父に請て受ること能ハずと爾曹おもふ乎
五四 もし然せバ如此あるべき事を錄し聖書に如何で應ハん乎○五五此時イエ
五五 ス人々に曰けるハ劍と棒とを持て盜賊を執ふる如して我を執にきたる乎

五六 われ日々爾曹と偕に殿に坐して誨しに爾曹われを執ざりし五六然ぞ此の如
五七 なるハ皆預言者の錄たる所に應成せん爲なり遂に弟子等みなイエスを離
五八 れて逃去ぬ○五七イエスを執たる者これを曳て學者と長老の集れる所の祭
五九 司の長カヤパに携ゆく五九ペテロ遠く離れてイエスに從ひ祭司の長の庭に
六十 まで至ろの結局を見んとて內にいり僕と偕に坐せり六十祭司の長等および
六一 長老すべての議員ともにイエスを殺さんとして妄證を求むれども得ず六一
六二 多の妄りの證者きたれども亦えず後また妄りの證者二人きたりて曰ける
六三 ハこの人曩に言ることあり我よく神の殿を毀ちて三日の內に之を建う
六四 べしと六二祭司の長たちてイエスに曰けるハ爾こたふる言なき乎この人々
六五 の爾に立る證據ハ如何六三イエス默然たり祭司の長こたへて彼に曰けるハ
六六 爾キリスト神の子なるか我なんぢを活神に誓せて之を告しめん六四イエス
六七 彼に曰けるハ爾が言る如し且われ爾曹に告ん此のち人の子大權の右に坐
六八 し天の雲に乘て來るを爾曹みるべし六五是に於て祭司の長ろの衣を裂て曰
六九 けるハ此人ハ褻瀆ことを言り何ぞ外に證據を求んや爾曹も今その褻瀆た
七十 ることを聞六六なんぢら如何おもふ乎かれら答て曰けるハ彼ハ死に當れり
七一 是に於て彼等その面に唾し且拳にて擊りまた或人かれを批いひけるハ
七二 キリストよ爾を擊者ハ誰か我儕に預言せよ○六九ペテロ庭に坐るにけるに
七三 或婢きたりて爾もガリラヤのイエスと偕なりと曰けれバ七〇ペテロ凡の人
七四 の前に此言を背ハずして我なんぢが言ところを知ずと曰り七一出て門口に
七五 至れる時また他の婢これを見て其處にをる者に曰けるハ此人もナザレの
七二 イエスと偕に在し七三ペテロまた背ハずして誓ふ我この人を知ずと七三暫く
七三 ありて旁らに立たる者すゝみ近てペテロに曰けるハ誠に爾もろの黨の一
七四 人なり證なんぢの方言なんぢを顯せり七四是に於てペテロ詈り且誓て我そ
七五 の人を知ずと曰しが頓て雞鳴ぬ七五ペテロイエスの鷄かざる前なんぢ三
次われを知ずといハんと云たまへる言を懷起し外に出て悲み哭り

第二十七章　平旦になりて凡の祭司の長と民の長老ともに謀てイエスを殺

二 さんとし二既に彼を縛ひきゆきて方伯のポンテオピラトに解せり○三是
に於てイエスを賣しユダ彼の死に定られしを見て悔うの銀三十を祭司
四 の長長老等に返して四曰けるハ無辜の血を付し我ハ罪を犯しぬ彼等いひ
五 けるハ我儕に於て何ぞ與らんや爾みづから當べし五ユダうの銀を殿に投
六 棄て其處を去ゆきて自ら縊たり六祭司の長等この銀を取て曰けるハ此ハ
血の價なれバ賽錢の箱に入べからずとて七共に謀この銀をもて旅客を葬
七 る爲に陶工の田を買り八故に其田ハ今に至るまで血田と稱らる九是に於
八九 て預言者エレミヤに託いハれたる言にイスラエルの民に估られし
十 者の價の銀三十を取十主の我に命せし如く陶工の田を買ぬと有に應へり
十一 ○十一偖イエス方伯の前にたつ方伯イエスに問て曰けるハ爾ハユダヤ人の
十二 王なるかイエス之に曰けるハ爾が言る如し十二祭司の長長老たち彼を訟ふ
十三 れども何の答もせず十三是に於てピラト彼に曰けるハ此人々なんぢに立る
十四 證のかく大なるを爾きかざる乎十四方伯の甚奇とするまでにイエス一言も

十五 答せざりき十五この祭の日にハ方伯より民の願に任せて一人の囚人を釋の
十六 例あり十六時にバラバと云る一人の名高き囚人ありけれバ十七ピラト民の集
十七 りしとき彼等に曰けるハバラバか又ハキリストと稱ふるイエスなる乎な
十八 んぢら誰を釋さんと欲ふや十八これ嫉媚に由てイエスを解したりと知バな
十九 り○十九方伯審判の座に坐りたる時ろの妻いひ遣しけるハ此義人に爾干る
二十 こと勿れ蓋われ今日夢の中に彼につきて多く憂たり二十祭司の長長老たち
二一 バラバを釋しイエスを殺さんことを求と民に唆む二一方伯こたへて彼等に
二二 曰けるハ二人のうち孰を我なんぢらに釋さんことを望むや彼等バラバと
二三 答ふ二三ピラト曰けるハ然バキリストと稱ふるイエスに我なにを處べきか
二四 衆いふ十字架に釘よと二四方伯いひけるハ彼なにの惡事を行しや彼等ます
二五 ます喊叫て十字架に釘よと曰二五ピラトうの言の益ふくして唯亂の起んと
するをしり水を取て人々の前に手をあらひ曰けるハ此義者の血に我ハ罪
なし爾曹みづから之に當れ二五民みな答て曰けるハ其血ハ我儕と我儕の子

二六 孫に係るべし 二六 是に於てバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架
二七 に釘ん爲に付したり 二七 方伯の兵卒イエスを携へ公廳に至り全營を其もと
二八 に集め 二八 彼の衣を褫て絳色の袍を着せ 二九 棘にて冕を編其首に冠しめ又葦
三十 を右手に持せ且その前に跪づき嘲弄して曰けるハユダヤ人の王安かれ 三十
三一 また彼に唾し其葦を取て其首を擊り 三一 嘲弄し畢りて其袍をはぎ故衣をき
三二 せ十字架に釘んとて彼を曳ゆく 三二 その出し時クレ子人のシモンといふ者
三三 に遇けれバ强て之に其十字架を負せたり○ 三三 彼等ゴルゴタ譯バ即ち髑髏
三四 と云る處に來り 三四 醋に膽を和せてイエスに飲せんと爲たりしに嘗て飲こ
三五 とをせざりき 三五 斯てイエスを十字架に釘しのち鬮を拈て其衣を分これ預
三六 言者の言に彼等互に我が衣を分わが裏衣を鬮にすと云しに應へり 三六 兵卒
三七 こゝに坐してイエスを守れり 三七 また罪標に此ハユダヤ人の王イエスなり
三八 と書して其首の上に置り 三八 其とき二人の盜賊イエスと偕に一人ハ其右一
三九 人ハ其左に十字架に釘らる○ 三九 往來の者イエスを詈り首を搖て曰けるハ

四十 四十 殿を毀ちて三日に之を建る者よ自己を救へ爾もし神の子ならバ十字架
四一 四二 より下よ 四二 祭司の長學者長老等も亦おなじく嘲弄して曰けるハ 四三 人を救
四三 て己が身を救あたハず若イスラエルの王たらバ今十字架より下るべし然
四四 バ我儕かれを信せん 四三 彼ハ神に依頼めり神もし彼を愛しまバ今救ふべし
四五 蓋かれ我ハ神の子なりと云し也 四四 同に十字架に釘られたる盜賊も同くイ
四六 エスを詈れり○ 四五 晝の十二時より三時に至るまで其地あまねく黑暗とな
四七 る 四六 三時でろイエス大聲にエリ、エリ、ラマサバクタニと呼りぬ之を譯バ
四八 吾神わが神なんぞ我を遺たまふ乎と云る也 四七 旁らに立たる者のうち或人
四九 これを聞て彼ハエリヤを呼るなりと曰 四八 其中の一人直に走り往て海綿を
五十 とり醋を含せ之を葦につけてイエスに飲しむ 四九 餘人曰けるハ俟エリヤ來
五一 りて彼を救ふや否試べし○ 五十 平イエスまた大聲に呼りて氣絶たり 五一 殿の幔
五二 上より下まで裂て二となり又地ふるひ磐さけ 五二 墓ひらけて既に寢たる聖
五三 徒の身おほく甦へりイエスの甦れる後 五三 墓を出て聖城に入おほくの人に

五四 現れたり○五四百夫の長と偕にイエスを守たるもの地震および其有し事を
五五 見て甚く懼れ此ハ誠に神の子なりと曰り○五五此處に遥に望たる多の婦
五六 ありし彼等ハガリラヤよりイエスに從ひ事し者等なり五六其中に居し者ハ
マグダラのマリアとヤコブヨセの母なるマリアとゼベダイの子等と母と
五七 なり○五七日くれてイエスの弟子なるヨセフと云るアリマタヤの富人きた
五八五九 りてピラトに往イエスの屍を請しかバ五八ピラトうの屍を付せと命ず五九ヨ
六〇 セフ屍を取て淸き泉布に裹み六〇之を磐に鑿たる己が新しき墓におき大な
六一 る石を墓の門に轉して去六一マグダラのマリアと他のマリアと墓に對て坐
六二 し其處に居り○六二預備日の翌日祭司の長とパリサイの人等ピラトの所に
六三 集來り曰けるハ六三主よ我儕憶起せり彼の僞者いきて在しとき三日ののち
六四 甦らんと言し六四是故に命じて三日に至まで墓を固守しめよ恐くハ其弟子
夜きたりて之を竊み死より甦りたりと民に言ん然バ後の惑ハ先よりも愈
六五 勝るべし六五ピラト彼等に曰けるハ守兵ハ爾曹にあり往て意のまゝに固守

六六 しめよ六六是に於て彼等ゆきて石に封印し守兵をして墓を固守しめたり
第二十八章 安息日終てのち七日の首の日黎明にマグダラのマリア及び他
二 のマリアその墓を觀んとて來りしに二大なる地震ありて主の使者天より
三 降り墓の門より石を轉し其上に坐す三その容貌ハ閃電のごとく其衣服ハ
四五 雪のごとく白し四守兵かれを懼戰き死たる者の如くなりぬ五天使たへ
て婦に曰けるハ爾曹おそるゝ勿れ我なんぢらが十字架に釘られしイエス
六 を尋ることを知六彼ハ此に在ず其言る如く甦りたり爾曹きたりて主の置
七 れし處を見よ七且ゆきて其弟子に告よ彼ハ死より甦り爾曹に先ちてガリ
八 ラヤに往り彼處に於て爾曹かれを見べし我これを爾曹に告ハ婦懼ながら
九 も甚く喜びて急墓をさり其弟子に告んと走り往り九弟子に告んとて往と
十 きイエス彼等に遇て安かれと曰給ひけれバ婦すゝみ其足を抱て拜しぬ十
イエス彼處に曰けるハ懼るゝ勿れ去て我が兄弟にガリラヤに往と告よ彼
十一 處にて我を見べし○十一婦の去しのち守兵のうち或者ども城に至り凡て有

十二 し事を祭司の長等に告しかバ十三彼等と長老あつまりて共に議おほくの銀
十三 子を兵卒に給て曰けるハ十三爾曹いへ我儕が寢たる時うの弟子夜きたりて
十四 彼を竊りと十四此事もし方伯に聞るとも我儕かれに勸て爾曹に憂慮なから
十五 しめん十五かれら銀子を取て囑められたる如したりし是に於て此の如き話
十六 今日に至るまでユダヤ人の中に傳播られたり○十六十一の弟子ガリラヤに
十七 往てイエスの彼等に命じ給ふ所の山に至り十七イエスを見て拜せり然ども疑
十八 へる者もありき十八イエス進て彼等に語いひけるハ天のうち地の上の凡の
十九 權を我に賜れり十九是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父
二十 と子と聖靈の名に入て弟子とし二十且わが凡て爾曹に命せし言を守れと彼
等に教よ夫われハ世の末まで常に爾曹と偕に在なりアメン

新約全書馬太傳福音書　終

新約全書馬可傳福音書

第一章

一 これ神の子イエスキリストの福音の始なり二預言者の錄して視よ
二 我なんぢの面前に我使を遣さん彼なんぢの前に其道を設くべし三野に呼
三 る人の聲あり云く主の道を備へ其徑すぢを直せよと有が如く四ヨハ子野
四 に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを宣
五 傳たり五ユダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各々うの罪
六 を認いひヨルダンといふ河にてバプテスマを受六ヨハ子ハ駱駝の毛衣を
七 着腰に皮帶をつかね蝗蟲と野蜜を食へりセかれ宣傳けるハ我より勝れる
八 者わが後に來らん我ハ屈て其履の紐を解にも足ず八我ハ水をもて爾曹に
九 バプテスマを施したりが彼ハ聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし九當
時イエスガリラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマ
十 を受十頃て水より上れるとき天開れ靈鴿の如く其上に降るを見たり十一又
十一 天より聲ありて云なんぢハ我ゲ愛子わが悅ぶ所の者なりと○十二斯て靈た
十二

たちにイエスを野に往しむ十三かれ四十日野に在てサタンに試られ獸と共
にをれり天の使等これに事ぬ○十四ヨハ子の囚れし後イエスガリラヤに至
り神の國の福音を傳いひけるハ十五期ハ滿り神の國ハ近けり爾曹悔改めて
福音を信せよ○十六イエスガリラヤの湖の邊を歩る時シモンと其兄弟アン
デレの湖に網うてるを見る彼等ハ漁者なり十七イエス彼等に曰けるハ我に
從へ我爾曹を人を漁る者とせん十八彼等たゞちに其網を棄て之に從へり十九
此より少し進行ゼベダイの子ヤコブとうの兄弟ヨハ子の舟に在て網つく
ろふを見て二十直に彼等を召給ひしかバ其父ゼベダイを傭人と共に舟に遺
て彼に從へり○二十一彼等カペナウムに至るイエス即ち安息日に會堂に入て
教を爲しに二十二人々ろうの教を駭き合り蓋學者の如ならず權威を有る者の如
く教たまへバ也二十三其會堂に汚たる鬼に憑たる人ありて二十四喊叫いひけるハ
咦ナザレのイエスよ我儕ハ爾と何の與り有んや爾きたりて我儕を滅すか
我なんぢハ誰なる乎を知即ハち神の聖なる者なり二十五イエス之を責て曰け

るハ聲を發すこと勿れ其處を出よ二十六汚たる鬼その人を拘攣させ大聲に叫
びて彼を出たり二十七衆人みな驚き相問て曰けるハ是何事ぞや是いかなる新
しき教ぞや汚たる鬼さへ權威をもて命じけれバ從へり二十八是に於てイエス
の聲名偏くガリラヤの四方に播りぬ○二十九かれらやがて會堂を出ヤコブ及
ヨハ子と共にシモンアンデレの家に至しに三十シモンの岳母熱を病て臥る
けれバ或人たゞちに之をイエスに告三十一イエス往て其手をとり彼を起しけ
れバ熱たちまち去ぬ斯て其婦彼等に供事たり三十二夕かた日の落とき人々す
べての病を患へるもの鬼に憑たる者をイエスに携へ來る三十三その邑こぞり
て門に集れり三十四イエス各樣の病を患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出
し鬼の言ふ事を許さゞりき蓋鬼かれを識たるに因てなり○三十五昧爽にイエ
ス早く起人なき所にゆき其處にて祈禱せり三十六シモンおよび彼と共に在し
者等その跡を慕ゆき三十七彼に遇て曰けるハ衆人みな爾を尋ぬ三十八イエス彼等
に曰けるハ我ハ教を宣傳る爲に爾曹と偕に附近の鄉村へ往ん我これが爲

三九 に來れバ也三九イエス徧くガリラヤの國を經めぐり其會堂にて教を宣且鬼
四十 を逐出せり○四十癩病れもの一人かれに來りて跪き求ひ曰けるハ爾もし聖
四一 意に適ときハ我を潔く爲得べし四一イエス憫みて手をのべ彼に按て我意に
四二四三四四 適へり潔なれと四二言やいな直に癩病はなれ其人きよまれり四三イエス嚴く
之を戒め愼みて何をも人に告る勿れ但ゆきて己が身を祭司に見せ其潔ら
れし爲にモーセが命せし所の物を獻て彼等に證據をなせと言て去しめた
四五 り四四然ども彼いで〻先この事を大に言つたへ語り廣めけれバイエス此後
あらハに城に入がたく獨人なき所に居給ひしが人々四方より彼に來れり

二 第二章 數日の後イエス復カペナウムに來しに二彼の室に居ことと聞えけれ
バ直に多の人々集きたり門に立べき場處さへもなき程なりきイエス彼等
三四 に教を宣三此に癱瘋を病たる者を四人に舁せイエスに來れる者ありしが
群集によりて近づき難かりけれバ彼の居ところの屋蓋を取除き癱瘋の
五 人を床のまゝ縋下せり五イエス其信仰を見て癱瘋の人に曰けるハ子よ爾

六七八 の罪赦されたり六數人の學者こゝに坐し居しが心中に謂けるハ七斯人ハ
何故かく惡口を言か神にあらずして誰か罪を赦すことを得んハイエス直
九 に彼等が心中に斯の如き事を論ずるを自ら其心に知て彼等に曰けるハ爾
十 曹なんぞ心中に斯る事を論ずる乎九癱瘋の人に爾の罪ハ赦されたりと言
と起て爾の床を取て行と言と孰れ易や十うれ人の子地にて罪を赦すの權
十一 威あることを爾曹に知せんとて遂に癱瘋の人に十一我なんぢに告おきて床
を取なんぢの家に歸れと曰けれバ十二うの人たゞちに起て床をとり衆人の
十二 前にいづ衆人みな駭き神を崇めて曰けるハ我儕いまだ斯の如ことを見し
ことなし○十三イエスまた海邊に往しに人々みな彼に來けれバ是等を教ふ
十三 十四 十四此より進てアルパヨの子レビといふ者の稅吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多あ
十五 て我に從へと曰けれバ彼たちて從へり○十五斯てイエスうの家にて食する
時おほくの稅吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多あ
十六 りてイエスに從ひぬ十六學者とパリサイの人かれが稅吏および罪ある人と

十七 共に食するを見て其弟子に曰けるハ何ゆゑ稅吏罪ある人と共に食飲する
乎七イエス聞て彼等に曰けるハ康強なる者ハ醫者の助を需ず唯病ある者
これを需わが來しハ義人を召ためにに非ず罪ある人を召て悔改させんが爲
なり○十八ヨハ子の弟子及びパリサイの人つねに斷食する事ありけれバ彼
等イエスに來いひけるハヨハ子の弟子とパリサイの弟子ハ斷食するに爾
十九 の弟子ハ何ゆゑ斷食せざる乎九イエス彼等に曰けるハ新郎の朋友うの新
郎と共にをる間に斷食することを得べき乎かれら新郎と共にをる間ハ斷
二十 食することを得ず二十將來かれら新郎をとらるゝ日きたらん其日にハ斷食
二一 すべき也二一新しき布を舊衣に縫つくる者あらじ若し然せバうの新に補へ
るもの舊を綻びして其破かへつて惡なるべし二二亦あたらしき酒を舊き革
囊にいるゝ者あらじ若し然せバ新酒ハうの囊を破裂て酒もれいで革囊も
亦壞るべし新酒ハ新しき革囊に盛べきもの也○二三偖イエス安息日に麥の
二四 畠を過りしに其弟子あゆみつゝ麥の穗を摘はじめけれバ二四パリサイの

二五 人彼に曰けるハ彼等安息日に爲まじき事をするハ何故ぞ二五イエス答ける
二六 ハダビデ及び從に在し者の乏くして飢しとき行たる事を未た讀ざる乎二六
即ち祭司の長アビアタルのとき神殿に入て唯祭司の外ハ食まじき供物の
二七 パンを食かつ從に在し者にも與たり二七また彼等に曰けるハ安息日ハ人の
二八 爲に設られたる者にして人ハ安息日の爲に設られたる者に非ず二八然バ人
の子ハ安息日にも主たる也

第二章 イエスまた會堂に入しに一手枯たる人ありけるが二衆人イエスを
訟んとして彼ハ此人を安息日に醫すや否と窺へり三イエス手枯たる人に
日けるハ中に立よ四また衆人に曰けるハ安息日にハ善を行と惡を行と生
るを救ると殺すと孰をか爲べき彼等默然たり五イエス怒を含て環視し彼
等が心の頑硬なるを憂へ手枯たる人に爾の手を伸よと曰けれバ彼その手
を伸しゝに即ち他の手のごとく愈たり六パリサイの人いでゝ如何してか
イエスを殺さんと直にヘロデの黨に相謀りぬ○七イエスうの弟子と共に

八 海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又ユダヤ、エルサレム、イ
ドマヤ、ヨルダンの外またツロ、シドンの邊より多の人々イエスの行し事
九 を聞て彼に群り來る、九イエス人々の群集に因て擁なやまさるゝ事なから
十 ん爲に小舟を我に備おけと其弟子に曰り、十是イエス數多の人々を愈しゝ
十一 に因て凡て病ある人々手にて彼に捫んとて擁逼しが故なり、十一また汚たる
十二 鬼かれを見て其前に俯伏さけびて爾ハ神の子なりと曰しを、十二イエス彼等
十三 に我を揚すこと勿れと嚴く戒めたり○十三イエス山に登て其意に適ふ所の
十四 者を召しかゞ來りて彼に就り、十四是に於て十二人を立て己と偕に置また教
十五 を宣傳る爲に遣し、十五かつ病を醫し鬼を逐出すの權威を授く、十六乃ちシモン
十六 をペテロと名け、十七ゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハ子この二人をボアヂ
十七 ルゲと名く之を譯ゞ雷の子なり、十八又アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ
十八 トマス、アルパヨの子ヤコブ、タッダイ、カナンのシモン、十九又イスカリオテの
十九 ユダ此ハイエスを賣しゝものなり、二十此等の者家に入しに多の人々また來

二一 り集りければ食する暇もなかりき、二一其親屬きゝて彼ハ狂氣せりと言て之
二二 を拏んとて來る、二二又エルサレムより下れる學者等も彼ハベルゼブルに憑
二三 れたり且鬼の王に藉て鬼を逐出すおりと曰り、二三イエス彼等を召び譬を以
二四 て曰けるハサタンハ何でサタンを逐出し得んや、二四もし國おのれに悖て分
二五 爭ハゞ其國立べからず、二五また家おのれに悖て分爭ハゞ其家立べからず、二六
二六 若サタン己に悖り起て分爭ハゞ彼たつ可からず反て終るなるべし、二七誰に
二七 ても勇士の家に入て其家具を奪んとせば先勇士を縛らされば奪ふこと能
二八 ハじ縛て後ろの家を奪ふべし、二八われ誠に爾曹に告ん人の凡の罪と瀆す所
二九 の褻瀆ハ赦るべけれど、二九聖靈を瀆す者ハ限なく赦さる可からず限なき刑
三十 罰に干らん、三十斯いへるハ人々イエスを惡鬼に憑たりと言しが故なり○三
三一 うの兄弟と母と來りて戸外にたち人を遣してイエスを呼しむ、三一多の人々
三二 イエスを環て坐したりしが彼に曰けるハ視よ爾の母と兄弟戸外に在て爾
三三 を尋ぬ、三三イエス答て曰けるハ我母わが兄弟ハ誰ぞや、三四斯て側に坐する人

人を環視して曰けるハ我母わが兄弟を見よ 三五うれ神の旨に從ふ者ハ是わ
が兄弟わが姉妹わが母なり

第四章 一イエスまた海濱にて訓教を始しに多の人々かれに集りけれバ彼舟
に乘て坐し凡の人々ハ海に沿て岸に立りニかれ譬をもて多の事を彼等に
教ふ教て曰けるハ 三聽よ種播もの播んとて出 四播るとき或種ハ路の傍に
遺しが空の鳥きたりて之を食へり 五或種ハ土うすき磽地に遺しが土深か
らねバ直に萌出たれど六日出しかバ曝れ根なきが故に枯たり 七或種ハ棘
の中に遺しが棘うたちて之を蔽ければ實を結はざりき 八また或種ハ沃壤
に遺しが其苗はえいでゝ蕃り實を結ることゝ或ハ三十倍或ハ六十倍或ハ百
倍せり 九また彼等に曰けるハ耳ありて聽ゆる者ハ聽べし〇十衆人の居さ
りし時イエスの側に在し者と十二弟子と此譬を問しかバ十一イエスかれら
に曰けるハ神の國の奥義を爾曹にハ知ことを賜へど他の者にハ凡て譬を
以てす 十二是かれら視とき視ても見ず聽とき聽ても聰らず心を改めて其罪

の赦を得ざらん爲なり 十三また彼等に曰けるハ爾曹この譬を知さるか然バ
如何して凡の譬を識ことを得んや 十四うれ播者ハ教を播なり 十五道の播れて
路の傍に遺しものハ人道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる道を
奪取なり 十六また磽地に播れたるものハ人道を聽とき直に喜びて之を受 十七
然ども己に根なきが故たゞ暫時のみ後道の爲に患難あるひハ迫害に遇と
きハ忽ち躓く者なり 十八又棘の中に播れたるものハ人ことバを聽ども 十九此
世の思慮と貨財の惑また各樣の情欲いり來りて道を蔽により終に實を結
ざる者なり 二十沃壤に播れたるものハ人道を聽て之をうけ或ハ三十倍ある
ひハ六十倍あるひハ百倍の實を結ぶ者なり〇二十一また彼等に曰けるハ燈を
持來りて斗の下あるひハ牀の下に置ものの有んや之を燭臺の上に置ならず
乎 二二隱て明瞭にならざるハなく藏て露れざる者ハなし 二三耳ありて聽ゆる
者ハ聽べし 二四また彼等に曰けるハ聽ところを愼めよ爾曹が度る所の量を
もて爾曹も度らるべし聽たる爾曹にハなほ加られん 二五うれ有る者ハなほ

二六 與られ無有者ハ有る者をも取るゝ也〇二六また曰けるハ神の國ハ人種を地
二七 に播が如し二七日夜起臥する間に種はえいでゝ成長ぐも其然る故を知ず二八
二八 ろれ地ハ自から實を結ぶものにして初にハ苗つぎに穗いで穗の中に熟し
二九 たる穀を結ぶ二九既に熟ベ穫時いたるに因て直に鎌を入さする也〇三〇また
三〇 曰けるハ神の國ハ何に比へ何の譬を以て之を喩ん三一粒の芥種のでとし
三一 之を地に播ときハ百樣の種より微けれぐ三二既に播て萌出れバ百樣の野菜
三二 よりハ大くかつ巨なる枝を出して空の鳥うの蔭に棲ほぐに及なり〇三三イ
三三 エス彼等の聽得ところに循ひ多かゝる譬をもて教を彼等に語れり三四譬に
三四 非されバ彼等に語らずイエスろの弟子と共に居るとき彼等に悉く之を解
三五 聽せり〇三五偖ろの日の夕暮イエス彼等に向の岸に濟れと曰けれバ三六弟子
三六 たち衆人を歸らせイエスの舟に在しを其まゝ之と偕に濟れり又他の小舟
三七 もともに往り三七時に颶風おこり浪うちこみて殆ぐ舟に滿三八イエス艄のか
三八 たに枕して寢たりしが弟子かれの目を醒して曰けるハ師よ我儕が溺るゝ

三九 をも顧み給ハざる乎三九イエス起て風を斥め且海に靜りて穩かに爲と曰け
四〇 れバ風やみて大に和たり四〇斯て彼等に曰けるハ何故かく懼るや爾曹何ぞ
四一 信なき乎四一彼等甚しく懼れ互に曰けるハ風と海さへも順ふ是誰なるぞ耶

第五章

一 かれら海を濟てガダラ人の地に着ニ舟よりイエスの上れるとき惡
二 鬼に憑れたる人たぐちに墓間より出て彼に遇三この人ハ墓間を居處とせ
三 り屢次桎梏と鏈をもて繫ぐも鏈をうちきり桎梏を打碎により之を繫うる
四 者なく亦誰も之を制し得もの無りき四五夜も晝も恆に山と墓間に於て喊叫
五 また石をもて己が躬に傷つけぬ六彼はるかにイエスを見て趨より之を拜
六 し七大聲に呼りけるハ至上神の子イエスよ我なんぢと何の與り有んや我
七 神に託て求ふ我を苦むること勿れ八是イエス惡鬼に人より出よと曰しに
八 因てなり九イエス彼に爾の名ハ何と問しに答けるハ我儕おほきが故に我
九 名をレギヨンと云十切に此土地より我儕を逐出す勿れとイエスに求たり
十 十一 玆に多の豕の群山に草を食ゐたりしが十一凡の惡鬼かれに求て我儕を遣

十三 て家に入せよと曰けれバ 十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼うの人より
出て豕に入しかバ約そ二千匹ほどの群はげしく馳くだり山坡より海に落
十四 て海に溺ぬ 十四牧者どもも逃ゆきて此事を邑また郷村に告けれバ衆人其あり
十五 し事を視んとて出 十五イエスに來りて惡鬼に憑れたる者すなわちレギヨン
十六 を持たりし人の衣服をつけ愷なる心にて坐し居けるを見て懼あへり 十六此
十七 事を見し者ども惡鬼に憑れたりし者の事と豕の事を彼等に告けれバ 十七頓
十八 てイエスに其境を出んことを求ぬ 十八イエス舟に登んとせしとき惡鬼に憑
十九 たりし者ともに居んことを求けれども 十九イエス許ずして彼に曰けるハ爾
二十 の家に歸り親屬に往て主の爾に行し大なる事と爾を恤みし事を告よ 二十彼
ゆきてイエスの己に行たまへる大なる事をデカポリスに言揚しけれバ衆
二一 人みな駭きあへり 二一イエス舟に乘て復海の彼岸に濟しに大勢の人々彼
二二 に集るイエスハ海に近をれり 二二會堂の宰ヤイロといふ人きたりイエスを
見て其足下に伏 二三切々に求いひけるハ我いとけなき女死る瀕になりぬ之

二四 を救ん爲に來りて手を彼に按たまへ然バ女ハ生べし 二四イエス彼と共に往
二五 二六 とき衆多の人々彼に從ひて擁あへり 二五爰に十二年血漏を患たる婦あり 二六
此婦おほくの醫者の爲に甚だ苦められ其所有をも盡く費しけれども何の
二七 益もなく轉て惡かりしが 二七イエスの事を聞て群集の中より彼の後に來ろ
二八 二九 の衣に捫れり 二八是ういの衣にだに捫らバ愈るべしと曰バなり 二九斯て血の漏
三十 ること直にとまり既に疾いえしと其身に覺たり 三十イエス自ら能力の己よ
り出たるを知おほせいの人々を顧みて曰けるハ我衣に捫りし者ハ誰なる
三一 乎 三一弟子かれに曰けるハ群集の人々の爾に擁あふを見て我に捫りし者と
誰ぞと曰たまふ乎 三二イエスこの事を行る婦を見んと環視しけれバ 三三婦お
三三 うれ戰慄おのが身にせられし事をしり來て彼の前に俯伏こと〴〵く實情
を告 三四イエス彼に曰けるハ女よ爾の信なんぢを救り安然にして往なんぢ
三四 三五 の疾いゆべし○ 三五イエスこの事を言をるうちに會堂の宰の家より人々來
りて曰けるハ爾の女すでに死たり何ぞ師を煩はす乎 三六イエス直に其告る
三六

所の言をきゝ會堂の宰に曰けるハ懼るゝ勿たゞ信せよ 三七 イエスペテロと
三八 ヤコブ及ろの兄弟ヨハ子の外ハ誰にも共に往ことを許さゞりき 三九 既に會
堂の宰の家に來りて人々の忙亂いたく哭泣を見る 三九 入て彼等に曰けるハ
四十 何ぞ忙亂かつ哭や女ハ死るに非たゞ寢たる耳 四十 彼等イエスを哂笑ふイエ
ス凡の人々を出し女の父母とろの從へる者等を率つれ女の臥たる所に入
四一 女の手を執て之に曰けるハタリタクミ之を譯べ女よ我なんぢに命ず起
四二 よといふ義なり 四二 直に女おきて行めり彼ハ年十二歳なり彼等はなはだ駭
四三 きぬ 四三 イエスこの事を人に知するな勿れと嚴く戒め又女に食物を與よと命
ぜたり

第六章 二 イエス此を去て故郷に到しに其弟子も彼に從ひぬ 二 安息日に及け
れバ會堂にて教をはじむ衆人これを聞て奇み曰けるハ如何して此人に斯
のでとき事あるか誰より此智慧を授られて如此ふしぎなる事をも其手よ
三 り行か 三 彼ハ木匠に非らずやマリアの子ヤコブヨセユダとシモンの兄弟

四 にして其姉妹も此に我儕と共に在に非ずや遂に人々彼に礙けり 四 イエス
彼等に曰けるハ預言者ハろの故郷ろの親戚ろの室家の外に於ハ尊バれさ
五 ることなし 五 イエス彼處にて患者に手を按たゞ數人を醫しゝ外ふしぎな
六 る事を行こと能ざりき 六 また彼等の信せざるを奇み遂に諸鄉を經巡て教
七 をなせり ○ 七 イエス十二の弟子を召て彼等を二人づゝ遣さんとして之に
八 惡鬼を逐出す權威を授け 八 且かれらに命じけるハ一の杖の外ハ旅の用意
九 に何をも携ふかれ旅袋糧食また金をも携ず 九 たゞ履をはき二の衣をきる
十 勿れ 十 また彼等に曰けるハ何處にても人の家に入ばろの所を去までハ其
十一 處に居よ 十一 凡て爾曹を接ずなんぢらに聽ざる者にハ其處を去とき證のため
足下の塵を拂へ我まことに爾曹に告ん審判の日いたらバソドムとゴモラ
十二 ハ此邑よりも却て易かるべし 十二 弟子たち出て人々に悔改む可ことを宣傳
十三 へ 十三 また多の惡鬼を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫しぬ ○ 十四 イエスの
十四 名播りければヘロデ王これを聞て曰けるハバプテスマを施しゝヨハ子死

より甦れる故に奇異なる能をなす也十五或人ハ之をエリヤなりといひ或ハ
十六 往昔の預言者の如き預言者なりと曰十六ヘロデ之を聞て曰けるハ是わが首
十七 斬し所のヨハ子也かれ死より甦りたる也十七蓋にヘロデろの兄弟ピリポの
十八十九 妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハ子を捕て獄に繋げり蓋ヘロデが彼の
二十 婦を娶しを十八ヨハ子諫て爾兄弟の妻を納ハ宜からずと曰るに因てなり十九
ヘロデヤ彼を怨て殺さんと欲しかど能ざりき二十ヘロデハヨハ子を義かつ
善なる人と知て彼を敬ひ彼を保護かれに聞て多の事を行ひ且喜びて彼に
二一 聽ことをせり二一斯てヘロデろの誕生の日もろ〳〵の大臣千人の長およひ
ガリラヤの尊き人々に享宴をなせる機會の日いたりけれバ二二ヘロデヤの
二二 女きたりて舞をなしヘロデと其席に列れる人々を樂ましむ王ろの女に曰
けるハ何にても我に求へ爾が望ところの者ハ我なんぢに與ふべし二三又彼
に凡ろ爾が求るものハ我が領分の半に至るとも爾に與んと誓ふ二三女いで
二四 ゝ其母に何を求べき乎と曰けれバ母乃ちバプテスマのヨハ子が首と曰り

二五 二五女たゞちに急ぎ王にきたり求てバプテスマのヨハ子が首を盆に載て即
時に我に賜へと曰二六王甚た憂けれども既に誓たるを以て之を拒むことを欲ず二七王たゞちにヨハ子の首を携來れと命じて兵卒を
二八 遣しけれバ彼ゆきて獄に於て之を斬二八其首を盆にのせ携來りて女に與ふ
二九 女ハ之を其母に與たり二九ヨハ子の弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓
三十三一 に葬りぬ〇三十使徒等イエスに集りて行へる事と教し事とを悉く彼に告三一
イエス彼等に曰けるハ爾曹衆を避て我と偕に暫く寂寞ところに往て休む
べし是往來のもの多して食する暇も無りしが故なり三二かれら人を避舟に
三二 て寂寞ところに往り三三其往を見て衆人おほくイエスをしり諸邑より歩行
三三 にて趨り彼等の往んとする所へ先ち往てイエスに集れり〇三三イエス出て
二四 多の人を見に彼等ハ牧者なき羊の如き者なるに因て之を憫み許多の事を
三五 教ハじめぬ三五時すでに暮景になりけれバ其弟子かれに來いひけるに此ハ
寂寞ところにして時も既晩し三六衆人の食ふべき物なきが故に其自ら四周

三七 の鄉村に往てパンを市んが爲に彼等を去しめ給へ 三七イエス答けるハ爾曹
三八 これに食を與よ弟子かれに曰けるハ我儕ゆきて銀二百のパンを市かれら
三九 に與て食しむ可か 三八イエス彼等に曰けるハパンハ幾何ある往て視よ彼等
四十 みて其數をしり五のパンと二の魚ありと答ふ 三九イエス衆の人を組々にし
四一 て青草の上に坐しめよと命じけれバ 四十或ハ百人或ハ五十人づゝ列坐せり
四二 四一イエスうの五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ謝してパンをわり弟子に
四三 與て人々の前に陳しむ又二の魚を毎人に分與ぬ 四二衆人みな食て飽 四三うの
四四 パンと魚の餘屑を拾しに十二の筐に盈たり 四四パンを食たる男およそ五千
四五 人なりき○ 四五直にイエスうの弟子を强て舟に乘むかふの岸なるベテサイ
四六 ダへ先わたらしめ已ハ衆人を歸しむ 四六衆人を歸しゝのち祈禱の爲に山に
四七 往り 四七日暮て舟ハ海の中に在イエスハ獨り陸に居り 四八風逆ふに因て弟子
四八 等の舟を棹に勞たるを見て曉の四時ごろイエス海の上を履きたり彼等を
四九 過んとせしに 四九弟子その海を履るを見て變化の物ならんと意ひ叫びたり

五十 皆盖弟子みな之を見て懼しが故なりイ
五一 エス直に彼等に語りて曰けるハ心
五二 安かれ我なり懼るゝと勿れ 五一遂に舟に登しかバ風やみぬ彼等心の中に
五三 駭き異めること甚だし 五二是其心の愚頑に因てパンの奇跡をも覺ざりし也
五四 ○ 五三既に濟ゲ子サレといふ地に到て舟泊せり 五四彼等舟より出しに頓て人
五五 人イエスを知て 五五徧く其四方の地へ馳ゆき病る者を床の儘にて舁ひイエ
五六 スの在す處々を聞出して之に就り 五六凡そイエスの至るところ或ハ鄉ある
ひハ邑あるひハ村うの街市に病る者を置て彼に其衣の裾にだに捫らせ給
へと求り乃ち捫るほどの者ハみな愈たり

第七章 パリサイの人と或學者たちエルサレムより來りてイエスの前に集
一 りニ彼の弟子の中に潔らざる手即ち盥ざる手にてパンを食する者ありし
二 を見て之を責めたり 三盖パリサイの人とユダヤの人々ハみな古の人の遺
三 傳を守りて其手を潔あらハざれバ食せず 四市より歸きたりて盥されバ亦
四 食せず此ほか杯椀鍋および牀を洗など多端の遺傳を受守れり 五是に於

てパリサイの人と學者等イエスに問けるハ爾の弟子ハ何ゆゑ古の人の遺
六 傳に遵ハずして盥ざる手を以てパンを食する乎六イエス答て彼等に曰け
るハイザヤハ僞善者なる爾曹を指てよく預言せり其錄しゝ言に此民ハ唇
七 にて我を敬へども其心ハ我に遠かり七人の誡を教と爲て徒らに我を拜す
八 と曰り八夫爾曹ハ神の誡を棄て人の遺傳を守れり卽ち鍋杯を洗おほく
九 此の如き事を行ふ九また彼等に曰けるハ爾曹ハ實に己の遺傳を守んとて
十 能も神の誡を棄る者なり十モーセ曰けるハ爾の父母を敬へ又父あるひハ
十一 母を詈る者ハ殺るべしと十一然ど爾曹ハ曰もし人父あるひハ母に對て爾を
十二 養ふべき物ハコルバン卽ち禮物なりと曰バ事ずとも可と十二而して人の其
十三 父あるひハ母の爲に何をも行事を爾曹許ず十三斯なんぢらハ其教る所の遺
十四 傳をもて神の道を廢うす又おほく此類の事を行ふ○十四イエスまた衆庶を
十五 召て彼等に曰けるハ爾曹みな我言を聞て悟れ十五外より人に入るものハ人を
十六 汚すこと能ハず然ど人より出るものハ人を汚す也十六聽ゆる耳ある者ハ聽

十七 べし○十七イエス衆庶を離れて室に入しに其弟子たとへの意を問けれバ十八
十八 彼等に曰けるハ爾曹もなほ悟ざるか凡ろ外より人に入るものゝ人を汚し能
十九 ハざる事を知ざる乎十九蓋ろの心に入ず腹に入て則に遺すなハち食ふ所の
二十 二十一 もの潔れり二十又曰けるハ人より出るものハ是人を汚す二十一人の心より出る
二十二 ものハ惡念、姦淫、苟合、兇殺、二十二盜竊、貪婪、惡慝、詭譎、好色、嫉妬、謗讀、驕傲、
二十三 狂妄なり二十三是等の惡行ハみな内より出て人を汚すもの也○二十四イエス此を
二十四 去てツロとシドンの境にゆき家に入て人に知れざらん事を欲しが隱れ得
二十五 ざりき二十五ハ惡鬼に憑たる幼き女を有る婦イエスの事を聞て來り其足下
二十六 に伏たるに因てなり二十六この婦ハサイロピニケにうまれしギリシヤの者な
二十七 りしが惡鬼を其女より逐出し給はん事をイエスに求り二十七イエス彼に曰け
二十八 るハ先兒女に飽しむべし兒女のパンを取て犬に投るハ善らず二十八婦こた〻
二十九 て曰けるハ主よ然されど犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也二十九イエス
三十 婦に曰けるハ此言に因て歸れ惡鬼ハ爾の女より出たり三十婦その家に歸し

に惡鬼既に出て牀に女の臥たるを見る○三イエスツロとシドンの地を去
てデカポリスの地を過ガリラヤの海に至れり三人々聾の訥る者をイエス
に携來りて手を按給はん事を求けれバ三イエス衆人を離れ之を外へ携ゆ
き指を其耳にさしいれ又唾して其舌に捫り三且天を仰て嘆じ其人に對て
エッバタと曰これを譯バ啓よとの義なり三直に其耳ひらけ舌の絡ゆるみ
て正く言へり三六イエス之を人に告る勿れと彼等を戒むれバ戒むるほど益
言揚しぬ三七衆人はなハたしく駭きて曰けるハ此人の行し所こと〴〵く善
あるひは聾を聽えさせ或ハ啞者を言ハしめたり
第八章　當時あつまれる人々甚だ多りしが何の食物も有ざりけれバイエス
其弟子を召て曰けるハ二我この多の人々を憫む既に三日われと共に居し
ゆゑ今なにも食物なし三もし飢しまゝ其家に歸さバ途間にて憊ん其中に
遠處より來れる者あれば也四ううの弟子かれに答けるは此野にて何處より
パンを得この人々を飽しめん乎五イエス彼等に問けるはパン幾何あるや

七と答ふ六イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわ
り人々の前に陳しめんが爲その弟子に與けれは即ち人々の前に陳りせま、
た小き魚を些須もてり之をも祝して人々の前に陳と曰ハ八人々これを食て
飽うの餘屑を七の籃に拾り九之を食る者おほよそ四千人なり乃ちイエス
之を歸しぬ○十イエス直に其弟子と共に舟に乘てダルマヌタの方に往し
に十一パリサイの人いでゝ彼を試んがため天よりの休徵を求めて詰はじむ
十二イエス心の中に深く歎息して曰けるハ此世の人なんぞ休徵を求るや誠
に我なんぢらに告ん休徵ハ此世の人に必ず與られじ十三イエス彼等を離れ
て復舟に乘むかふの岸に濟れり○十四さて弟子パンを携ふることを忘たゞ
一のパンのみ舟に有き十五イエス彼等を戒めて曰けるハ戒心してパリサイ、
の人の麪酵とヘロデの麪酵を愼めよ十六弟子たがひに論じて曰けるハ是パ
ンを携へざりし故ならん十七イエス之を知て彼等に曰けるハ何ぞ互にパン
を携へざりし事を論ずるや未だ悟ざるか爾曹の心なほ頑かゝ目ありて視

十九 ざるか耳ありて聽えざる乎また覺ざる乎十九我五千人に五のパンを擘あた
二十 へし時ゥの餘屑を幾筐ひろひしや答けるハ十二なり二十又四千人に七のパ
二一 ンを擘あたへし時ゥの餘屑を幾籃ひろひしや答けるは七なり二一イエス彼
二二 等に曰けるハ何ぞ悟ざる乎○二二イエスベテサイダに至けれバ人々瞽者を
二三 携來りて之に手を按たまハん事を求り二三イエス瞽者の手を執て村の外へ
二四 携出ゥの目に唾して手を彼に按とひけるハ何か視るや二四瞽者目を擧て曰
二五 けるハ我ての人々ゟ歩行を見に樹ゟ如し二五遂にイエスまた兩手を彼ゟ目
二六 に按ゥて目を擧させけれバ乃ち愈て庶物あきらかに視たり二六イエス彼を
二七 其家に歸らせ曰けるハ此村に入なかれ且この村人にも告る勿れ○二七イエ
スゥの弟子と共にカイザリヤピリピの諸村へゆく途間にて其弟子に問て
二八 曰けるハ衆人ハ我を曰て誰とする乎二八答けるハ或人ハバプテスマのヨハ
二九 子或人ハエリヤ或人ハ預言者の一人なりと曰ゥ二九イエス彼等に曰けるハ
三十 爾曹ハ我を曰て誰とする乎ペテロ答けるハ爾ハキリストなり三十イエス彼

三一 等を戒めて我事を誰にも告る勿れと命じたり○三一また人の子の必ず多の
三二 苦難をうけ長老祭司の長學者どもに棄られ且殺されて三日の後に甦るて
三三 とを彼等に示し始たまへり三三明に之を示し給しかバペテロイエスを援て
諫んとせしに三三イエス回顧ゥの弟子を見てペテロを戒め曰けるハサタン
三四 よ我後に退け爾ハ神の情を思ず反て人の情を思ふ○三四衆人と其弟子を共
三五 に召て彼等に曰けるハ若し我ゟ從ハんと欲ふ者ハ己を棄ゥの十字架を負
三六 て我に從へ三五ゥハ生命を全うせんとする者ハ之を喪ひ我ため且福音の爲
三七 に生命を喪ふ者ハ之を得べければ也三六もし人全世界を得とも其生命を喪
三八 はゞ何の益あらん乎三七また人何をもて其生命に易んや三八姦惡なる此世に
於て我と我道を恥る者をバ人の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時
に神の國の權威をもて來るを見までハ死ざる者あり○二さて六日の後イ
エスまた彼等に曰けるハ我まことに爾曹に告ん此に立ものゝ中
之を恥べし

第九章

二

エスペテロヤコブヨハ子を伴なひ人を避て高山に登り給ひしが彼等の前
にて其容貌かハり 三其衣かゝやき白こと甚たしくして雪の如く世上の布
漂も斯しろくハ爲能ハざるべし 四エリヤとモーセと共に彼等に現れてイ
エスと語をれり 五ペテロ答てイエスに曰けるハヲヒ我儕こゝに居は善わ
れらに三の廬を建せ給へ一ハ主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲
にせん 六此ハ其謂ところを知ざりしなり彼等いたく懼しに因セ斯て雲彼
等を蔽ひ聲雲より出て曰けるハ此ハ我が愛子なり之に聽べしハ頓て弟子
環視けれバイエスと已の外ハ一人をも見さりき 九山を下る時にイエス
彼等に命じて人の子の死より甦る迄ハ爾曹の見し事を人に告る勿れと曰
り 十弟子等この言を守かつ互に論じ曰けるハ死より甦ると云ハ何ぞ事か
十一彼等イエスに問て曰けるハエリヤハ前に來るべしと學者の曰るハ何そ
や 十二イエス答て曰けるハ實に前に來りて萬事を復振また人の子
に就てハ其各樣の苦難を受かつ輕慢らるゝ事を書しるされたり 十三然ど我

なんぢらに告んエリヤ既に來しに彼に就て錄されたりし如く人々意の任
に之を待へり○十四イエス弟子等の所に來きたり多の人々の彼等を環圍ると
學者たちの彼等と論じをりしを見たり 十五衆人たゞちに彼を見て駭き趨よ
りて禮をなせり 十六イエス學者に問けるハ弟子と何事を論ずる乎 十七衆人の
うち一人こたへけるハ師よ我ものいハぬ惡鬼に憑れたる我子を爾に携來
れり 十八惡鬼の憑時ハ彼傾跌され沫をふき齒を切て疲勞はつる也これを逐
出さんことを我なんぢの弟子に請しかど彼等能ざりき 十九イエス彼等に答
て曰けるハ噫信なき世なる哉いつまで我なんぢらと共に在んや何時まで
我なんぢらを忍んや彼を我に携來れ 二十彼等その子を携來りしに惡鬼イエ
スを見て忽ち彼を拘攣しむ彼地に仆れ輾轉て沫を出ぬ 廿一イエスその父に
問けるハ幾何時より如此なりしや父いひけるハ少時より也 廿二惡鬼しば
ば之を火の中あるひハ水の中に投入て殺さんとせり爾もし爲ことを得は
我儕を憫みて助よ 廿三イエス彼に曰けるハ爾もし信ずる事を得バ信ずる者

二四 に於て爲あたハざる事なし 二四其子の父たゞちに聲をあげ淚を流して曰け
二五 るハ主よ我信ず我が信なきを助たまへ 二五イエス衆人の趨集るを見て惡鬼
を叱いひけるハ唖にして聾なる惡鬼よ我なんぢに命ず出て再び之に入な
二六 かれ 二六惡鬼さけびて大に彼を拘攣しめて出しかバ彼死たる者の如なりぬ
二七 人々これを已に死りと云 二七イエスその手を執て扶けれは彼たてり○ 二七イ
二八 エス家に入しに其弟子ひそかに問けるハ我儕これを逐出すこと能ざりし
二九 ハ何故ぞ 二九イエス彼等に曰けるハ此族ハ祈禱と斷食に非れバ逐出すこと
三十 能ざる也○ 三十彼等こゝを去てガリラヤを過この事をイエス人の知を欲ざ
三一 りき 三一蓋ろの弟子に教て人の子ハ人の手に付され彼等に殺され殺されて
三二 のち第三日に甦るべしと曰たまふが故なり 三二其とき弟子等この言を曉ら
三三 ず亦問ことを恐たり○ 三三偖イエスカペナウンに至り室に居て弟子に問け
三四 るは爾曹途間にて何を互に論じ乎 三四弟子默然たり是途間にて互に論じ
三五 誰か大ならんとの爭ありけれバ也 三五イエス坐して其十二を召かれらに曰

三六 けるハ若し首たらんと欲ふ者ハ凡の人の後となり且すべての人の使役と
三七 ならん 三七また孩提を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰けるハ 三七凡そ
我名の爲に斯のごとき孩提の一人を接る者ハ即ち我を接るに非ず我を遣しゝ者を接るなり○ 三七ヨハ子彼に答
三八 て曰けるハ師よ我儕に從ハざる故これを禁たり 三八イエス曰けるハ其人を禁る勿れ蓋わ
三九 が名により異ある能を行ひて輕易しく我を誹得る者ハあらじ 三九我儕に敵
四十 たハざる者ハ我儕に屬者なり 四十爾曹をキリストに屬者として我名の爲に
四一 一杯の水にても爾曹に飮する者ハまことに爾曹に告ん其人ハ賞を失ハ
四二 さる也 四二また凡そ我を信ずる小子の一人を礙する者ハ其首に磨を懸られ
四三 て海に投入られん方その人の爲になほ善るべし 四三若し爾の一手なんぢを
礙かさバ之を斷され兩手ありて地獄すなハち滅ざる火に往んよりハ殘缺
四四 にて永生に入ハ爾の爲に善こと也 四四彼處に入ものゝ蟲つきず火きえず
四五

若なんぢの一足おんぢを礙かさゞ之を斷され兩足ありて地獄すなゝち滅
四六 ざる火に投入られんよりゝ跛にて永生に入ゝ爾の爲に善なり四六彼處に入
四七 ものゝ蟲つきず火きえず四七もし爾の一眼おんぢを礙かさゞ之を扶いだせ
四八 兩眼ありて地獄の火に投入られんよりゝ一眼にて神の國に入ゝ爾の爲に
四九 善なり四八彼處に入ものゝ蟲つきず火きえず四九蓋すべての人ゝ鹽をつくる
五十 如く火を以せられ凡の祭物ゝ鹽をもて鹽つけらる平鹽ゝ善ものなり然ど
鹽もし其味を失ゝゞ何をもて之に味を加んや爾曹心の中に鹽を有て又た
がひに睦み和ぐべし

第十章 一 イエス此を去ヨルダンの外を經てユダヤの境の内に來しに多の人
二 人また彼に集りければ恒の如く彼等に教誨を爲たまへりニ パリサイの人
三 來て彼を試み問けるゝ人うの妻を出すゝ可か 三答て曰けるゝモーセゝ爾
四 曹に何と命せし乎 四彼等曰けるゝモーセ離緣狀を書與へて之を出すと
五 を許せり 五イエス答て彼等に曰けるゝモーセ爾曹の心つれなきに因て此
六 命を爲たる也 六然ど開闢のはじめ神人を男女に造り給へり 七是故に人ゝ
七 うの父母を離その妻に合て 八二人のもの一體と成べし然ば二にゝ非ず一
八 體なり 九是故に神の耦せ給へる者ゝ人これを離すべからず〇十室に在て
九 弟子等また此事を問ければ十一イエス彼等に曰けるゝ凡うその妻を出して他
十 の婦を娶る者ゝ其妻に對して姦淫を行ふなり十一また婦もし其夫を出して
十一 他に嫁がば此婦も姦淫を行ふなり〇十二イエスに撫れんがため人々孩提を
十二 携來ければ弟子等うの携來れる者を責めたり 十四イエス之を見て怒を含か
十三 れらに曰けるゝ孩提を我に來せよ彼等を禁る勿れ神の國に居ものゝ斯の
十四 如き者なり 十五誠に我なんぢらに告ん凡うの孩提の如くに神の國を承ざる者
十五 ゝ之に入ことを得ざる也 十六即ち彼等を抱て手をうの上に按これを祝せり
十六 〇十七イエス途に出けるに一人はりし來りて跪き問けるゝ善師よ我かぎり
十七 なき生命を嗣ために何を行べき乎 十八イエス彼に曰けるゝ何ぞ我を善と稱
十八 や一人の外に善者ゝなし 十九即ち神なり 十九誡ゝ爾ゞ識ところなり姦淫する勿

二十 れ殺なかれ盜なかれ妄の證を立る勿れ拐騙なかれ爾の父と母を敬へ 二十一答
二一 て曰けるハ師よ是みな我が幼きより守れるもの也 三イエス彼を見て愛み
曰けるハ爾なほ一を虧ゆきて其所有をうり貧者に施せ然ば天に於て財あ
二二 らん而して來り十字架を操て我に從へ 三彼この言に因て哀み憂て去ぬ彼
二三 ハ大なる產業を有る者なればなり 三イエス環視てうの弟子に曰けるハ財
二四 を有る者の神の國に入ハ如何に難かな 三弟子この言を駭けり イエス復て
二五 たへて彼等に曰けるハ小子よ財を恃む者の神の國に入ハ如何に難かな 三五
二六 富者の神の國に入よりハ駱駝の針の孔を穿るハ却て易し 三六弟子たち甚く
二七 駭き互に曰けるハ然ば誰か救を受べき乎 二七イエス彼等を見て曰けるハ是
二八 人にハ能ざる所なれど神に於てハ然らず神ハ能ざる所なければ也 二八是に
二九 於てペテロ彼に曰けるハ我儕一切を舍て爾に從へり 二九イエス答て曰ける
三十 ハ誠に爾曹に告ん我と福音の爲に家宅あるひハ兄弟あるひハ姊妹あるひ
ハ父あるひハ母あるひハ妻あるひハ兒女あるひハ田疇を舍る者ハ 三十この

三一 世にて百倍を受ざる者なし即ち家宅、兄弟、姊妹、母、兒女、田疇を迫害と共
三二 に受又後の世にハ窮なき生を受ん 三然ど多の先なる者ハ後になり後なる
者ハ先になるべし○ 三三偖彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行
けれバ彼等おどろき且おそれて從へりイエス十二を伴ひて將に己に及ん
三四 とする事を彼等に告給ひけるハ 三三我儕エルサレムに上り人の子ハ祭司の
三五 長と學者等に付れん彼等これを死罪に定め異邦人に付し 三四又これを嘲弄
三六 し鞭ち唾し且これを殺ん斯て第三日に甦るべし○ 三五ゼベダイの子ヤコブ
三七 とヨハ子イエスに來りて曰けるハ師よ我儕が求る事を願くハ我儕に成た
まへ 三六彼等に曰けるハ爾曹に我が何を成ん事を欲ふや 三七彼等いひけるハ
三八 爾榮を得んとき我儕の一人を其右に一人を其左に坐せしめよ 三八イエス彼
等に曰けるハ爾曹ハ求ふ所を知ず爾曹わが飮ところの杯を飮わが受る所
三九 のバプテスマを受得るや 三九彼等いひけるハ能すべしイエス彼等に曰ける
ハ爾曹ハ實に我が飮ところの杯を飮また我が受る所のバプテスマを受べ

四十 し四然ぞ我が右左に坐する事ハ我が予ふべきに非たゞ備られたる者ハ予
四一 四二 らるべし四二十人の弟子これを聞てヤコブとヨハ子を憤れり四三イエス彼等
を召て曰けるハ異邦人の君と見る者ハ其民を治また大なる者どもハ彼等
四三 の上に權を執これ爾曹が知ところ也四四然ど爾曹の中にてハ然す可らず爾
四四 曹のうち大ならんと欲ふ者ハ爾曹に役るゝ者とならん四五また爾曹のうち
四五 首たらんと欲ふ者ハ凡の人の僕となれ四五蓋人の子の來るも人を役ふ爲
に非ず反て人に役ハれ且おほくの人に代ろの命を予て贖とならん爲なり
四六 ○四六斯て彼等エリコに至りイエスろの弟子と大なる群集の人々と共にエ
リコを出る時テマイの子なるバルテマイといふ瞽者路の旁に坐して乞る
四七 けるが四七ナザレのイエスなりと聞て呼り曰けるハダビデの裔イエスよ我
を恤み給へと戒めけれども愈よゝ呼りてダビデの
四八 裔よ我を恤み給へと曰けれバ四九イエス立止りて彼を召と命じけれバ人々
四九 瞽者を召て彼に曰けるハ心を安んぜよ起イエス爾を召ぬ五十瞽者ろの表衣を
五十

五一 棄たちてイエスに來れり五一イエス答て彼に曰けるハ爾われに何を爲れん
五二 と欲ふや瞽者いひけるハ主よ見なん事を欲ふ五二イエス彼に曰けるハ往な
んぢの信仰なんぢを救へり直に彼見ることを得イエスに從ひて路を行り

第十一章

一 かれら橄欖山のベテパゲとベタニヤに至りエルサレムに近ける
二 時イエス二人の弟子を遣さんとして二彼等に曰けるハ爾曹對面の村に往
かしこに入ゝ頓て人の未だ乘ざる所の繫ける驢馬の子を見べし其を解て
三 牽來れ三もし誰か爾曹に何ゆゑ然するさらバ直に其を此に遣るべし四彼等ゆきて門の外の岐路に繫ける驢馬の
四 子を見て之を解けれバ五其處に立る人々のうち或人かれらに曰けるハ此
五 驢馬の子を解て如何する乎六弟子イエスの命せし如く曰しかバ遂に許た
六 り七弟子驢馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置ければイエス
七 これに乘り八人々おほくハ其衣を路上に布あるひハ樹の枝を伐て路上に
八 布九かつ前にゆき後に從ふ人々呼り曰けるハホザナよ主の名に託て來る
九

者ハ福なり　十主の名に託て來る我儕の父なるダビデの國ハ福なり至上處
にホザナよ○十一イエス、エルサレムに至り聖殿に入て悉くみまハし時すで
に暮に及ければ十二と偕にベタニヤに出往り○十三明日彼等ベタニヤより
出し時イエス饑たり十三遙に葉ある無花果の樹を見てうの樹に何か有んと
て來しに葉の他なにも見さりき是無花果樹の時に非れバ也十四イエス此樹
に對て今よりのち永久も爾の果を食ふ人あらざれといふ弟子これを聞り
○十五彼等エルサレムに至りイエス殿に入てうの中にをる賣買する者を殿
より逐出し兌銀者の案、鴿を鬻者の椅子を倒しまたつ器具を以て殿を過
ることを許さず十七また彼等に諭て曰けるハ我室ハ萬國の人の祈禱の室と
稱らるべしと錄されたるに非や然るに爾曹ハ之を盜賊の巢と爲り十八學者
と祭司の長これを聞て如何してか、イエスを喪さんと謀しが彼を懼たり蓋
人々みな其教に駭きたれバ也○十九日くれてイエス城邑を出行り二十翌朝か
れら無果花の樹を過る時その根より盡く枯たるを見る二一ペテロ憶出てイ

エスに曰けるハラビ見よ詛し所の無花果樹ハ枯たり二三イエス答て彼等に
曰けるハ神を信せよ二三誠に我なんぢらに告ん誰にても其心に疑ふ事なく
其いふ所の言ハ必ず成べしと信じ此山に移て海に入といハゝ其言の如く
成べし二四是故に我なんぢらに告ん凡う祈禱の時うの求ふ所のものハ必ず
得べしと信せバ必ず得べし二五又なんぢら立て祈禱する時もし人を憾こと
有バ之を免せ蓋天に在す爾曹も亦その過を免されん爲なり二六
もし爾曹免さずバ天に在す爾曹の父も亦なんぢらの過を免し給ハじ○二七
彼等またエルサレムに至りイエス殿を行るとき祭司の長學者および長老
等きたりて二八彼に曰けるハ何の權威を以て此事を行や誰が此事を行べき
爲に爾に此權威を與しや二九イエス答て彼等に曰けるハ我も一言なんぢら
に問ん我に答よ然バ我なんぢらに何の權威を以て之を行といふ事を告べ
し三〇ヨハネのバプテスマハ天よりか人よりか我に答よ三一彼等たがひに論
じ曰けるハ若し天よりと云バ然バ何故かれを信せざるかと曰ん三二もし人

三 よりと云ハ彼等民を懼たる也蓋民みなヨハ子を預言者と爲に因三遂に答
一 て知ずと曰イエス答て曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語じ
第十二章 イエス譬をもて彼等に語れり或人葡萄園を樹り籬を環し酒榨を
二 ほり塔をたて農夫に租與て他の國へ往しが二期いたりけれバ葡萄園の果
を收收ん爲に僕を農夫の所に遣しけるに三農夫等これを執へ打撲きて徒
四 く返しめたり四また他の僕を彼等に遣しゝに農夫等これを石にてうち首
に傷つけ辱しめて返しむ五又ほかの者を遣しゝに之をも殺せり又ほかに
六 多く遣しゝに或ハ撲あるひハ殺したり六爰に一人の愛子ありけるが此わが
七 子ハ敬ふならんと曰て遂に其子を遣しゝに七農夫等たがひに曰けるハ此
ハ嗣子なり率これを殺さん然バ産業ハ我儕の者とならんハ乃ち執へて之
九 を殺し葡萄園の外に棄たり九然バ葡萄園の主人なにを爲べきか彼きたり
て農夫等を打滅し葡萄園を他の人に託ぶべし十工匠の棄たる石ハ屋の隅
十 の首石と成り十これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所なり
と錄されしを未だ讀ざる乎十三彼等この譬ハ己等を指て語れりと知イエス
十三 を執んとせしかども衆人を懼てイエスを去ゆけり○十三彼等イエスを其言
に由て陷いれんとしてパリサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せり
十四 遣されし者等イエスの所に來り曰けるハ師よ爾ハ眞なる者なり又誰にも
十五 偏らざる事を我儕ハ知ろハ貌に依て人を取ず誠を以て神の道を教れバ
なり貢をカイザルに納るハ宜や否や納べきか納ざる可か十五イエスろ
の實ならざるを知て彼等に曰けるハ何ぞ我を試るやデナリを携來りて我
十六 に觀よ十六かれら携來りけれバイエス彼等に曰けるハこの像と號ハ誰か答て
十七 カイザルなりと曰ふイエス曰けるハカイザルの物ハカイザルに歸し又神
の物ハ神に歸すべし彼等これを奇とせり○十八復生なしと曰なせるサドカ
十八 イの人きたりてイエスに問けるハ十九師よ我儕にモーセが書遺るにハ人の
十九 兄弟もし子なくして妻を留し死バその兄弟その妻を娶て兄弟の裔を立べ
しと二十爰に七人の兄弟ありしが長子妻をめとり子なくして死二十一第二の者

二二 これを娶また子おくして死 三第三も
二三 また然す七人みな之を娶れど子な
く終にハ此婦も死り 三復生の時かれら甦らバ此婦ハ誰の妻と爲べきか蓋
二四 七人おなじく之を娶たればや也 三四イエス答て彼等に曰けるハ爾曹ハ聖書を
二五 も神の能をも知ざるに因て謬れるならず乎 三五それ死より甦る時ハ娶ず嫁
二六 がず天にある使者等の如し 三六死し者の甦る事に就てハモーセの書棘中の
篇に神かれに語て我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりと曰たる
二七 まひしを爾曹讀ざる乎 三七神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり爾曹大に
二八 謬れり ○三八學者の一人彼等の議論を聞てイエスの善これに應しを知きた
二九 り彼に問けるハ諸誡のうち何れ首なる乎 三九イエス彼に答けるハ諸誡
三十 の首ハイスラエルよ聽け主なる我儕の神ハ即ち一の主なり 三十なんぢ心を
盡し精神を盡し意を盡し力を盡して主なる爾の神を愛すべし是誡の首なり
三一 三一第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし斯より大なる誡なし 三
學者イエスに曰けるハ善かな師よ爾神ハ即ち一にして他に神なしと曰し

三三 ハ誠なり 三三また心を盡し智慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又お
三四 のれの如く隣を愛するハ諸の燔祭と禮物よりも愈なり 三四イエス彼が道理
を知る答を見て之に曰けるハ爾神の國より遠からず此のち敢てイエスに
問者なかりき ○三五イエス殿に在て教誨を爲る時かれらに答て曰けるハ何
三六 ぞ學者ハキリストをダビデの裔といふ乎 三六夫ダビデ聖靈に感じて自いふ
三七 主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足凳となすまで我右に坐せよと
如此ダビデ自ら彼を主と稱たり然バ如何で其裔ならんや 三七多の人々喜び
三八 てイエスに聞ことを爲り ○三八イエス教をなせる時かれらに曰けるハ長き
三九四十 衣服を衣てあるき市上にて人の問安 三九會堂の高坐筵席の上座を好 四十また
寡婦の家を呑いつハりて長き祈をする學者を謹防よ彼等の審判るゝこと
四一 尤も重し ○四一イエス賽錢の箱に對て坐し人々の錢を箱に入るを見たまひ
四二 しに多の富者ハ多く投入たり 四二一人の貧き寡婦きたりてレプタ二を投入
四三 る此ハ四厘ほどに直れり 四三イエスその弟子を召て彼等に曰けるハ誠に我

なんぢらに告ん箱に投入し凡の人々よりも此貧き寡婦ハ多く投入たり四四
ろハ彼等ハ皆ろの餘れる所を以て入こ
ての所有すなハち全業を盡く入たれバ也

第十三章

一 イエス聖殿より出けれバ一人の弟子かれに曰けるハ師よ觀たま
へ此石この殿宇いかに盛んならず乎ニ
二 イエス答て曰けるハ爾曹この大な
る殿宇を見か一の石も石の上に圮れずしてハ遺じヨイエス橄欖山にて殿
三 に對ひ坐し給ひしにペテロヤコブヨハ子アンデレ竊に問けるハ四何の時
四 此事あるや又すべて此事の成ん時ハ如何なる兆あるや我儕に告たまへ五
五 イエス答て彼等に曰けるハ人に欺かれざるやう愼めよ六蓋おほくの人わ
六 が名を冒來り我はキリストなりと曰て多の人を欺くべし七爾曹戰と戰の
七 風聲を聞とき懼るゝ勿れ是等の事ハみな有べきなり然ども末期ハ未だ至
八 らず八民ハ起て民をせめ國ハ國を攻また隨在に地震あり饑饉、變亂あり是
九 等ハ苦難の始なり九爾曹みづから愼めよ蓋おんぢら集議所に付され又會

堂にて撻れ且證を爲んため我事に因て侯おより王の前に曳立らるべし
十 十而して福音ハまづ萬民に宣傳ざるを得ず十一人なんぢらを曳解さバ以前
十一 より何を言んと慮また思煩ふ勿れ惟なんぢら其とき賜ふ所の言を曰べし
十二 蓋ものいふ者ハ爾曹に非ず聖靈なり十二兄弟ハ兄弟を死に付し父ハ子を付
十三 し亦子ハろの父母に逆ひて之を死しめ十三又なんぢらハ我名に緣て凡の人
十四 に憎るべし然ど終まで忍ぶ者ハ救るゝことを得ん十四預言者ダニエルが言し
所の殘暴にくむ可ものゝ立べからざる所に立を見バ（讀者よく思べし）其
十五 時ユダヤにをる者ハ山に避れよ十五屋上にをる者ハ室に下る勿れ又物を取
十六 んとて其家に入なかれ十六田にをる者ハ其衣服を取んとて歸る勿れ十七其日
十七 にハ孕る者と乳を哺する婦ハ禍なる哉十八又なんぢら冬にぐることを免れん
十八 爲に祈れ十九其日に患難あらん此の如き患難ハ神の物を創造たまひし開闢
十九 より今に至るまで有ざりき亦後にも有じ二十もし主ろの日を減少し給ずバ
二十 一人たに救るゝ者なし然ど主の選たまへる所の選れし者の爲に其日を減

二一 少し給ふべし三其時もしキリスト此に在り彼に在と爾曹にいふ者あると
二二 も信ずる勿れ三うゐ僞キリスト僞預言者おこりて休徴と奇能を行ひ選
二三 れたる者をも欺くことを得べ欺くべけれべ也三なんぢら愼よ我預じめ爾
二四 二五 曹に盡く之を告三厥時この患難のゝち日ゐ晦く月ゐ光を失ひ三五天の星ゐ
二六 おち天の勢ひ震ふべし三六其とき人々ゐ人の子の大なる權威と榮光を以て
二七 雲の中に現れ來るを見ん三七また其とき人の子うの使者等を遣して地の極
二八 より天の極まで四方より其選れし者を集むべし三八夫なんぢら無花果樹に
二九 由て譬を學その枝すでに柔かにして葉めぐめべ夏の近を知 三九此の如く爾
三十 曹も凡て是等の事を見べ時ちかく門口に至ると知 三十われ誠に爾曹に告ん
三一 是等の事こと〴〵く成までゐ此民ゐ逝ざるべし 三一天地ゐ廢ん然ど我言ゐ
三二 廢じ 三二其日ろの時を知者ゐ惟わが父のみなり天にある使者も子も誰も知
三三 者なし ○三三此日いづれの時きたる乎を知されべ爾曹つゝしみて目を醒し
祈禱せよ 三四ろれ人の子ゐ遠行せんとして其權を僕等に委ぬ各に爲べき事

三五 を任け又閽者に怠らず守れと命じて家をさる人の如し 三五是故に爾曹も怠
三六 らずして守れ蓋家の主人あるひゐ夕あるひゐ夜半あるひゐ雞鳴時あるひ
三七 ゐ早晨に歸るかを知されべ也 三六恐くゐ不意の時きたりて爾曹が眠るを見
ん 三七われ怠らずして守れと爾曹に告るゐ即ち凡の人に告るなり

第十四章 さて逾越即ち除酵節の二日前に祭司の長と學者たち詭計を以
てイエスを執へ殺さんとし 二曰けるゐ祭の日にゐ爲べからず恐らくゐ民
の中に亂起らん ○三イエスベタニヤの癩病人シモンの家にて食し居たま
へる時ある婦蠟石の盒に價貴きナルドの香膏を盛て携來り其盒を裂りイ
エスの頭に膏を沃たり 四或人々互に怒を含いひけるゐ此膏を糜すゐ何故
ぞや 五之を鬻べ三百有奇のデナリを得て貧者に施すことを得んと此婦を言
咎む 六イエス曰けるゐ彼に係る勿れ何ぞ此婦を擾すや我に善事を行へる
也 七貧者ゐ常に爾曹と偕に在べ爾曹意に隨せて彼等を濟ることを得べ
し我ゐ常に爾曹と偕に在ず 八此婦ゐ力を盡して作り盆あらかじめ我を葬

九 る爲わが身に膏を沃しなり　九我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても
此福音を宣傳らるゝ處にゝ此婦の行し事も亦その記念の爲に言傳らるべ
十 し　十さて十二の一人なるイスカリヲテのユダイエスを付さんとて祭司の
十一 長に往しに　十一彼等これを聞て悅び銀子を予んと約せしかばユダハイエス
十二 を付さんと機を窺へり　十二除酵節の首の日すなはち逾越の羔を殺す
十三 べき日弟子イエスに曰けるハ逾越の食を何處へ往て我儕備ふべき乎　十三イ
エス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるハ京城に往さらば水を盛たる
十四 瓶を擎る人に遇べし之に從へ　十四その入ところの家の主人に師いふ我弟子
十五 と偕に逾越を食すべき客房ハ安に在やと曰　十五然れば彼陳設たる大なる樓
十六 房を爾曹に示べし我儕の爲に其處に備よ　十六弟子ゆきて京城に入しにイエ
十七 スの曰たまへる如く遇しかば逾越の備をなせり　十七日暮てイエス十二の
十八 弟子と偕に來れり　十八かれら席に就て食する時イエス曰けるハ誠に我なん
ぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし　十九彼等憂て各

二十 各イエスに言出けるハ我ある乎また他の一人も曰けるハ我なる乎　二十一イエ
二一 ス答て曰けるハ十二の中の一人われと共に手を盂に着る者是なり　二一人の
子ハ已に就て錄されたる如く逝ん然ど人の子を賣す者ハ禍なる哉その人
二二 ハ生ざりしならば幸なりし爲ん　二二かれら食する時イエスパンを取て祝し
二三 之を擘かれらに予て曰けるハ此ハ我身なり　二三また杯を取て謝し
二四 彼等に予ければ皆この杯より飲り　二四イエス曰けるハ此ハ新約の我血にし
二五 て衆の人の爲に流す所のもの也　二五我まことに爾曹に告ん今よりのち新し
二六 きものを神の國にて飲ん日までハ葡萄にて製れるものを飲じ　二六彼等歌
二七 を詠て橄欖山に往り　二七イエス彼等に曰けるハ今夜なんぢら皆われに就て
二八 礙かん盖われ牧者を擊ん其とき綿羊散べしと錄されたれば也　二八然ど我よ
みがへりて後なんぢらに先ちガリラヤに往べし　二九ペテロイエスに曰ける
二九 ハ假令みな礙くとも我ハ然らず　三〇イエス彼に曰けるハ我まことに爾に告
三〇 ん今日この夜鷄二次鳴まへに爾三次われを知ずと曰ん　三一彼また力言いひ

三二 けるハ我ハ爾と偕に死るとも爾を知ずと曰し弟子みな如此いへり三三斯て
彼等ゲッセマ子といふ所に至りイエスろの弟子に曰けるハ祈る間こゝに
坐せよ三三遂にペテロヤコブヨハ子を伴ひゆき甚だしく憂へ哀を催し三四彼
等に曰けるハ我心いたく憂て死ばかりなり爾曹こゝに待て目を醒し居三五
三六 イエス少し進行て地にふし祈り曰けるハ若かなハバ此時を去しめ給へ三六
また曰けるハアバ父よ爾に於てハ凡の事能ハざるなし此杯を我より取た
まへ然ど我が欲ふ所を成んとするに非ず爾が欲ふ所に任せ給へ三七イエス
三七 三八 來りて彼等の寢たるを見ペテロに曰けるハシモンなんぢ寢たるか一時も
目を醒し居てと能ざる乎三八誘惑に入ぬやう目を醒かつ祈うの心神ハ願な
れど肉體よわき也三九復ゆきて同言を曰て祈れり四〇返りて復彼らの寢たる
三九 四〇 を見る此ハ彼等うの目倦たるなりイエスに何を對ふ可やを知ざりき四一三
次きたりて彼等に曰けるハ今ハ寢て安め充分なり時いたれり人の子ハ罪
四一 人の手に賣さるゝ也四二起よ我儕ゆくべし我を賣す者近けり○四三斯いへる

四三 時たゞちに十二の一人なるユダ刀と棒とを携たる多の人々と共に祭司の
長學者及び長老の所より來る四四イエスを賣者かれらに號をなして曰ける
四四 四五 ハ我が接吻する者ハ其なり之を執て愼と曳去よ四五即ち來りてイエスに近
四六 四七 よりラビ、ラビと曰て接吻せり四六人々手をイエスに措て執ふ四七傍に立る
者の一人刀を拔て祭司の長の僕を擊うの耳を創り四八イエス答て彼等に曰
四八 四九 けるハ刀と棒とをもち盜賊を執る如くして我を執に來る乎四九われ日々な
んぢらと共に殿にて教しに爾曹われを執ざりき然ど此ハ聖書に應せんが
五〇 五一 爲なり五〇弟子みなイエスを離て奔去ぬ五一一少者その身にたゞ麻の夜具を
五二 蔽ひてイエスに從ひたり人が逮捕の者等これを執けれバ五二かれ麻の夜具
をすて裸にて逃去り○五三衆人イエスを祭司の長に携往けるに祭司の長長
五三 五四 老および學者等ことゞく彼の所に集れり五四ペテロ遠く離れてイエスに
從ひ祭司の長の庭の内まで入僕と共に坐して火に燠まり居り五五祭司の長
五五 および議員みなイエスを殺んとして證を求れども得ず五六多の人々イエス

五七 に妄の證を言出せども其證あハず
五八 或人々たちて妄の證を言出しけるハ
五九 かれ手を以て作たる此聖殿を毀ら三日の間に手を以て作ざる別の殿を
六十 建んと言しを我儕ハ聞り
六一 如此いひしが其證また符ず
六二 祭司の長中に立てイエスに問いひけるハ爾答る言なき乎この人々の爾に立る證據ハ如何
六三 イエス默然として何も答ざりければ祭司の長また彼に問て曰けるハ爾
六四 ハ頌べき者の子キリストなる乎
六五 イエス曰けるハ然り人の子大權の右に坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹みるべし
六六 是に於て祭司の長ハ衣を裂て曰けるハ我儕なんぞ復ほかに證據を求んや
六七 爾曹聞る所なり爾曹如何に意ふや彼等擧てイエスを死に當るべき者と擬た
六八 り或者ハ彼に唾し又その面を掩ひ拳にて擊いひけるハ預言せよ亦僕等
六九 も手の掌にて彼を批り
七十 イエスペテロ下庭に在しに祭司の長のある婢きたりて
七一 其火に燠まり居を見つら〳〵彼を視て曰けるハ爾もナザレのイエスと
七二 偕に在しペテロ肯ハずして曰けるハ我これを知ず亦なんぢが言ところ

六九 の事を識得ざるなり斯て庭門に出けれバ鷄鳴ぬ
七十 婢かれを見て傍に立る者に又いひけるハ此人もかの黨の一人なりペテロまた
七一 しらを切て傍に立る者にまたペテロに曰けるハ爾誠に彼の黨の一人なり蓋爾ハガ
七二 リラヤの人なり其方言これに合りと是に於てペテロ誓て我神の祟を受るとも爾曹が曰その人を我ハ識ざる也と曰しが
七三 此とき鷄二次鳴けれバペテロイエスの鷄二次なく前に三次我を識ずと曰んと言たまひし事を憶起し且これを思反して哭悲めり
第十五章
平旦に及び直に祭司の長長老學者たち凡の議員と共に議てイエスを繫り曳携てピラトに解せり
二 ピラト彼に問けるハ爾ハユダヤ人の王なるやイエス答けるハ爾が言る如し
三 祭司の長多端をもて彼を訟ふ
四 ピラト復イエスに問て曰けるハ何も答ざるか彼等が爾について證を立しても幾何かりそ乎
五 ピラトの奇と爲までにイエス何をも答ざりきハ偖この節筵にハ彼等が求に任せて一人の囚人を赦すの例なり
六 時にバラバと云

る者あり己と共に謀叛せし黨と同く繋れ居たりしが彼等ハうの謀叛のとき人を殺しゝ者等なりハ人々聲を揚て呼り恒例の如せん事を求りゝピラト彼等に答て曰けるハユダヤ人の王を爾曹に我が釋さん事を欲むやヿ是ゞもにバラバを釋さん事を求と唆むヿピラトまた答て彼等に曰けるハ然バユダヤ人の王と爾曹が稱る者には何を我が處ん事をなんぢら欲むやヿ彼等また叫びて之を十字架に釘よと曰ヿピラト彼等に曰けるハ彼なんの惡事を行しや彼等ます〳〵叫びて之を十字架に釘よと曰ヿピラト民の懽びを取んとしてバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘んため兵卒等これを公廳へ携ゆきヿ全營を呼集めヿ彼に紫の袍をきせ棘にて冕を編て冠しめたりヿ斯て曰けるハユダヤ人の王安かれヿまた葦を以て其首を擊かつ唾し跪きて拜しぬヿ嘲弄し畢て紫の衣をはぎ故の衣をきせて十字架に釘んとて曳往しがヿアレキサンデルとルフの父なるク

レ子のシモンと云るもの田間より來りて其處を經過りけれバ强て之にイエスの十字架を負せたりヿイエスをゴルゴダ譯バ即ち髑髏と云る所に携來りヿ沒藥を酒に和て飮せんと爲りしに之を受ざりきヿイエスを十字架に釘しのち誰が何を取んと鬮を拈てその衣服を分てりヿ朝の第九時にイエスを十字架に釘うの罪標をユダヤ人の王と書つくヿ二人の盜賊かれと共に一人ハ其右一人ハ其左に十字架に釘らるヿこれ聖書に彼ハ罪人と共に算られたりと云しに應りヿ往來の者イエスを詬り首を搖て曰けるハ噫聖殿を毀て之を三日に建る者よヿ自己を救て十字架を下よヿ祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるハ人を救て自己を救ひ能ずヿイスラエルの王キリストハ今十字架より下るべし然バ我儕見て之を信せんヿ又ともに十字架に釘られたる者等も彼を詬れりヿ第十二時よりヿ第三時に至るまで偏く地のうへ暗なりぬヿ第三時にイエス大聲に呼りエリ、エリ、ラマサバクタニと曰これを譯バ吾神わが神何ぞ我を遺たまふ乎と云るなりヿ傍ら

に立たる者のうち或人これを聞て彼ハエリヤを呼なりと曰三六一人はしり
往て海綿をとり醋を漬せ之を葦に束て彼に飲しめ曰けるハ俟エリヤ來り
三七 三八 て彼を救ふや否こゝろむべし○三七イエス大なる聲を發て氣絶三八殿の幔上
三九 より下まで裂て二と爲り三九イエスに對て立たる百夫の長かく呼り氣絶し
四十 を見て曰けるハ誠に此人ハ神の子なり○四十また遙に望たる婦ありし其
中に在し者ハマグダラのマリアおよび年少ヤコブとヨセの母なるマリア
四一 又サロメなり四一彼等ハイエスのガリラヤに居たまひし時これに從ひ事し
四二 四三 者等なり亦この他にも彼と共にエルサレムに上りし多の婦ありき○四二
是日ハ備節日にて安息日の前の日なりし故四三日暮るとき尊き議員なるア
リマタヤのヨセフと云る者きたれり此人ハ神の國を慕る者なり彼はゞか
四四 四五 らずピラトに往てイエスの屍を求たり四四ピラトイエスの已に死るを奇み
四六 百人の長を呼て彼ハ死てより時を經たるや否やを問四五百夫の長より聞て
之をしり屍をヨセフに予ふ四六ヨセフ枲布を買求め而してイエスを取下し

四七 之をうの枲布にて裹み磐に鑿たる墓におき石を墓の門に轉し置り四七マグ
ダラのマリア及ヨセの母なるマリア其屍を葬し處を見たり

第十六章

安息日過てマグダラのマリアとヤコブの母なるマリア及サロ
メ香料を買とゝのへイエスに抹んとて來れり二七日の首の日いと早く日
の出る時彼ら墓に來り三互に曰けるハ誰か我儕の爲に石を墓の門より轉
し取もの有んか是うの石はなはだ巨大なれバ也四斯て彼等目を擧れバ石
の已に轉あるを見る五墓に入しに白衣をきたる少者の右の方に坐せるを
見て駭き異めり六少者かれらに曰けるハ駭き異む勿れ爾曹ハ十字架に釘
られしナザレのイエスを尋ぬ彼ハ甦りて此に居ず彼を葬し處を觀よ七且
ゆきて其弟子とペテロに告よ彼ハ爾曹に先ちてガリラヤに往り爾曹かし
こにて彼を見べし即ち其なんぢらに言しが如しハ彼等いでゝ墓より奔れ
り且戰慄かつ駭き亦一言をも人に語ざりき是懼しが故なり○九イエス七
日の首の日よあけでろ甦りて先マグダラのマリアに現る曩にイエス彼よ

十 り七の惡鬼を逐出せり 十一イエスと共に在し者の哭哀める時に此婦きたり
て是等の事を告 十二彼等イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞しが信
せざりき 十三此後かれらの中二人の者鄉村へ往けるが路を行ときイエス變
たる貌にて彼等に現る 十四この二人の者ゆきて他の弟子等に告けれども亦
これをも信せざりき○十四又うの後十一の弟子の食しをる時に現れて彼等
が信なきと其心の頑とを責め給へり是かれらイエスの甦り給るのち其を
見し者の言ところを信せざりし故なり 十五イエス彼等に曰けるハ徧く世界
を廻て凡の人に福音を宣傳よ 十六信じてバプテスマを受る者ハ救れ信せざ
る者ハ罪に定らるゝ也 十七信ずる者には左の如き奇跡したがふべし我名に
託て惡鬼を逐出し異邦の方言をいひ 十八また蛇を操へ毒を飲とも害なく又
手を病の者に按なべ即ち愈ん○十九斯て主ハ彼等に語しのち天に擧られ神
の右に坐しぬ 二十弟子たち徧く福音を宣傳ふ主も亦かれらに力を協せ其從
ふ所の奇跡によりて道を堅うしたまへりアメン

新約全書路加傳福音書

第一章

一 我儕の中に篤く信せられたる事を始より親く見て道に役たる者の
二 我儕に傳し如く記載んと多の人々これを手に執る故に貴きテヨピロよ
三 我も原より諸の事を詳細に考究たれバ次第を爲て爾に書おくり四 爾が
敎られし所の確實を曉せんと欲り○五 ユダヤの王ヘロデの時にアビアの
班なる祭司ザカリアと云る者あり其妻ハアロンの裔にて名をエリサベツ
と云 六 共に神の前にて義人なり凡て主の誡命と禮儀を虧なく行へり七 エ
リサベツ姙なきが故に彼等に子なし又二人とも年も老ぬ八 ザカリアろの
班次に値て神の前に祭司の職を行ふ時 九 祭司の例に從ひ籤を抽て主の殿
にいり香を燒ことを得 十 香を燒ける時に衆の人々ハみな外に居て祈れり
十一 主の使者香壇の右に立てザカリアに現れしかバ 十二 ザカリア之を見て驚
懼る 十三 天使彼に曰けるハザカリアよ懼るゝ勿れ爾の祈禱すでに聞たまへ
り爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハネと名くべし 十四 爾に喜と樂

十五 あらん多の人も亦ろの生るゝに因て悦び有ん十五うれ此子主の前に大なら
十六 ん又葡萄酒と濃酒とを飲じ母の胎より生出て聖靈に充さる十六又イスラエ
十七 ルの民の多の人を主なる其神に歸す可れバ也十七彼エリヤの心と才能を以
て主の先に行ん是父の心に子を慈ハせ逆れる者を義人の智に歸せ主の爲
十八 に新なる民を備んとおり十八ザカリア天使に曰けるハ我すでに年老妻もま
十九 た年邁たれバ何に因てか此事あるを知ん十九天使こたへて曰けるハ我ハガ
ブリエルとて神の前に立者なり爾に語てこの喜の音を告ん爲に遣された
二十 れバ二十其時いたりて必ず成べき我が言を信せざるに因なんぢ瘖となりて
二一 此事の成日まで言ふこと能ハじ二一民ザカリアを俟ねて其殿の内に久を異
二二 む二二ザカリア出て言ふこと能ハざりしかバ彼等ろの殿の内にて異象を見
二三 たる事を曉たりザカリア衆人に首を以て示し竟に瘖となれり二三ろの職事
二四 の日滿けれバ家に歸りぬ二四此後ろの妻エリサベツ孕て隱をりしこと五ケ
二五 月にして二五曰けるハ主わが恥を人の中に濯せん爲に眷顧たまふ時ハ此の

二六 若く我に爲り○二六此六ケ月に當りガリラヤのナザレと名たる邑の二七ダビ
デの家のヨセフと云る人の聘定せし所の處女に神よりガブリエルといふ
二八 天使を遣されたり其處女の名ハマリアと云り二八天使この處女に來いひけ
二九 るハ慶し惠るゝ者よ主なんぢと偕に在す爾ハ女の中にて福なる者なり二九
三十 處女ろの言を訝こと此の問安ハ如何なる事ぞと思へり三十天使いひけるハマリ
三一 アよ懼るゝ勿れ爾ハ神より惠を得たり三一爾孕て男子を生ん其名をイエ
三二 スと名べし三二かれ大なる者と爲て至上者の子と稱られん又主たる神ろの
三三 先祖ダビデ王の位を彼に予れバ三三ヤコブの家を窮なく支配すべく且ろの
三四 國終ること有ざるべし三四マリア天使に曰けるハ我いまだ夫に適ざるに何
三五 にして此事ある可や三五天使こたへて曰けるハ聖靈なんぢに臨る至上者の
大能なんぢを庇ん是故に爾が生ところの聖なる者ハ神の子と稱らるべし
三六 三六それ爾の親戚エリサベツ彼も年老て男子を孕り素姙なき者と稱れたり
しが今すでに孕て六ケ月になりぬ三七蓋神に於ハ能ざる事なけれバ也三八マ

三九 リア曰けるハ我ハ是主の使女なり爾の言る如く我に應かし天使つひに彼
四十 を去り○三九當時マリア起て亟かに山地なるユダの邑に往四十ザカリアの家
四一 に入てエリサベツに問安したりしに四一エリサベツマリアの問安を聞しか
四二 バ其胎孕腹の内にて跳動たりエリサベツ聖靈に感され四二大聲に呼いひけ
四三 るハ女の中にて爾ハ福なる者なり亦孕る所の者も福なり四三わが主の母わ
四四 れに來われ何に由てか此事を得し四四夫なんぢの問安の聲わが耳に入しと
四五 き胎孕よろこびて我腹の中に跳れり四五主の言を信せし者ハ福なり蓋主の
四六四七 語たまひし如く必ず成べければ也四六マリア曰けるハ我心主を崇め四七我靈
四八 ハわが救主なる神を喜ぶ四八是うの使女の卑微をも眷顧たまふが故なり今
四九 よりのち萬世までも我を福なる者と稱べし四九それ權能を有たまへる者わ
五十 れに大なる事を成り其名ハ聖五十その矜恤ハ世々かれを畏るゝ者に及べん
五一 五一其臂の力を發して心の驕る者を散し五二權柄ある者を位より下し卑賤者
五二 を擧五三飢たる者を美食に飽せ富る者を徒く返らせ給ふ五四アブラハムと其

五五 子孫を窮なく憐むことを忘ずして五五其僕イスラエルを扶持たまへり是わ
五六 れらの先祖に言たまひしが如ふり五六マリアエリサベツと居しこと三ヶ月
五七五八 ばかりにて己が家に歸たりき○五七偖エリサベツ産期みちて男子を生り五八
五九 うの隣里の者また親戚のもの主がエリサベツに大なる慈悲を垂たまひし
六十 事を聞て偕に喜べり五九第八日に及けれバ彼等子に割禮せんとて來り其父
六一 の名に因ザカリアと名んとせしに六十其母こたへて然ず可らずヨハ子と名
六二 べしと曰けれバ六一彼等エリサベツに對て曰けるハ爾が親戚の中にハ此名
六三 を名し者なし六二彼ら遂に其父に頭にて示いかに名んと欲か問たるに六三ザ
六四 カリア寫字板を請て其名ハヨハ子と書しるしふかバ皆奇めり六四ザカリア
六五 の口たゞちに啓て舌とけ言ひて神を頌たり六五ろの隣里に住たる人々みな
六六 懼ぬ又すべて此事を徧くユダヤの山地に傳播されしかバ六六聞もの皆これ
六七 を心に藏て此子ハ如何なる者ぞか成んと曰り偖主の手かれと共に在き
六八 父ザカリア聖靈に感され預言して曰けるハ六八主なるイスラエルの神ハ讃

六九 美べき哉これ其民を眷顧て贖を爲し六九我儕の爲に拯救の角を其僕ダビデ
七十 の家に挺たまへり也ギ古より聖なる預言者の口を以て言たまひしが如し
七一 七一即ち我儕を敵また凡て我儕を惡む者の手より脫す救なり七三此ハ仁惠を
七三 我儕の先祖に施し又その聖約を忘じと也七三是我儕の先祖アブラハムに立
七四 七五 し所の誓にして七四我儕を敵の手より救ひ我儕の生涯を七五聖と義に於て懼
七六 なく主に事しめんと也七六嬰兒よ爾ハ至上者の預言者と稱られん蓋なんぢ
七七 主に先ちて行うの路を備んと爲べなり七七神の深き矜恤に賴その罪を赦さ
七八 七九 れて救れん事を其民に示さんため也七八その矜恤に賴て旭の光上より七九幽
暗と死蔭に住る者を照し我儕の足を導きて平康なる路に至せんとて臨め
八十 り○八十斯て嬰兒ハ漸成長し精神ますます強健にしてイスラエルに顯る
の日まで野に居り

二 第二章 當時天下の戸籍を查る詔命カイザルアウグストより出たりニこの
戸籍調查ハクレニオスリヤを管理し時の初次に行ハれたりし也三人みな
戸籍に登んとて各ろの故邑に歸たり四ヨセフもダビデの宗族又血統なれ
ハ戸籍に登んとて五已に孕る其聘定の妻マリアと共にガリラヤの邑ナザ
レより出てユダヤに上りダビデの邑ベテレヘムといふ所に至れりハ此に
居て產期滿けれハ七豕子を生ろれを布に裹て槽に臥せたり此ハ客舍に彼
等の居處なかりしが故なり○八近傍に羊を牧もの有けるが野に居て夜間
その群を守たりしに九主の天使きたりて主の榮光かれらを環照けれハ牧
者おはいに懼たり十天使これに曰けるハ懼ることなかれわれ萬民に關りた
る大なる喜の音を爾曹に告べし十一それ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に
救主うまれ給へり是主たるキリストなり十二爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥
たるを見ん是其徵なり十三俄ち衆の天軍あらハれ天使と共に神を讚美て曰
ける十四天上ところにハ榮光神にあれ地にハ平安人にハ恩澤あれ十五天使
等かれらを離て天に行けれハ羊を牧もの互に曰けるハ率ベテレヘムにゆ
き主の示し給へる其有し事を見んとて十六急ぎ至りマリアとヨセフまた槽

に臥たる嬰兒に尋遇り七 既に見て此子につき天使の語し事を傳播けれバ
十八 十八聞者みな羊を牧者の語る事を奇みたり十九 マリアハ凡て是等の言を心に
二十 記て思想しぬ二十 羊を牧者うの見聞せる所みな己に語し所の如なるにより
二一 神を崇かつ讃美て返れり○二一 子に割禮を行ふべき八日の日いたりけれバ
二二 其いまだ胎に寓ざる先に天の使者の稱し如く名をイエスと稱たり○二二 モ
ーセの律法に循ひて潔の日滿けれバ嬰兒を携て主に獻んが爲エルサレム
二三 に上れり二三 是主の例に初に生るゝ男子ハ主の聖者と稱べしと錄されたる
二四 が如し二四 また主の律法に斑鳩一雙あるひハ雛鴿二を献ふべしと言るに
二五 循ひて祭を行ん爲なり○二五 偖エルサレムにシメオンと云る人あり斯人ハ
義かつ敬ありてイスラエルの民の慰められん事を俟る者なり聖靈うの上
二六 に臨り二六 また主のキリストを見ざる間ハ死じと聖靈にて示さる二七 かれ聖
二七 靈に感じて神殿に入り兩親うの子イエスを律法の例に循ひて行ハんと携
來りしに二八 シメオン嬰兒を抱き神を讃美いひけるハ二九 主よ今その言に從

三十 ひて僕を安然に世をバ逝せ給ふ三一 我目すでに萬民の前に設たまひし救を
三一 見たり三二 これ異邦人を照さん光なり三二 また爾の民イスラエルの榮なり三三
三二 うの父母ハ嬰兒に就て語る事を奇をれり三四 又シメオン彼等を祝て其母マ
三三 リアに曰けるハ此嬰兒ハイスラエルの多の人の頽て且興らん事と誹毀を
三四 受ん其號に立らる三五 これ衆の心の念の露れんが爲なり又劍なんぢが心を
三五 も刺透べし○三六 アセルの支派パヌエルの女にアンナと云る預言者あり彼
三六 ハ甚老邁なり其處女なりしとき夫に適て七年ともに居たり三七 この老女ハ
三七 齡おほよそ八十四歳の嫠なりしが殿を離ず夜も晝も斷食と祈禱を爲て神
三八 に事ふ三八 此時この老女も側に立て主を讃美し亦エルサレムにて贖を望る
三九 凡の人に此子の事を語れり○三九 主の律法に循ひて悉く竟けれバガリラヤ
四十 の己が邑ナザレに歸たり四十 其子やゝ成長して精神强健に知慧みち神の恩
四一 寵その上に臨り○四一 偖ろの兩親毎年に逾越の節筵にエルサレムに往しが
四二 四三 彼の十二歳の時また節筵の例に循ひエルサレムに上れり四三 節筵の日卒

て返往けるに其子イエスエルサレムに留りぬ然るにヨセフと母これを知
四四 ず同行人の中に在ならんと意ひ一日程を行て親戚知音の者に尋しが
四五 遇さりければ彼を尋てエルサレムに返り
四六 三日ののち殿にて遇かれ教師
四七 の中に坐し且聽かつ問るたり
四八 聞者みな其知慧と其應對とを奇とせり
四九 兩親これを見て駭き母かれに曰けるハ子よ何ぞ我儕に如此行たるや爾の
五〇 父と我と憂て爾を尋たり
五一 イエス答けるハ何故われを尋るや我ハ我父の
五二 事を務べきを知さる乎
三 然ど兩親ハ其語る事を曉ず
四 イエスこれと共に
五 下りナザレに歸て彼等に順ひ居りし其母これらの凡の事を心に藏ぬ
六 イエス知慧も齡も彌增り神と人とに益愛せられたり

第三章

一 テベリオカイザル在位の十五年ポンテオピラトハユダヤの方伯と
二 なりヘロデハガリラヤの分封の君と爲りし其兄弟ピリポハイツリア及びテ
三 ラコニテの地の分封の君となりルサニアハアビレ子の分封の君と爲り
四 アンナスとカヤバ祭司の長と爲たりし時ザカリアの子ヨハ子野に居て神
五 の命令を受ニヨルダンの邊なる四方の地に來り罪の赦を得させんが爲た
六 悔改のバプテスマを宣傳たり
七 預言者イザヤの言を載たる書に野に呼る
八 人の聲あり云く主の道を備ふの徑を直せよ
九 諸の谷ハ埋られ諸の山崗ハ
十 夷られ屈曲たるハ直く崎嶇ハ易せられ
十一 と有が如しセ玆にバプテスマを受んとて來れる衆人にヨハ子曰けるハ嗚
十二 呼蝮蛇の裔よ誰が爾曹に來らんとする怒を避べき事を告しやハ然ば悔改
十三 に符る果を結べし爾曹心に我儕が先祖にアブラハムの有と意こと勿れ爾
十四 曹に告ん神ハ能ここの石をアブラハムの子と爲しむべしと今や斧を樹の根
十五 に置る故に凡て善果を結ざる樹ハ伐れて火に投入らるふ也
十六 衆人ヨハ子
十七 に問て曰けるハ然ば我儕何を爲べきや
十八 平ニ答て曰けるハ二の衣服を有る者
十九 ハ有ぬ者に分與よ食物を有る者も
二十 亦然すべし
二十一 稅吏もバプテスマを受ん
二十二 とて來り曰けるハ師よ我儕ハ何を
二十三 爲べきかニ答て曰けるハ定例の稅銀の
二十四 外に多く取ること勿れ兵卒も亦問て曰けるハ我儕ハ何を爲べきやニ答て曰

ける人を強暴し或ひ誣訴ることを爲なかれ得ところの給料を以て足り
と爲べし○十五民懷望し時なれバ衆人みな心にヨハ子をキリストなるや否
と忖度たりしに十六ヨハ子之に答いひけるハ我ハ水を以てバプテスマを爾
曹に施へり我より能力ある者きたらん我ハ其履帶を解にも足ず彼ハ聖靈
と火を以てバプテスマを爾曹に施ん十七手にハ箕を持て其禾場を潔め麥
ハ斂て其藏にいれ殻ハ滅ざる火にて燒べし十八ヨハ子また多端を以て勸を
なし福音を民に宣傳たり十九さて分封の君なるヘロデろの兄弟ピリポの妻
ヘロデヤの事および行ふ所の凡の惡事をヨハ子に責られけれバ二十猶も惡
事を加へヨハ子を獄に囚たり二十一民みなバプテスマを受けるにイエスも亦
バプテスマを受て祈るとき天ひらけ二十二聖靈鴿の如き狀にて其上に降ぬ又
天より聲あり云なんぢハ我愛子わが喜ぶ所の者なり○二十三時にイエス年お
ほよう三十にして福音を宣始む人々にヨセフの子と意れ給へりヨセフの
父ハヘリ二十四其父ハマツタテ其父ハレビ其父ハメルキ其父ハヤンナ其父ハ

ヨセフ二十五其父ハマタテヤ其父ハアモス其父ハナオム其父ハエスリ其父ハ
ナゲムガイ二十六其父ハマアツ其父ハマタテヤ其父ハセメイ其父ハヨセフ其父
ハユダ二十七其父ハヨハンナ其父ハレサ其父ハゼルバベル其父ハシアテル其
父ハネリ二十八其父ハメルキ其父ハアツデ其父ハコサム其父ハエルモダム其
父ハエル二十九其父ハヨセ其父ハエリエゼル其父ハヨオレム其父ハマツタテ
其父ハレビ三十其父ハシメオン其父ハユダ其父ハヨセフ其父ハヨナン其父
ハエリアキム三十一其父ハメレア其父ハマイナン其父ハマタツタ其父ハナタ
ン其父ハダビデ三十二其父ハエツサイ其父ハオベデ其父ハボアズ其父ハサル
モン其父ハナアソン三十三其父ハアミナダブ其父ハアラム其父ハエスロン其
父ハパレス其父ハユダ三十四其父ハヤコブ其父ハイサク其父ハアブラハム其
父ハテラ其父ハナコル三十五其父ハラガウ其父ハパレク其父ハ
ヘベル其父ハサラ三十六其父ハカイナン其父ハアパザデ其父ハセム其父ハノ
ア其父ハラメク三十七其父ハマトサラ其父ハヤレド其父ハマレ

レヨル其父ハカイナン其父ハセラ其父ハエノス其父ハセツ其父ハアダム其父ハ即
ち神の子なり

第四章　偖イエス聖靈に感されてヨルダンより歸り靈に導かれ野に適て二
四十日惡魔に試らる此諸日なにをも食ず四十日畢てのち餓たり三惡魔か
れに曰けるハ爾もし神の子ならバ此石に命じてパンと爲せよ四イエス答
けるハ人ハパンのみにて生る者に非ず唯神の凡の言に由と錄されたり五
惡魔また彼を高山に携ゆき一瞬間に天下の萬國を示して六曰けるハ此す
べての權威と榮華を爾に予ん我てれを委任れハ我が欲む者に之を予ふ
べし七故れ若わが前に拜跪ハ悉く爾の屬とならん八イエス答けるハサタ
ンよ我後に退け獨主たる爾の神に拜跪これのみ事べしと錄されたり九
惡魔またイエスをエルサレムに携ゆき聖殿の頂に立て曰けるハ爾もし神
の子ならバ此より己が身を投よ十うハ神うめ使者等に命じて爾を護せん
十一爾が足の石に觸さるやう彼等手にて扶べしと錄さゐ十二イエス答けるハ

主たる爾の神を試む可らずと云おけり十三惡魔この誘試みな畢て暫く彼を
離たり十四イエス聖靈の能を以てガリラヤに歸しに其聲名あまねく四方の
地に廣がりぬ十五斯て彼等が會堂にて敎を爲凡ての人々に榮を得たり○十六
ろの長育し所なるナザレに來り常例の如く安息日に會堂に入て聖書を讀
んとて立ければ十七預言者イザヤの書を予しにイエス其書を展て斯錄れた
る所を見出せり十八主の靈われに在す故に貧者に福音を宣傳ん事を我て膏
を沃て任じ心の傷る者を醫し又囚人に釋ん事と瞽者に見させん事を示し
又壓制らるゝ者を縱ち十九主の禧年を宣播んが爲に我を遣せり二十イエス
書を捲ろの役者に予へて坐しけれバ會堂に在者みな目を注て視なせり二
二イエス彼等に曰けるハ此錄れたる事ハ今日なんぢらの前に應り三衆かれ
を稱讃ろの口より出る所の恩惠の言を奇み曰けるハ此ハヨセフの子に非
ずや二三イエス又彼等に曰けるハ爾曹かならず我に諺を引て醫者みづからを醫
せ我儕が聞し所のカペナウムにて行し事を自己の家鄉なる此土にも行べ

しと云ん　二四また曰けるハ我まことに爾曹に告ん預言者ハの家郷にてハ敬
二五 重るゝ者に非ず　二五われ誠を以て爾曹に告んエリヤの時三年と六ケ月天と
ちて偏地おほいなる饑饉なりし其時イスラエルの中に多の癩ありしかど
二六 エリヤハ其一人へたに遣されず只シドンなるサレパタの一人の癩に遣
されたり　二七また預言者エリシヤの時にイスラエルの中に多の癩者あり
しかど其一人だに潔られず惟スリヤのナーマンのみ潔られたり　二八會堂に
在る者これを聞て大に憤ほり　二九起てイエスを邑の外に出し投下さんとて
其邑の建たる山の崖にまで曳往りしが　三〇早然にイエス彼等の中を徑行て去ぬ　三一
ガリラヤのカペナウンと云る邑に至りて安息日でとに衆人を敎しに　三二ハ
の言權威有けれバ衆人ハの敎に驚けり　三三會堂に汚たる鬼の靈に憑れた
る人あり大聲に喊叫いひけるハ　三四噫ナザレのイエスよ我儕なんぢと何の
與あらんや爾きたりて我儕を喪すか我なんぢハ誰なる乎を知すなハち神
の聖なる者なり　三五イエス之を責ぞ曰けるハ聲を出よ悪

鬼つひに其人を衆の中に仆し傷すして出　三六衆人みな駭き互に語いひける
ハ權威と能力を有て汚たる鬼に命せしかバ出去り是いかなる道ぞや　三七是
に於てイエスの聲名徧く此四方の地に揚りぬ　三八イエス會堂を出てシモ
ンの家に入しにシモンの妻母おもき熱病を患ひ居たりき　三九衆人之が爲に
イエスに求けれバ其傍に立て熱を斥しに熱退けり婦直に起て彼等に事
たり　四〇日の入とき各樣の病を患たる者をもてる人々皆其をイエスに携來
けれバ一々其上に手を按て醫せり　四一惡鬼も亦多の人々を出さり喊叫て爾
ハ神の子キリストハ也と云り然に之を斥て言ふことを容ざりき惡鬼其キリス
トなるを識バ也　四二明旦イエス出て人なき處に往けれバ衆人尋來て其離去
ことを止む　四三イエス曰けるハ我又他の郷村にも神の國の福音を宣傳さるを
得ず蓋我之が爲に遣されバ也　四四斯てガリラヤの諸會堂にて道を宣傳たり

第五章　衆人神の道を聽んとて擠擁ける時　一イエスゲ子サレの湖の濱に立て
二磯に二艘の舟あるを見る漁の者ハ舟を離て網を洗をれり　三其一艘ハシ

モンの舟をりしがイエス之にのり請て岸より少許はなれ坐して舟中より
四 衆人を教ふ 四 教竟てシモンに曰けるは澳へいで網を下して漁れ 五 シモン
五 答けるは師よわれら終夜はたらきしかど所得なかりき然ど爾の言に從ひ
六 て網を下さん 六 既に下して魚を圍ること甚だ多く網さけかゝりけれバ 七 い
七 ま一艘なる舟の侶を招きて來り助あをめしに彼等が來し時其魚二艘の舟に
八 物て沈んばかりなりし 八 シモンペテロ之を見てイエスの足下に俯て主よ
九 我を離たまへ我は罪人なりと曰り 九 是シモンおよび偕に在し者みな漁し
十 所の魚の夥しきに驚ける也 十 シモンの侶なるゼベダイの子ヤコブとヨハ
十一 ネも亦然りイエスシモンに曰けるは懼るゝ勿れなんぢ今より人を獲べし
十二 彼等舟を岸に寄おき一切を捨てイエスに從へり 十二 イエスある邑に居
十三 しとき身こと〴〵く癩病を患る者ありイエスを見て俯伏ねがひ曰けるは
十四 主もし聖旨にかなふときは我を潔なし得べし 十三 イエス手を伸彼に按て我
十五 心にかなへり潔なれと曰けれバ直に癩病愈たり 十四 イエス彼を戒めて曰け

十五 るは人に告ること勿れたゞ往て己を祭司に示かつ潔られし爲にモーセが
十六 命ぜし如く獻物をなし證據を彼等に爲よ 十五 然ども イエスの聲名ます〳〵
十七 揚りて許多の人々或は教を聽んとし或は病を醫れんとて集り來れり 十六 イ
エス常に人なき處に退きて祈り給ひき 〇 十七 一日イエス教を爲せる時パリ
サイの人と教法師がリヤの諸鄉ユダヤエルサレムより來て此に坐しぬ
彼等の病を醫すべき主の能顯れたり 十八 或人癱瘋を患たる者を牀に載て
十九 舁來り之を家に入イエスの前に置んと欲ども 十九 群集にて舁入べき方なか
りければ屋上に升り瓦を取除て其人を牀のまゝ衆人の中へ縋下しイエス
二十 の前に置り 二十 イエスその信あるを見て患者に人よ爾の罪赦さると曰けれ
二一 バ 二一 學者とパリサイの人々心に思出けるは此褻瀆ことを言者は誰ぞ神よ
二二 り外に誰か罪を赦すことを得ん 二二 イエスその意を知て答いひけるは何を
二三 爾曹心の中に論ずるや 二三 爾の罪赦さるといふと起て行と言と孰か易き言
二四 れ人の子地にて罪をゆるすの權威あることを爾曹に知せんとて遂に癱

瘋の人に我なんぢに告おきて牀をとり家に歸れと曰けれバ二五ゥの人衆の
前にて直に起て臥居たる牀をとり神を崇て已が家に歸ぬ二六衆人みな駭き
て神を崇かつ大に畏懼て曰けるハ我儕今日奇異なる事を見たり○二七此後
イエス出てレビと云る稅吏の稅關に坐し居けるを見て我に從へと曰けれ
バ二八レビ一切を捨おき起て從へり二九レビ已の家にてイエスの爲に豐盛な
る筵を設しに稅吏また他の人々も共に筵に坐したる者多かりけれバ三十其
所の學者とパリサイの人イエスの弟子に怨言曰けるハ爾曹稅吏また罪あ
る人々と共に飲食するハ何故ぞ三一イエス答て曰けるハ康強なる者ハ醫者
の助を需ず惟病ある者これを需む三二わが來るハ義人を召く爲に非ず罪あ
る人を召て悔改させんが爲なり三三彼等イエスに曰けるハヨハ子の弟子ハ
屢斷食また祈禱をなすパリサイの弟子も亦然り然るに爾の弟子飲こと食
ことを爲すハ何故ぞ三四イエス曰けるハ新郎の朋友うの新郎と一處に居間
ハ之に斷食なさしむる事を得んや豈將來新郎と別るゝ日いたらん其日に

ハ斷食すべきなり三六譬を以て曰けるハ人新衣を裁取て舊衣を補ふ者あら
ば若然せバ新衣も壞ひ且新より取たる布ハ舊ものと合ず三七また新
酒を舊革袋に盛る者あらば若しかせバ新酒ハ其袋をはりさき漏出かつ
革袋も壞るべし三八新酒ハ新革袋に盛べき者ぞ斯てこう兩ながら存な
れ三九舊酒を飲て立刻に新酒を欲者ハ有し是舊ハ尤も好と云バなり

第六章　邇越節の二日ののち首の安息日イエス麥の畑を徑行しに其弟子麥
の穗を摘これを手にて搏くらひしかバ二或パリサイの人かれらに曰ける
ハ爾曹安息日に行まじき事を行ハ何故ぞ三イエス答て曰けるハダビデお
よび從に在し者の饑しとき行たる事を未た讀ざる乎四卽ち神の殿に入た
ゞ祭司の外ハ食まじき供物のパンを取て食かつ從に在し者にも予たり五
又曰けるハ人の子ハ安息日にも主たる也○六また一の安息日にイエス會
堂に入て敎ふ此に右の手枯たる人ありけれバ七學者とパリサイの人イエ
スこれを安息日に醫ならんかと窺ひぬ蓋かれを訴んと欲バなりゥイエス

九 うの意を知て手なへたる人に起て中に立よと曰けれバ其人おきて立り九
イエス曰けるハ我なんぢらに問んず安息日に善を行と惡を行と又生を救ると殺と孰をか行べき十遂に衆人を環視て其人に手を伸よと曰けれバ彼ら
十一 の如せしに手すなハち愈て他の手の如くなれり十一彼等大に怒て如何にイ
十二 エスを處んと互に議あへり十二當時イエス祈禱の爲に山に往て終夜神に
十三 祈れり十三夜明てイエス弟子を呼ろの中より十二人を選て之を使徒と稱く
十四 即ちペテロと名給ひしシモンろの兄弟アンデレ及ヤコブとヨハネピ
十五 リポとバルトロマイ十五マタイとトマスアルパイの子なるヤコブとゼロテ
十六 と云るシモン十六ヤコブの兄弟のユダとイスカリオテのユダなり此ユダハ
十七 イエスを賣たる者なり十七イエス是等と共に下て平かなる地に立しに許多
十八 の弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサレム及ツロシドンの海邊
より來集りて或ハ其教を聽んとし或ハ病を醫されん事を冀へり十八又惡鬼
十九 に難されたる者あり咸く醫されたり十九衆みなイエスに捫らんとせり是能

二十 力の其身より出て彼等を咸く醫せバ也〇二十イエス目を擧弟子を見て曰け
二一 るハ爾曹貧者ハ福なり神の國ハ即ち爾曹の所有なれバ也二一爾曹いま餓たる者ハ福なり飽ことを得べければ也爾曹いま哭者ハ福なり笑ことを得
二二 べければ也二二人の子の爲に人なんぢらを憎また絕け詈り爾曹の名を惡しとして棄なバ爾曹福なり二三其日にハ欣び踊れ爾曹天に於て賞賜大なれバ
二三 也ろの先祖が預言者に行たりしも是の如し二四爾曹富者ハ禍なる哉すでに
二四 安樂を受バなり二五爾曹飽者ハ禍なるかな餓んとすればなり爾曹いま笑者
二五 ハ禍なるかな哀み哭んと爲バなり二六凡の人なんぢらを譽なバ爾曹禍なる
二六 哉ろの先祖が僞の預言者に行たりしも是の如し二七我に聽ところの爾曹に
二七 告ん其仇を愛し爾曹を憎者を善し二八詛者を祝し虐遇者の爲に祈禱せよ二九
二八 人なんぢの頰の右方を擊バ亦左方の頰を向よ爾の外服を奪バ裏衣をも禁
二九 されニ十凡て爾に求バ之に與へ爾の物を奪バ其をまた索る勿れ三十己人に施
三十 れんとする事ハ亦人にも其如く施よ三一己を愛する者を愛するハ何の賞賜

三三 あらんや惡人にても己を愛する者を愛する也 三三己に善を行ふ者に善を行ふ
三四 何の賞賜あらんや惡人もまた是の如く行なり 三四爾曹償ふ事を得んとおも
ふ人に借ゐ何の賞賜あらんや惡人も其全數を償を得んとて亦惡人に借
三五 なり 三五爾曹仇を愛し又善をなし何をも望まずして借與よ然ば其賞賜ゐ大な
り且至上者の子と爲ん夫上者ゐ恩を忘るゝ者及び不善者にまで慈愛を施
三六三七 せば也 三六是故に爾曹の父の憐憫の如く亦憐憫を爲べし 三七人を議するな勿
れ然ば爾曹も議せられず人を罪するな勿れ然ば爾曹も罪せられず人を恕
三八 せ然ば爾曹も恕さるべし 三八人に與よ然ば爾曹も予らるべし彼等量を嘉し
て搖いれ撼いれ溢るゝ迄にして爾曹の懷に納ん爾曹量る所の其量にて亦
三九 人に量るべし〇 三九又た譬を彼等に曰けるゐ瞽ゐ瞽の相者をなし得るや相
四十 共に溝壑に陷らざらん乎 四十弟子ゐ其師に踰ず凡り全備なる者ゐ其師の如
四一 なるべし 四一なんぢ兄弟の目にある物屑を見て己の目にある梁木を知さる
何ぞや 四二如何で己の目にある梁木を見ずして兄弟に對ひ兄弟よ爾の目

十三 にある物屑を我に取せよと云ことを得んや 四三僞善者よ先おのれの目より梁
四三 木をとれ然ば兄弟の目にある物屑を取ること明かに見べし 四三又た惡果を結
四四 ゐ善樹に非ず又善果を結ゐ惡樹に非ず 四四凡の樹ゐ其の果に因て識る荊棘、
四五 より無花果を採ず亦蒺藜より葡萄を採じ 四五善人ゐ心の善庫より善を出し
四六 惡人ゐ心の惡庫より惡を出す蓋心に充るより口に言るゝ也 四六爾曹わが言
四七 ことを行ゐずして何ぞ我を主よ主よと稱るや 四七凡て我に就り我言を聞て
四八 行者を譬て爾曹に示さん 四八其人ゐ家を建るに土を深く堀て基礎を磐上に
置るが如し洪水のとき横流ゐの家を衝とも動すこと能ず是基礎を磐上に
四九 置ばなり 四九聽て行ゐざる者ゐ基礎なく家を土の上に建たる人の如し横流
これを衝ときゐ其家たゞちに傾れ其頽壞ること甚たし

第七章

一 イエス此すべての言を民に教畢てカペナウンに入しに 二ある百夫
二 の長ゐの愛する僕やみて死ばかりなりければ 三イエスの事を聞ユダヤの
三 長老等を遣して來り僕を助け給んことを求り 四彼等イエスに就り切に勸

五 いひける い此事を求る人い善人なり 五我民を愛し我儕の爲に會堂を建た
六 り 六イエス彼等と共に往て既や其家に近けるとき百夫の長朋友を遣して
七 曰せける い主よ自己を勞動こと勿れ我が家裏に入奉るい憚多し 七故に我
八 なんぢの前に出も亦憚あり第一言を發たまへ我僕い愈ん 八蓋われ人の
九 權威の下に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と命ば往かれに來と
命ば來る我僕に之を行と命ば即ち行が故なり 九イエス聞て之を奇み從へ
る人々を顧て曰けるい我なんぢらに告んイスラエルの中にても未た斯る
十 篤信に遇さりき 十遣されたる者家に歸て病たりし僕を見ば已に全快をな
せり ○ 十一翌日イエスナインと云る邑に往けるに許多の弟子および許多の
十一 人々も共に往り 十一邑の門に近づきしとき舁出さるゝ死人あり其母い嫠に
十二 て此い獨の子なり邑の人々多これに伴ふ 十二主嫠を見て憫み與なかれと曰
十三 て 十三近より其櫬に手を按ければ舁る者ども止れりイエス曰けるい少者よ
十四 我なんぢに命おさよ 十四死たる者起て且言ひ始むイエス之を其母に予せり
十五

十六 十六衆人みな懼て神を崇いひけるい大なる預言者われらの中に興る神ろの
十七 民を眷顧たまへり 十七イエスの此聲名ユダヤの全國また徧く四方に揚り
十八 十九 ぬ ○ 十八ヨハネの弟子すべて是等の事を彼に告ければ 十九ヨハネ二人の弟子
二十 を召て言遣しけるい來るべき者い爾なるか亦われら他に俟べき乎 二十その
二人イエスに來り曰けるいバプテスマのヨハネ我儕を爾に遣して言しむ
二一 來るべき者い爾なるか亦われら他に俟べきか 二一此時イエス多の疾あるひ
二二 い病および惡鬼に憑たる者を醫し且おほくの瞽に見ることを賜たり 二二イ
エス彼等に答曰けるい爾曹が見ところ聞ところをヨハネに往て告よ夫瞽
二三 者い見跛者い行み癩者い潔り聾者い聞せらる 二三凡ろ我爲に躓かざる者い福なり 二四ヨハネの使者さりし後イエ
スヨハネの事を衆人に曰けるい何を見んとて野に出しや風に動さるゝ葦
二四 なる乎 二五然ば爾曹なにを見んとて出しや美服を衣たる人なるか文繍
二五 を衣て奢る者い王の宮に在 二六然ば何を見んとて出しや預言者なるか然わ
二六

二七 れ爾曹に告ん是預言者よりも卓越たる者なり 二七ろれ爾に先ちて道を備る
二八 我使者を爾の前に遣んと錄されたるハ即ち此なり 二八我なんぢらに告ん婦
の生る者のうち未だバプテスマのヨハ子より大なる預言者ハ無されど神
二九 の國の至微者も彼よりハ大なる也 二九ヨハ子に聞る庶民また稅吏ハ其バプ
三〇 テスマを受て神を義とせり 三〇パリサイの人また敎法師ハ其バプテスマを
三一 受ず自ら暴ひて神の旨に背たり 三一然バ此代の人々を何に比へ又何に譬ん
三二 や 三二童子市に坐し互に呼て我儕笛ふけども爾曹踊ず悲歌をすれども爾曹
三三 哭ずと云に似たり 三三蓋バプテスマのヨハ子來りてパンをも食ず酒をも飲
三四 されバ惡鬼に憑たる者なりと爾曹いへり 三四人の子きたりて食ふ事をし飲
三五 ことを爲バまた食を嗜み酒を好の人稅吏罪ある人の友なりと爾曹いへり
三六 三五然ど智慧ハ智慧の子に義と爲らる○ 三六或パリサイの人イエスを請て共
三七 に食せん事を願けれバイエスパリサイの人の家に入て食に就り 三七邑の中
に惡行を爲る婦ありけるがイエスがパリサイの人の家に坐せるを知て 蠟

三八 石の盒に香膏を携來り 三八イエスの後に立ち足下に哭き淚にて其足を濡し
三九 首の髮をもて之を拭かつ其足に口を接また香膏を之に抹り 三九イエスを請
たるパリサイの人これを見て心の中に謂けるハ此人もし預言者ならバ捫
四〇 し者ハ誰なる乎又如何なる婦なる乎を知ん此婦ハ惡行を爲る者なり 四〇イ
エス之に答て曰けるハシモン我なんぢに言事あり答けるハ師よ言たまへ
四一 四一イエス曰けるハ或債主に二人の負債人ありて一人ハ金五百一人ハ五十
四二 を負しに 四二償方なかりけれバ債主この二人を免たり然バ二人の者ろの債
四三 主を愛すること孰か多き我に聞せよ 四三シモン答けるハ我おもふに免るゝ
四四 事の多き者ならんイエス曰けるハ爾が意ところ違ざる也 四四遂に婦を顧み
てシモンに曰けるハ此婦を見か我なんぢの家に入に爾ハ我足に水を給ず
四五 此婦ハ淚にて我足を濡し首の髮をもて拭り 四五爾ハ我に口を接ず此婦ハ我
四六 こゝに入し時より我足に口を接て已ず 四六爾ハ我首に膏を抹ず此婦ハ我足
に香膏を抹り 四七是故に我なんぢに言ん此婦の多の罪ハ赦れたり之に因て

其愛も亦多なり赦るゝこと少き者ゝ其愛も亦少し 四八 是に於て其婦に曰けるゝ爾の罪赦さる 四九 同に坐せる者ども心の中に謂けるゝ此人ゝ是何人なれば罪をも赦す乎 五十 イエス婦に曰けるゝ爾の信爾を救り安然にして往

第八章 此後イエス郷邑を周遊て神の國の福音を宣傳ふ十二の弟子も偕に

二 從ひぬ ニ また前に惡鬼を患たりし者病を痊れたる婦等も從ひたり即ち七

三 の惡鬼を逐出れたるマグダラと稱マリア 三 又ヘロデの家令クーザの妻ヨ

ハンナ又スザンナ此ほか多の婦ありて皆ゝの所有を以てイエスに供事たり き〇 四 衆の人々諸邑より出てイエスの所に集りければ 四 譬をもて曰り 五

種まく者種を播んとて出ぬ播るとき路旁に遺し種あり踐踏られ且天空の

六 鳥これを食へり 六 また石上に遺し種あり崩出て槁たり是潤なきが故なり

七 また棘の中に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り 八 また沃壤に遺し種

八 あり生出て實を結べること百倍せり是を言畢て呼りけるゝ耳ありて聽ゆる者ゝ聽べし 九 其弟子とふて曰けるゝ是いかなる譬ぞ 十 答けるゝ神の國

の奥義を爾曹に知ことを賜ぞ他の者にゝ 十一 譬を以てす此ゝ視ても見ず聽

十一 ても悟ざる爲なり 十一 夫この譬の釋種ゝ神の道なり 十二 路の旁に遺しゝ聽し

十二 後惡魔の爲に其心より道を奪るゝ者なり 彼ゝ人の信じて救れんことを恐

十三 る 十三 石上に遺しゝ聽とき喜びて道を受れども根なければ信ずること暫の

十四 み患難に遇時ゝ道に背く者なり 十四 棘の中に遺しゝ聽て往この世の諸慮と

十五 貨財と宴樂とに蔽れて實ざる者なり 十五 沃壤に遺しゝ正かつ善心にて道を

十六 聽これを守り忍て實を結ぶ者なり〇 十六 燈を燃し器にて之を覆ひ或ゝ床下

十七 におく者なし入來る者の其光を見ん爲に臺の上に置べし 十七 隱て現れざる

十八 者なく藏て知れず露出ざる者なし 十八 是故に爾曹聽ことを愼め有る者ゝなは予られ無有者ゝ有りと意ふ所の物をも奪るべし〇 十九 此時イエスの母と

十九 兄弟きたりけれど群集に因て近くこと能ざりしかば 二十 或人これをイエス

二十 に告て曰けるゝ爾が母と兄弟なんぢに遇んとて外に立り 二一 イエス答て曰

二一 けるゝ神の道を聽て之を行ふ者ゝ乃ち我母わが兄弟なり〇 二二 一日イエス

弟子と共に舟に登て彼等に湖の前岸へ渡べしと曰けれバ即ち漕出せり 三三
舟の走る時イエス寢たり颶風湖に吹下し舟に水滿んとして危かりしかバ 三四
弟子きたりてイエスを醒し曰けるハ師よ師よ我儕亡なんとすイエス起て風と浪とを斥めけれバ止て平穩になりぬ 三五
所に在や彼等駭き且奇みて互に曰けるハ此ハ何人なるぞや風と水とに命ぜしかバ亦順へり 三六
時ある一人邑より出てイエスに遇この者ハ久く惡鬼に憑れ衣をきず家に住ず惟塚にのみ居たりき 三七
けるハ至上神の子イエスよ我なんぢと何の與あらんや爾に求我を苦むる勿れ 三八
と勿れ 三九 此惡鬼に人より出よとイエスが命じたるに因てなり彼の憑れたる事すでに久し鏈また桎梏にて繫守ども其を打碎き惡鬼の爲に野に逐ぬ 四十
三一 イエス之に問て曰けるハ爾が名ハ何と稱や答けるハレギヨン是おほくの惡鬼の入たるが故なり 四一 惡鬼イエスに求けるハ命じて底なき所に往しむる勿れ 四二 此に多の豕の群山に草を食るたりしが彼等ハの豕に入んことを許せと求けれバ之を許せり 四三 惡鬼ハの人より出て豕に入しかバ其群はげしく馳下り山坡より湖に落て溺る 四四 牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村に告たり 四五 衆人ハの有し事を見んとて出てイエスの所に來れバ惡鬼の離れし人衣を着たしかなる心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり 四六 惡鬼に憑れたりし人の救れし狀を見たる者ハこの事を彼等に告けれバ 四七 ガダラ四方の多の衆庶イエスに此を去んことを求り是大に懼しが故なりイエス舟に登て返ぬ 四八 惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求けるにイエス之を去しめて 四九 家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告よと曰けれバ遂に去てイエスの己に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり○ 五十 イエス返たるとき衆人みな佇望て之を喜び接ふ 五一 ヤイロと云る人あり此ハ會堂の宰なり年おほよそ十二歲なる一人の女ありて瀕死なりけれバ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求りイエスの往とき

む勿れ 五二 此に多の豕の群山に草を食るたりしが彼等ハの豕に入んことを許せと求けれバ之を許せり 五三 惡鬼ハの人より出て豕に入しかバ其群はげしく馳下り山坡より湖に落て溺る 五四 牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村に告たり 五五 衆人ハの有し事を見んとて出てイエスの所に來れバ惡鬼の離れし人衣を着たしかなる心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり 五六 惡鬼に憑れたりし人の救れし狀を見たる者ハこの事を彼等に告けれバ 五七 ガダラ四方の多の衆庶イエスに此を去んことを求り是大に懼しが故なりイエス舟に登て返ぬ 五八 惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求けるにイエス之を去しめて 五九 家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告よと曰けれバ遂に去てイエスの己に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり○ 六十 イエス返たるとき衆人みな佇望て之を喜び接ふ 六一 ヤイロと云る人あり此ハ會堂の宰なり年おほよそ十二歲なる一人の女ありて瀕死なりけれバ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求りイエスの往とき

四三 衆人これに擁あへり 三婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲に其業を盡く耗
四四 しけれど誰にも痊れ得ざりしが 四イエスの後に來て其衣の裾に捫けれバ
四五 直に血の漏こと止ぬ 四五イエス曰けるハ我に捫る者ハ誰ぞや衆人ハみな特
に捫れる者なしと曰りペテロおよび偕に在者ども曰けるハ師よ衆人なん
四六 ぢに擁擠せまるに我に捫る者ハ誰ぞと曰たまふ乎 四六イエス曰けるハ我に
四七 捫る者あり能力の我身より出るを覺れバ也 四七婦みづから隱せぬを知
四八 をのゝき來て前に伏さゝりし故と其たゞちに愈たるとを衆人の前に告 四八
四九 イエス曰けるハ女よ心安かれ爾の信なんぢを救へり安然にして往 四九かく
言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰けるハ爾が女はや死たり師
五十 を勞わす勿れ 五十イエス之をきゝ答て宰に曰けるハ懼るゝ勿たゞ信ぜよ女
五一 ハ痊べし 五一イエス家に入にペテロヤコブヨハネおよび女の父母の外たれ
五二 にも偕に入ことを許さゞりき 五二衆人みな女の爲に哭哀しかバイエス曰け
五三 るハ哭なかれ死たるに非ず寢たる耳 五三彼等ゝの死たるを知バ之を笑へり

五四 五五 五六 五四イエス人々を皆いたして女の手をとり女起よと呼曰けれバ 五五其魂かへ
りて忽ち起たりイエス命じて食を予しかバ 五六父母ハ駭異ぬイエスこの行
しことを人に告るを戒め給へり

第九章 一 イエス十二の弟子を召集め凡の惡鬼を出し病を醫す能力と權威を
二 賜たりニまた神の國を宣傳へ病者を醫せん爲に 三彼等を遣さんとして曰
三 けるハ路資に何をも携ざれ杖また旅囊糧金二の衣をも帶こと勿 四何の
四 家に入とも其處に居りて亦其處より去 五爾曹を不接者あらバ其邑を出る
五 時かれらに證のため足より塵を拂へ 六弟子いでゝ遍く諸鄉にゆき福音を
六 宣傳かつ病を醫せり 七分封の君ヘロデイエスの行し諸事を聞て惑り或
七 人ハ之をヨハネの甦れるなりと言 八ハ又ある人ハエリヤの現れたる也といひ
八 又ある人ハ古の預言者の一人甦れる也と言バなり 九ヘロデ曰けるハ我ヨ
九 ハネの首を斬り斯る事の聞ゆる者ハ誰なるかヘロデ之を見んと欲ふ 十
十 使徒たち歸來りて其行しことをイエスに告イエス彼等を携ひて潛にベテ

十一 サイダと云る邑の邊なる野に退きしに 十一衆人しりて從けれバ之を接て神
十二 の國の事を語かつ醫を求る者を醫せり ○十二日昃くとき十二の弟子きたり
てイエスに曰けるハ此ハ野なれバ衆人を去せ四圍の鄉村へゆきて宿をと
十三 り食を覓る事を爲たまへ 十三イエス曰けるハ爾曹これに食を予へよ答ける
ハ我儕たゞ五のパンと二の魚ある耳この許多の人の爲に往て買に非され
十四 バ別に食物ハなし 十四此に居し男おほよそ五千人なりきイエス弟子に曰け
十五 るハ衆人を五十人づゝ列べ坐せしめよ 十五弟子ろの如く行て彼等をみな坐
十六 せしめたり 十六イエス五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ祝して之をわり弟
十七 子に予て衆の前に陳しむ 十七みな食飽て餘の屑を十二の筐に拾たり ○十八イ
十八 エス衆の在ざりしとき祈禱したりしが弟子も偕に居りイエス之に問て
十九 曰けるハ衆人ハ我を言て誰と爲か 十九答て曰けるハバプテスマのヨハ子或
二十 ハエリヤ或ハ古の預言者の一人の甦れる也と 二十イエス曰けるハ爾曹ハ我
を言て誰と爲かペテロ答けるハ神のキリストなり 二一イエス彼等を戒て此

二二 事を何人にも告る勿れと命じたり 二二又曰けるハ人の子かならず多の苦を
二三 受て長老祭司の長學者どもに棄られ且殺され第三日に甦るべし 二三又イエ
ス衆人に曰けるハ若われに從ハんと欲ふ者ハ己に克て日々ろの十字架を
二四 負て我に從へ 二四己ろの生命を保全せんと欲者ハ之を喪ひ我ために生命を喪
二五 ふ者ハ之を保全すべし 二五人もし全世界を利するとも自己を喪ひ自ら亡な
二六 バ何の益あらん乎 二六我と我道を恥る者をバ人の子も亦おのが榮光と父と
二七 聖使の榮光をもて來る時これを恥べし 二七われ誠に爾曹に告ん此に立者の
二八 中に神の國を見までハ死ざる者ありと ○二八此事を言けるのち八日バかり過
てイエスペテロヨハ子ヤコブを携ひ祈禱せんとて山に登れり 二九祈れる
二九 時に其顏の貌つねと異り其衣服白く輝きぬ 三十二人の人ありて之と言へり
三十 即ちモーセとエリヤなり 三一榮光の中に現れて三イエスのエルサレムにて既
三一 や世を逝んとする事を語る 三二ペテロおよび偕に在し者等いたく寢たりし
三二 が已に醒てイエスの榮光また偕に立る二人を見たり 三三この二人のイエス

と別るゝ時ペテロイエスに曰けるゝ師よ此に居ゝ善われらに三の廬を建
三四 せ給へ一ゝ爾のため一ゝモーセのため一ゝエリヤの爲にせん此ゝ其言と
三五 ころを知ざりし也 三五かく言るとき雲きたりて彼等を蓋へり其雲に入しと
三六 き弟子たち懼ぬ 三六聲雲より出て曰けるゝ此ゝ我愛子なり之に聽べし 三六聲
寂たれゞ惟イエス一人を見たり弟子たち口を緘て見たりし事を當時ゝ誰
三七 にも告ざりき〇 三七翌日山より下りけれゞ許多の人々イエスを迎ふ 三七其中
三八 の或一人よゞゝりて曰けるゝ師よ願くゝ我子を眷顧たまへ此ゝ我獨子な
三九 るに 三九惡鬼の爲に憑れてゝ忽然さけび泡をふき拘攣られて傷み離るゝこと
四十 と實に難し 四十我これを逐出す事を爾の弟子に求しかど能ざりき 四一イエス
四一 答て曰けるゝ噫信なき悖逆世なる哉われ爾曹の中に爾曹を忍て幾何時あ
四二 らんや爾が子を此に携來れ 四二來ゞ惡鬼かれを傾跌て拘攣ぬイエス汚たる
四三 鬼を斥て其子を醫し父に予へたり 四三衆人みな神の大なる能を駭きイエス
の行し事を異める時にイエス弟子に曰けるゝ 四四此言を爾曹耳に藏めよ夫

四五 人の子ゝ人の手に付されん 四五彼等この言を悟ざりし悟るやう隱された
四六 る也彼等もまた懼て此事を問ざりき〇 四六弟子等のうち互に誰か大ならん
四七 との爭論ありけれゞ 四七イエス其心の念を知て孩子をとり側にたてゝ 四八彼
四八 等に曰けるゝ我名の爲に此孩子を接る者ゝ即ち我を接るなり我を接る者
四九 ゝ我を遣しゝ者を接るなり凡て爾曹がうち最も小者ぞ是大ならん 四九ヨハ
子答て曰けるゝ師よ爾の名に托て鬼を逐出せる者を見たりしが我儕と共
五十 に從ゝざる故これを禁たり 五十イエス曰けるゝ禁ること勿れ我儕に敵抗さ
五一 る者ゝ我儕に屬者なり〇 五一イエス天に升るの期いたりけれゞエルサレム
五二 に往ことを確定めたり 五二使者等を先に遣しけれゞ彼等ゆきてイエスに備
んが爲サマリヤ人の鄉に入しに 五三鄉人うのエルサレムに向行さまなるが
五三 故にイエスを納ざりき 五四弟子のヤコブヨハネ此事を見て曰けるゝ主よ我
五四 儕エリヤの行し如く天より火を召降し彼等を滅さんとす可か 五五イエス顧
五五 みて之を責め曰けるゝ爾曹の心如何なる乎を自ら知ざるなり 五六人の子ゝ

五七 人の命を滅す爲に來ず惟これを救ふ爲なり遂に他の鄉に往り○五七路を行
五八 とき或人イエスに曰けるゝ主よ何處に往たまふとも我從ゝん五八イエス彼
五九 に曰けるゝ狐ゝ穴あり天空の鳥ゝ巢あり然ども人の子ゝ枕する所なし五九
六〇 又ある一人に曰けるゝ我に從へ彼いひけるゝ主よ先ゆきて父を葬る事を
六一 我に容せ六〇イエス曰けるゝ死たる者に其死し者を葬らせ爾ゝ往て神の國
六二 を宣よ六一又ある一人曰けるゝ主よ爾に從ゝん先ゆきて家人に別を告ること
を容せ六二イエス曰けるゝ手を犂に着て後を顧る者ゝ神の國に當さる者也

第十章

此後主また七十人を立て之を兩個づゝに分ち自ら至んとする諸邑
諸地へ前に遣さんとて二彼等に曰けるゝ收穫ゝ多く工人ゝ少し故にうの
稼主に工人を收穫所に遣んことを求べし三往れ爾曹を遣すゝ羔を狼の
なかに入るが如し四囊また旅袋履をも携ること勿れ途にて人に問候をもす
る勿れ五人の家に入ゞ先其家の安全ならん事を求へ六若こゝに安全の子
あらゞ爾曹が祈る安全ゝ其家に留らん若しからずゞ其祈る安全ゝ其家に

七 に歸べし七其家に居りて供る所のものゝ之を飲食せよ蓋工人の其工錢
八 を獲ゝ宜なれゞなり家より家に移ることを爲されゝ八邑に入んに接る者あ
九 らゞ其なんぢらの前に供る者を食せよ九邑の中なる病の者を醫せ亦衆人
十 に神の國ゝ爾曹に近けりと曰へ十もし邑に入んに接る者なくゞ衢に出て曰
十一 我儕に沾たる爾が邑の塵ゝ爾曹に對て拂ん然ども神の國の近けるを知
十二 れ爾曹に告ん其日いたらばソドムの刑罰ゝ此邑よりも却て易かるべ
十三 し十三あゝ禍なる哉ベテサイダよ爾曹の中に行し異
能を若ツロとシドンに行しならゞ彼等ゝ早く麻をき灰を蒙り坐して悔改
しなるべし十四審判にゝツロとシドンの刑罰ゝ爾曹よりも却て易からん十五
十六 已に天にまで擧られたるカペナウンよ又陰府に落さるべし十六爾曹に聽者
ゝ我に聽なり爾曹を棄る者ゝ我を棄るなり我を棄る者ゝ我を遣しゝ者を
十七 棄るなり○十七七十人喜び返りて曰けるゝ主よ惡鬼さへも爾の名に因て我
儕に服せり十八イエス曰けるゝわれ電の如くサタンの天より隕るを見し十九

我なんぢらに蛇蠍を踐まん敵の諸の權を制ふる權威を賜たり必ず爾曹を
二十 害ふ者なし 二十一然ぞも惡鬼の爾曹に服しふ事い喜とする勿れ爾曹が名の天
に錄されしを喜とすべし 二十二此時イエス心に喜びて曰けるい天地の主なる
父よ此事を智者と達者とに隱して赤子に顯し給ふを謝す父よ然ぅれ是の
二三 如きい意旨に適るなり 二三父い萬物を我に賜ふ父の外に子い誰なると識者
なく亦子および子の顯す所の者の外に父い誰なると識者なし 二四イエス弟
二四 子を顧て竊に曰けるい爾曹が見ところの事を見るうの目い福あり 二五我あ
んぢらに告ん多の預言者および王も爾曹が見ところの事を見んとせしか
二五 ども見ず爾曹が聞ところの事を聞んとせしかども聞ざりき○ 二六爰に一個
の教法師あり起て彼を試み曰けるい師よ我なにを爲ば永生を受べき乎
二六 イエス曰けるい律法に錄されしい何ぞ爾いかに讀か 二七答て曰けるい爾
心を盡し精神を盡し力を盡し意を盡して主なる爾の神を愛すべし亦己の
如く隣を愛すべし 二八イエス曰けるい爾の答へ然り之を行いて生べし 二九彼

みづからを罪なき者に爲んとて 三十イエスに曰けるい我鄰とい誰なる乎 三一イ
エス答て曰けるいある人エルサレムよりエリコに下るとき强盜に遇り强
盜うの衣服を剝取て之を打擲き瀕死になして去ぬ 三二斯る時に或祭司この
路より下しが之を見過にして行り 三三又レビの人も此に至り進み見て同く
過行り 三四或サマリアの人旅して此に來り之を見て憫み 三五近よりて油と酒
を其傷に沃これを裹て己が驢馬にのせ旅邸に携往て介抱せり 三五次日いづ
るとき銀二枚を出し館主に予て此人を介抱せよ費もし增ば我かへりの時
なんぢに償ふべしと曰り 三六然ば此三人のうち誰か强盜に遇し者の隣なる
と爾意ふや 三七彼いひけるい其人を矜恤たる者なりイエス曰けるい爾も往
て其でとく爲よ○ 三八かれら路を行る時イエス一鄉に入けれバマルタと云
る婦これを迎て自己の家に入ぬ 三九マリアと云る者ありイエス
の足下に坐りて其道を聽り 四十マルタ供給のこと多して心いりみだれイエ
スに近よりて曰けるい主よ我が妹姊われを一人遺て勞動しむるを何とも

四一 意ざるか彼に命じて我を助しめよ 四二 イエス答て曰けるハマルタよマルタ
四二 よ爾多端により思慮ひて心勞せり 四三 然ど無て叶ふまじき者ハ一なりマリ
四二 アハ既に善業を撰たり此ハ彼より奪べからざる者なり

第十一章

一 イエス某所にて祈禱しけるに畢しとき一人の弟子いひけるハ主
一 よヨハネ其弟子に教し如く我儕にも禱ることを教たまへ 二 イエス曰ける
二 ハ祈る時ハ斯いふべし天に在す我儕の父よ願くハ聖名を尊崇させ給へ爾
三 國を臨らせ給へ爾旨の天に成でとく地にも成せ給へ 三 我儕の日用の糧を
四 毎日に與たまへ 四 我儕に罪を犯す者を凡て免せバ我儕の罪をも免し給へ
五六 我儕を試探に遇せず惡より拯出し給へ 五六 また彼等に曰けるハ爾曹の中も
七 し或人夜半に其友へ往て友よ我が朋輩旅より來しに供べき物なきゆゑ三
八 のパンを借よと曰んに 七 內に居もの答て我を煩はす勿れ既や門ハ閉われ
と共に兒曹も牀に在バ起て予ること能ずといふ者あらん乎 八 我なんぢら
に告ん其友なるにより起て予ざれ雖ひたすら請が故に其需に從ひ起て予

九 べし 九 我なんぢらに告ん求よ然バ予られ尋よ然バあひ門を叩よ然バ啓る
十 ることを得ん 十 蓋すべて求る者ハ得たづぬる者ハあひ門を叩者ハ啓るれ
十一 バ也 十一 爾曹のうち父たる者誰か其子のパンを求んに石を予んや魚を求ん
十二十三 に其に代て蛇を予んや 十二 卵を求んに蠍を予んや 十三 然バ爾曹惡者ながら善
賜をうの兒曹に予るを知ましてや天に在す爾曹の父ハ求る者に聖靈を予ざ
十四 らん乎○ 十四 イエス瘖啞なる惡鬼を逐出しけるに惡鬼いでゝ瘖啞ものいひ
十五 しかバ人々駭けり 十五 其中なる者の曰けるハ彼ハ惡鬼の王ベルゼブルに藉
十六 て惡鬼を逐出せる也 十六 又ある人々イエスを試んとて天よりの休徵を求た
十七 り 十七 イエスうの意を知て曰けるハ互に分爭ふ國ハ亡び互に分爭ふ家ハ傾
十八 るゝ也 十八 若サタンも自ら分爭ハゞ其國いかで立んや其なんぢら我を言て
ベルゼブルに藉て惡鬼を逐出すとせり 十九 若われベルゼブルに藉て惡鬼を
十九 逐出さバ爾曹の子弟ハ誰に藉て惡鬼を逐出すや夫かれらハ爾曹の裁判人
と爲べし 二十 若われ神の指をもて惡鬼を逐出たるならバ神の國ハ既や爾曹
二十

二二 に來れり三勇者鎧を擐て邸を守るときい其所有安全なり三もし之より勇
二三 者きたりて其に勝ときい其恃とせる鎧を奪ひ且贓物を分べし三我と偕な
二四 らざる者い我に叛き我と偕に斂ざる者い散すなり○三四惡鬼人より出て旱
二五 たる所をめぐり安を求れども得ずして曰けるい我出し家に歸らん三五已に
二六 來しに掃淨り飾れるを見三六遂に往て己よりも惡き七の惡鬼を携へ入て此
二七 に居べ其人の後の患狀い前より更に惡かるべし三七この話を言るとき群集
二八 の中より一婦聲を揚て曰けるい爾を孕し腹と爾の吮し乳い福なり三八イエ
二九 ス答けるい然されど神の道を聽て其を守る者の福にい若ず○三九人々擁集
三〇 れる時イエス曰けるい今の世い惡し奇跡を求るとも預言者ヨナの奇跡の
三一 外に奇跡い予られじ三〇蓋ヨナがニ子べの人に奇跡と爲し如く人の子い今
三二 の世に奇跡と爲べし三一南方の女王審判の日に共に起て今の世の人の罪を
三三 斷めん彼い地の極よりソロモンの智慧を聽んとて來れり夫ソロモンより
三四 大なる者こゝに在三二ニ子べの人審判の日に共に起て今の世の人の罪を斷

三三 めん彼等いヨナの勸言に因て悔改めたり夫ヨナより大なる者こゝに在三三
三四 燈を燃て隱たる處あるひい升の下におく者あし入來る者の其光を見ん爲
三五 に燭臺の上に置ぬり三四身の燈いヨ目なり爾の目瞭かならば全身あかるく其
三六 目眊ければ爾の身も暗し三五故に爾にある光の暗らぬやう愼めよ三六もし爾
の全身光明にして暗所なくば燈の輝きて爾を照す如く全く光明なるべし
三七 ○三七イエス語れるとき或パリサイの人共に食せん事を請ければ入て食に
三八 就り三八その食する前に洗ことを爲ざりしを見てパリサイの人異めり三九主
三九 これに曰けるい爾曹パリサイの人椀と盤の外を潔す然ど爾曹内は貪慾と
四〇 惡にて充り四〇無知なる者よ外を造し者いまた内をも造ざりし乎四一なんぢ
四一 ら所有物を以て施せ然ば爾曹の爲に凡の物い潔れる也四一禍なる哉なんぢ
四二 らパリサイの人よ薄荷茴香および凡の野菜十分の一を取納て義と神を愛
四三 することを廢これ行ふべき事なり彼も亦廢べからざる者なり四二禍なる哉
四四 なんぢらパリサイの人よ會堂の高座市上の問安を好めり四三禍なる哉うれ